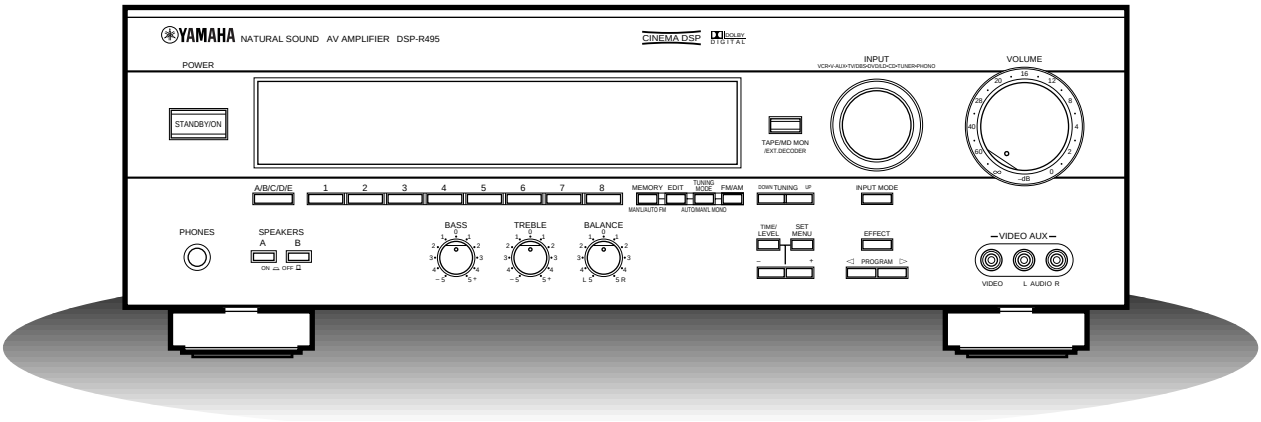
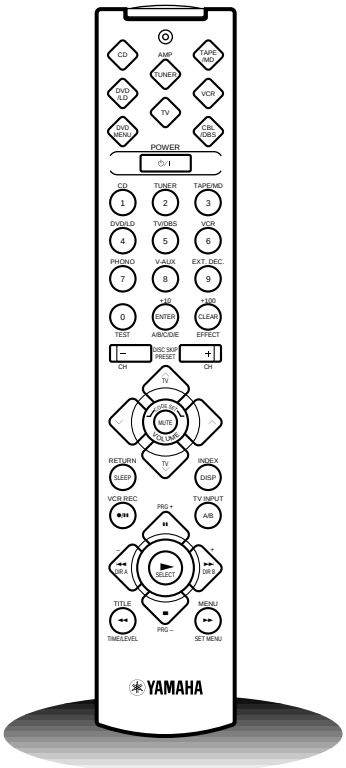
YAMAHA

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-R495

取扱説明書





このたびは、YAMAHA AVアンプDSP-R495をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。
DSP-R495の優れた性能を充分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくためにも、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に保管してください。

保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、販売店名、購入日などがありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。

◆ご使用の前に必ずお読みください◆

安全上のご注意（安全に正しくお使いいただくために）

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。
● この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

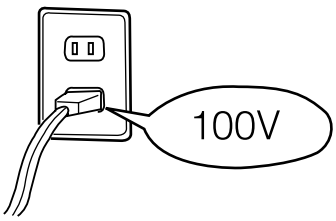
分解禁止
⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告

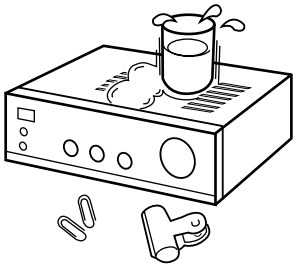
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源電圧交流100V以外の電圧で使用しない



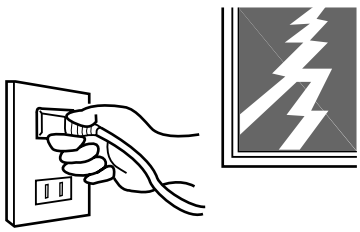
火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。

水を入れたり、ぬらさない



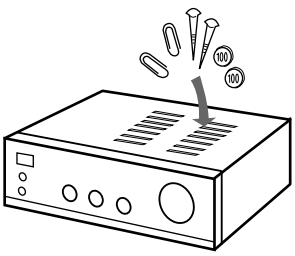
火災・感電の原因となります。
本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。

雷が鳴っているときは、アンテナ線や電源プラグに触れない



感電の原因となります。

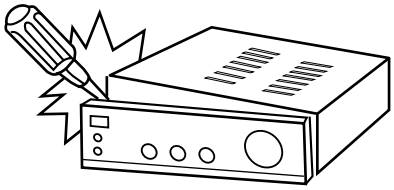
通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落し込んだりしない



火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

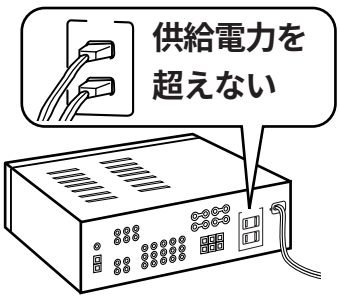
分解・改造を絶対しない（キャビネットをはずすことも含む）

分解禁止



火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。

供給電力を超える消費電力の機器を、電源供給コンセントに接続しない



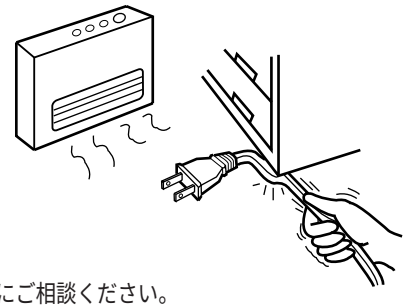
火災の原因となります。
接続機器の消費電力の合計が本機背面に表示されている供給電力を超えないようにしてください。また、供給電力内であっても電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具、ヘアドライヤー、電子レンジなど）は接続しないでください。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源コード・プラグを破損するようなことをしない

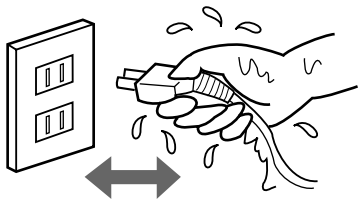
(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる・ねじる、引っぱる、束ねる、重いものをのせるなどしない)



火災・感電の原因となります。

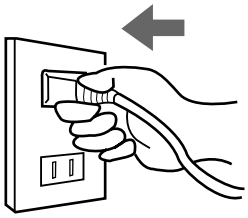
- コードやプラグの修理は販売店にご相談ください。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしない



感電の原因となります。

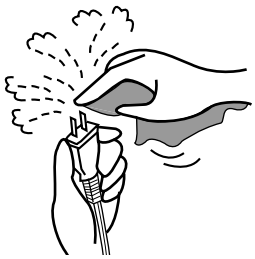
電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 抜くときは必ずプラグを持ち、コードを引っぱらないでください。
- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使わないでください。

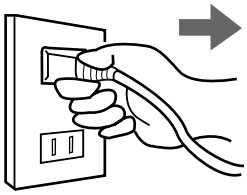
電源プラグのほこりなどは定期的にとる



プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

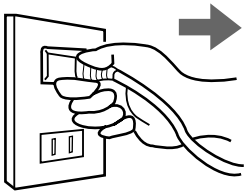
- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く



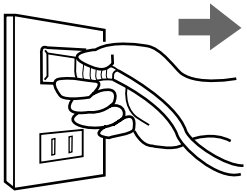
販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

煙が出たり変なにおいや音がしたら、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜く
また、電源プラグの抜き差しがしやすいコンセントに接続する



そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

落としたりして本機を損傷した場合は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜く

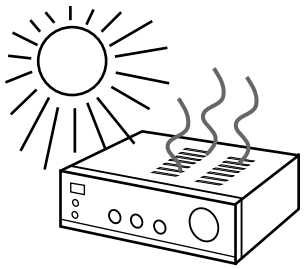


そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

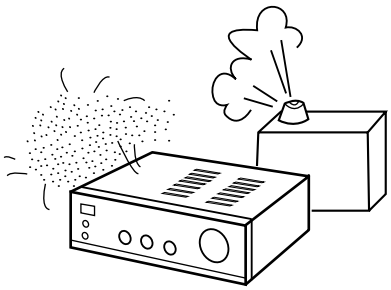
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に置かない



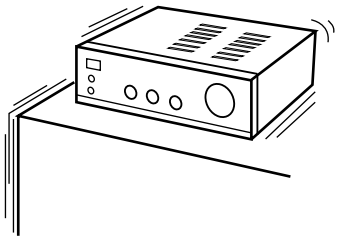
キャビネットや部品に悪い影響を与えたり、内部の温度が上昇し、火災の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に置かない



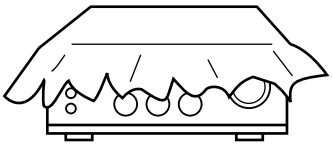
火災・感電の原因となります。

振動のある場所、ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない



落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。

通風孔をふさがない



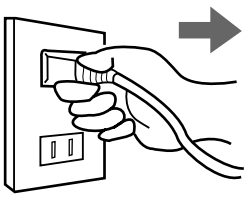
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となりますので、次の点に注意してください。

- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置かないでください。
- 本機を押し入れ、本箱など風通しの悪い狭い所に押し込まないでください。

放熱をよくするために他の機器との間は少し離して置く

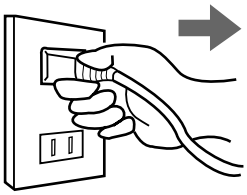
火災・故障の原因となります。ラックなどに入れるときは、本機の天面から10cm以上、背面から10cm以上のすきまを開けてください。

各機器を接続する場合は電源プラグを抜き、説明に従って接続する



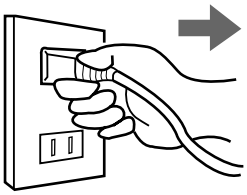
各々の機器の取扱説明書をよく読み、接続には指定のコードを使用してください。

移動するときは電源スイッチを切り、必ず電源プラグを抜き、外部の接続コードを外す



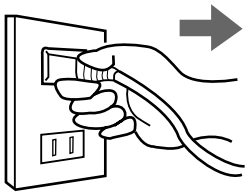
コードが傷つくと火災・感電の原因となります。

お手入れの際は、安全のため電源プラグを抜く



感電の原因となります。

長期間使わないときは、必ず電源プラグを抜く

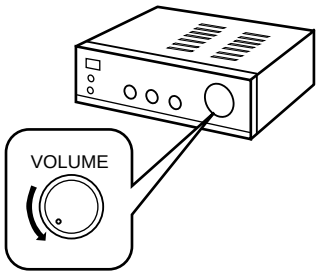


火災の原因となります。

⚠ 注意

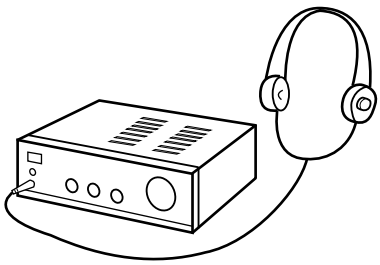
この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠ 電源を入れる前には音量を最小にする



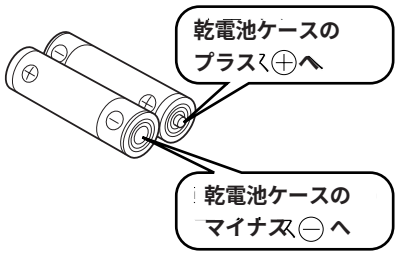
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となります。

⊘ ヘッドホンを使うときは、音量を上げすぎない



大きな音で聞くと、聴力障害などの原因となります。

⚠ 付属のリモコンに電池を挿入する場合、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖)通りに入れる

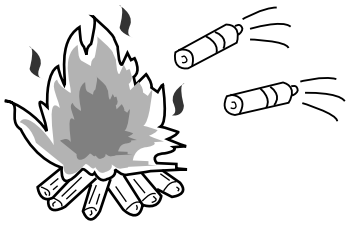


間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

⊘ 指定以外の乾電池は使用しない

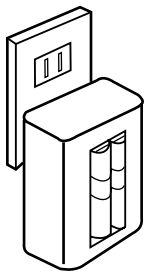
また、種類の違う乾電池、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となります。

⊘ 乾電池はショート、分解、加熱、火に入れるなどしない



発熱、液もれ、破裂などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⊘ 乾電池は充電しない



液もれ、破損などを起こし、けが、やけどの原因になります。

⚠ アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。

⚠ 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。

本機の内部にほこりがたまったまま長い間掃除しないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

- **本機は音楽や映画などを再生する目的で設計されております。従って信号発生器やテストディスクの信号などを再生しますと、本機の故障の原因となるばかりではなく、スピーカーをいためる原因となることがあります。**
- **デジタルオーディオインターフェース規格は民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなくスピーカーをいためる原因となることがあります。**

特長

ドルビーデジタル対応

DSP-R495は、最新のシアターサウンド“ドルビーデジタル”を家庭で楽しめるドルビーデジタルデコーダーを搭載、DSP（デジタルサウンドフィールドプロセッサー）と組み合わされた各種音場で楽しめます。

豊富な音場プログラムを搭載

大規模音場処理のキーデバイスとして、YSS-908-Fを搭載しました。YSS-908-Fはヤマハ独自のCINEMA-DSP処理に必要な機能を内蔵しており、デジタルドルビープロ・ロジックデコーダ及び、高度なDSP音場処理をワンチップで実現しています。最新のドルビーサラウンド映画からモノラルの名画まで、またコンサート、ディスコ等の幅広いソフトを多彩な音場効果で楽しめます。

オールディスクリート構成の高音質パワーアンプを搭載

YSS-908-Fの搭載により高度な音場処理を実現しながら実装体積を大幅に縮小できました。DSP-R495の内部は強力な電源部とオーディオ的に熟慮された高音質パワーアンプを中心にレイアウトされています。エフェクトアンプに至るまでオーディオクオリティを重視して設計。本格的5チャンネルCINEMA-DSPをフルスペックで楽しめます。

多彩な入出力端子

入力端子は、AVソース/オーディオソースにマルチに対応。デジタル信号をダイレクトに接続できるCOAXIAL/OPTICAL端子は、ドルビーデジタルなどの最新のデジタルソースにも対応しています。
出力端子は、音声チャンネル/映像チャンネルの豊富な出力端子に加え、サブウーファー端子を備えていますので、効果的な重低音再生を実現します。さらに、6チャンネルの外部デコーダー入力を装備したことにより、すべてのマルチチャンネルのディスクリート音声を手軽にしかも本格的に楽しめます。

FM/AMチューナー搭載

DSP-R495が搭載したFM/AMチューナーは、40局のプリセットが可能、FM多局化時代に対応しています。また、FM局のオートプリセット機能、プリセット局のエディット機能など、多彩な機能を装備しています。

多様な機器に対応するコードセットリモコン

本機に付属のリモコンでは、ヤマハの機器だけでなく、コードをプリセットするだけで、他社の機器もあわせて操作できます。

これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

安全上のご注意 2
特長 6
目次 6
音場効果をお楽しみいただくために 7
接続のしかた 10
リモコンの準備 20
各部の名称とはたらき 21
スピーカーモードの設定＜再生の前に＞ 25
スピーカーレベルの調節＜再生の前に＞ 28
再生する 30
音場効果を楽しむ 33
セットメニューの設定 38
FM/AM放送を聴く 40
録音／録画について 44
スリープタイマー 45
タイマー再生／録音 45
リモコンで操作する 46
コードをリモコンにプリセットする 51
メーカーコード一覧表 53
故障かなと思ったら 55
参考仕様 57
ヤマハホットラインサービスネットワーク 59

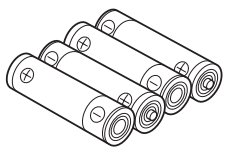
はじめに、次のことをお確かめください。

1 保証書にお買い上げ店名を記入してもらいましたか？

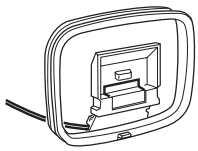
2 付属品はすべてそろっていますか？

リモコン

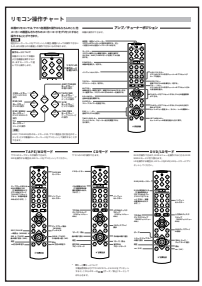
単4乾電池4本



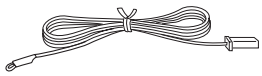
AMループアンテナ



リモコン操作チャート



FM簡易アンテナ



音場効果をお楽しみいただくために

本機にはセンタースピーカー、リアスピーカーを設置して楽しむ音場処理機能があります。音場効果を十分にお楽しみいただくため、ご使用の前にこの項目をお読みになり、適切なスピーカーシステムを設置してください。

スピーカーシステムについて

本機の音場効果を楽しむためには、合計5本もしくは4本のスピーカーが必要となります。
スピーカーの音色が違うと、映画などで移動する主人公の声の音色が不自然に変わることがあります。なるべく音色の揃ったスピーカーをお使いください。
小型のスピーカーをお使いの場合は、充分な重低音や臨場感をお楽しみいただくために、サブウーファーの追加をおすすめします。（9ページ参照）

ご注意

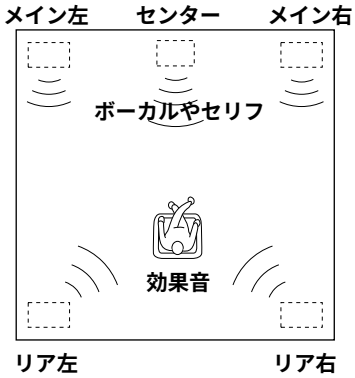
EXTERNAL DECODER INPUT端子に接続した機器を再生するときは、必ずセンタースピーカーを設置してください。（右の5スピーカーシステムを参照。）また、アンプ内蔵のサブウーファーをSUB WOOFER OUTPUT端子に接続してください。

スピーカーシステムを選ぶ

下記を参考にして、5スピーカーシステムまたは4スピーカーシステムのいずれかを選びます。スピーカーシステムに応じてセンターモードが決まります。

5スピーカーシステム（センタースピーカーを使用する）

従来の2チャンネルステレオで使用する2本の左右メインスピーカーに加えて、ドルビー プロ・ロジック サラウンド効果を最大限に発揮させるためのセンタースピーカー、およびリスナーの後方に設置する左右リアスピーカーの合計5本のスピーカーを使用します。



- メインスピーカーの間隔が広い場合には、センタースピーカーの使用はセリフの定位などの改善に効果的です。
- 使用するセンタースピーカーに合わせてセンターモードをLARGEまたはSMALLに設定します（25ページ）。

4スピーカーシステム（センタースピーカーを使用しない）

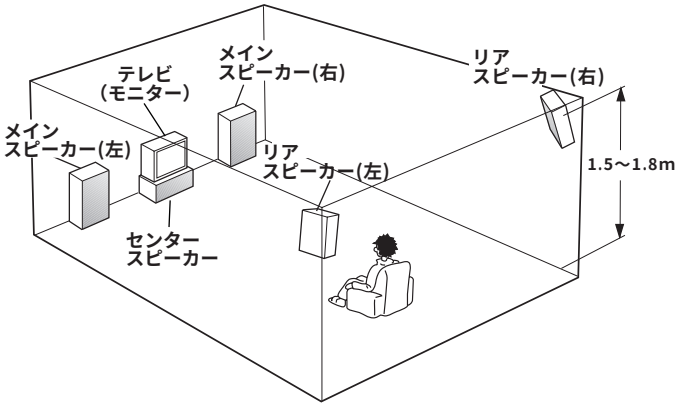
左右のメインスピーカー2本と、左右のリアスピーカー2本合計4本のスピーカーを使用するシステムです。
ドルビー プロ・ロジック再生時のセンターチャンネル信号は、左右のメインスピーカーが再生します。

- TVの両側にメインスピーカーを設置するような、スピーカーの間隔が比較的狭い場合は、センタースピーカーを使用しなくても充分な効果が得られます。
- センターモードはNONEに設定します（25ページ）。

音場効果をお楽しみいただくために

スピーカーの配置

5スピーカーシステムの配置例



スピーカーは上図のような位置関係が理想ですが、厳密に揃わなくても充分な効果が得られます。

メインスピーカー

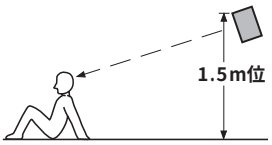
従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビをはさんで設置する場合は、左右のスピーカーとテレビの距離を同じにします。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの両脇に設置してください。

センタースピーカー

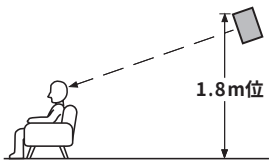
テレビを設置している場合は、テレビ画面とスピーカーの前縁を揃え、テレビの下または上など、できるだけテレビ画面に近いところに設置してください。スクリーンを設置している場合は、スクリーンの下中央に設置してください。

リアスピーカー

上図の配置例のようにメインスピーカーより左右の間隔を開けた後方斜めに配置し、スピーカーをリスニングポイントに向けてください。
スピーカーの高さは、床に直接座って聴く場合床から1.5m位、椅子に座って聴く場合1.8m位が適当です。

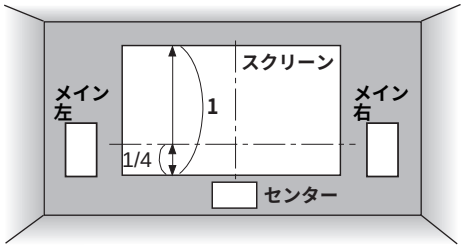


直接座って聴く場合の高さ



椅子に座って聴く場合の高さ

スクリーン使用時の設置例



- メイン左、右は、スクリーン下辺から1/4の高さが適当です。
- センタースピーカーは、スクリーンのすぐ下中央に設置します。1本使いが定位の点で効果が得られます。

ご注意

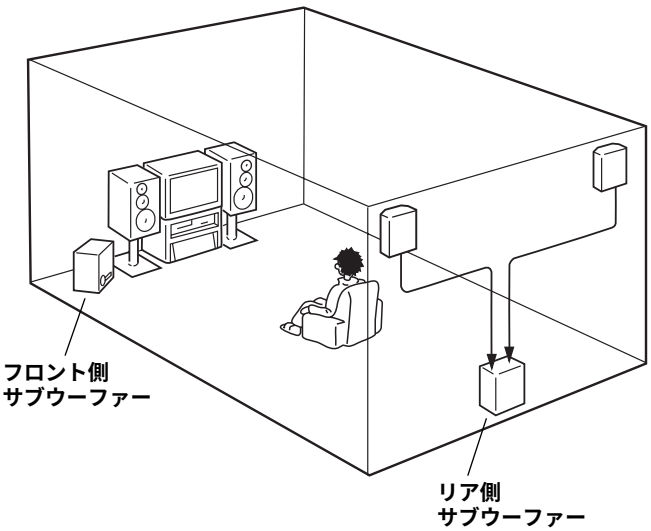
スピーカーによっては、テレビ(モニター)の画面が乱れることがあります。画面近くに設置するセンタースピーカーやスーパーウーファには、防磁型スピーカーの使用をお薦めします。
(テレビの画面が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離してください)

サブウーファーについて

スピーカーシステムにサブウーファーを加えると、映画再生時の迫力や臨場感を大きく改善することができます。メインスピーカーに比較的大型のスピーカーを使用する場合でも、良質のサブウーファーを追加することで大きな効果が得られます。1台目はフロント側に、2台目をリア側に設置することをお薦めします。

フロント側サブウーファーは、スピーカーモードの「4. BASS（バスアウトモード）」（27ページ）の設定にしたがって信号を出力します。EXT. DECDR（外部デコーダー）入力のときはEXTERNAL DECODER INPUTのSUB WOOFER端子に入った信号をそのまま出力します。

映画ではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。メイン側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、特にCINEMA-DSP音場プログラムのリアリティが大きく改善されます。



フロント側サブウーファー

配置

左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内振りに設置します。低音の聞こえ方は、スピーカーを置く位置と聞く位置の両方に影響されるので、設置する位置を変えてお試しください。

接続

本機背面のサブウーファー用のSUB WOOFER OUTPUT端子に接続します（18ページ）。

リア側サブウーファー

配置

視聴位置より後方に設置します。左右の位置は関係しません。

接続

リア専用のサブウーファーは、リアスピーカーのL、R端子からスピーカーコードで接続します。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

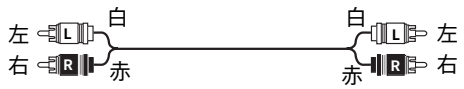
接続のしかた

正しい接続のために

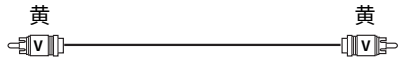
- 接続の際は、必ず本機および接続する機器の電源を切ってください。
- ヤマハCDプレーヤー、テープデッキなどとシステム接続する場合は、各機器と本機の同じ番号(1、3など)のついた端子どうしを接続してください。
- 接続する機器によって接続方法や端子名が異なることがあります。接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
- ピンジャックの入／出力端子は、信号別に色分けされています。
  - ・音声信号の左(L)チャンネル：白色
  - ・音声信号の右(R)チャンネル：赤色
  - ・モノラル信号：黒色
  - ・同軸デジタル信号：オレンジ
  - ・映像信号(コンポジット)：黄色
- 入／出力端子の接続には、市販のピンプラグコードをご用意ください。
- 本機がテレビなどに影響を与えるような場合は、本機と他の機器の設置場所を離してください。障害をなくすために、FMアンテナには屋外アンテナを使用し、同軸ケーブルで接続することをお薦めします。
- 接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

接続図では、接続コードを次のように示します。

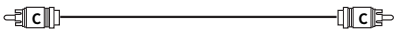
音声信号接続コード



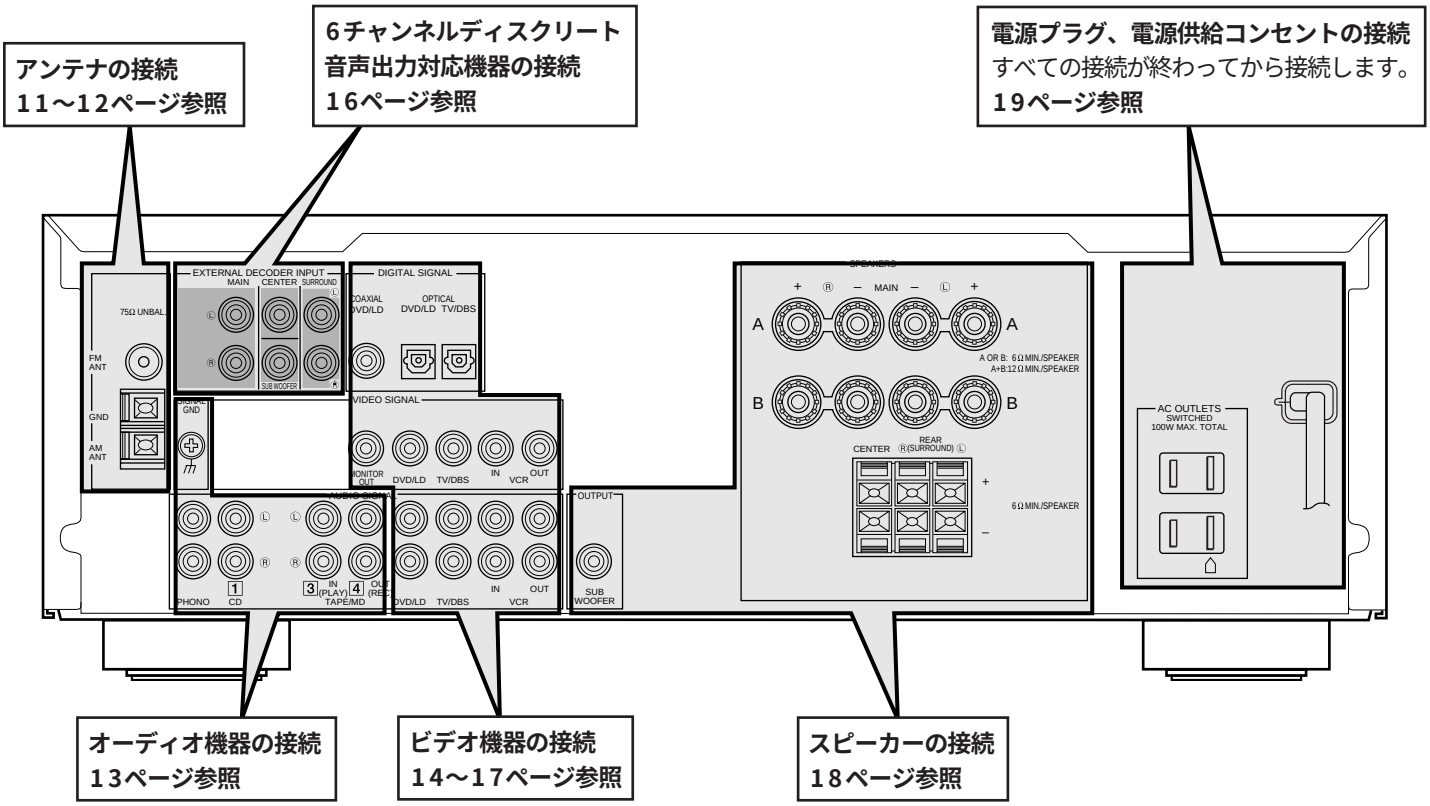
映像信号接続コード(コンポジット)



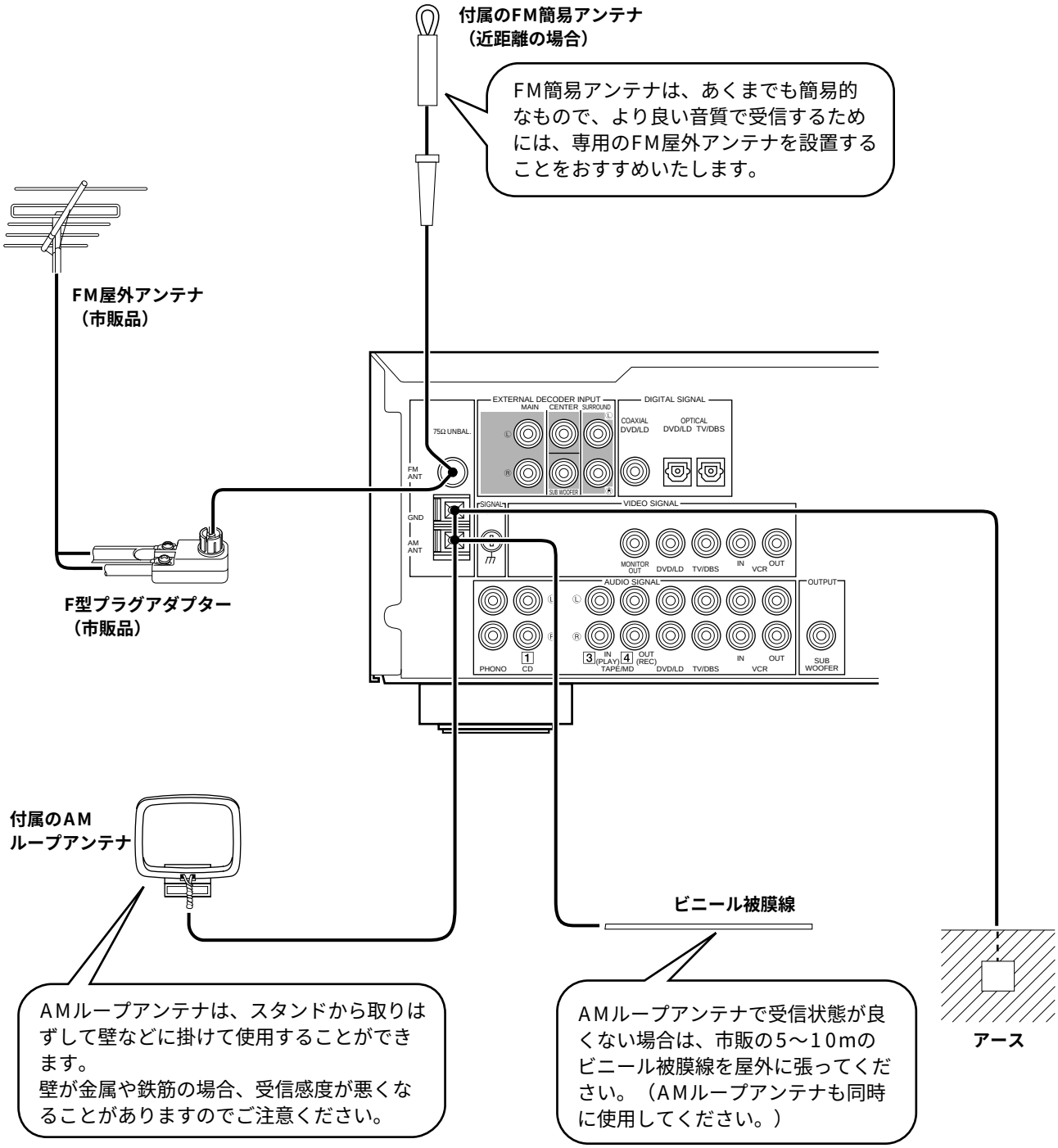
同軸デジタル接続コード



光デジタル接続コード



アンテナの接続

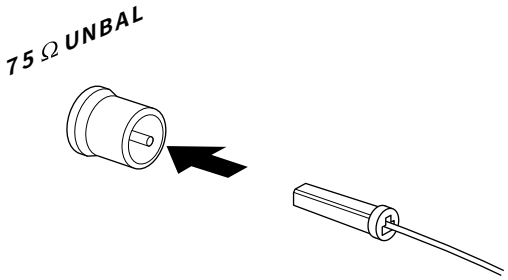

付属のFM簡易アンテナ
（近距離の場合）
FM簡易アンテナは、あくまでも簡易的なもので、より良い音質で受信するためには、専用のFM屋外アンテナを設置することをおすすめいたします。
FM屋外アンテナ
（市販品）
F型プラグアダプター
（市販品）
EXTERNAL DECODER INPUT
MAIN
CENTER
SURROUND
SUB WOOFER
DIGITAL SIGNAL
COAXIAL
DVD/LD
OPTICAL
DVD/LD
TV/DBS
75Ω UNBAL.
FM ANT
GND
AM ANT
SIGNAL
VIDEO SIGNAL
MONITOR OUT
DVD/LD
TV/DBS
IN
OUT
VCR
AUDIO SIGNAL
OUTPUT
PHONO
CD
IN (PLAY)
OUT (REC)
TAPE/MD
DVD/LD
TV/DBS
IN
OUT
VCR
SUB WOOFER
付属のAM
ループアンテナ
ビニール被膜線
アース
AMループアンテナは、スタンドから取りはずして壁などに掛けて使用することができます。
壁が金属や鉄筋の場合、受信感度が悪くなることがありますのでご注意ください。
AMループアンテナで受信状態が良くない場合は、市販の5～10mのビニール被膜線を屋外に張ってください。（AMループアンテナも同時に使用してください。）

接続のしかた

FMアンテナの接続

FM簡易アンテナの接続

付属のFM簡易アンテナは、電波状況が非常に良い地域で受信する場合にご使用ください。



FM専用屋外アンテナについて

FM放送を良好に受信するためには、FM専用屋外アンテナを設置することをおすすめします。
また、FM電波は受信する地域の状況(放送局からの距離、ビルや山のかげなど)によって、良好な受信ができにくい場合があります。ご使用になる地域の状況に合ったアンテナを設置してください。
FM専用屋外アンテナは、自動車のイグニッションノイズの影響を受けないよう、道路から離れたなるべく高いところに設置してください。

FM専用屋外アンテナの接続

アンテナの接続には75Ω同軸ケーブルをご使用ください。
また、アンテナと本機の設置場所がかなり離れている場合は、ケーブル伝送中の電波減衰が少ない5C2Vケーブルの使用をおすすめします。

- FM屋外アンテナを接続したときは、付属のFM専用簡易アンテナは接続しないでください。

電波状況が非常に良い地域では

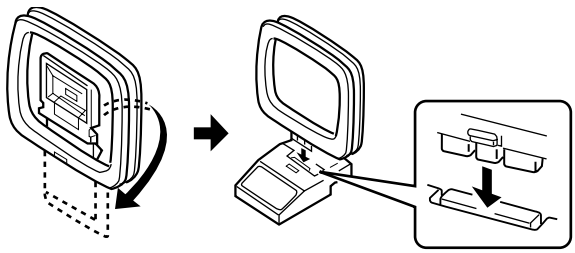
TVのVHFアンテナを本機のFM用アンテナとして使用することができます。アンテナをTV受像機と本機で共用する場合は、市販の分配器をご使用ください。
詳細は分配器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

近くに放送局があるような強電界地域では、多素子のアンテナやブースター(増幅器)を使うと、電波が強すぎて、かえって良好な受信ができなくなることがあります。

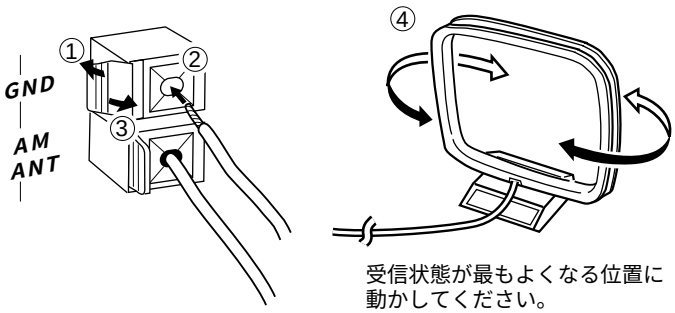
AMループアンテナの組立と接続

組み立て



付属のAMループアンテナをAM ANT端子に接続します。

① AM ANT端子とGND端子のレバーを左側に倒します。
② AMループアンテナのコードをAM ANT端子とGND端子に差し込みます。(コードに極性はありません。)
③ レバーを右側に戻します。コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。
④ アンテナを左右に回し、受信状態が最も良くなる方向に向けます。



ご注意

- AMループアンテナは本機から離して設置してください。
- AMループアンテナで良好な受信ができない場合は、AM ANT端子に5mから10mのビニール被覆線を接続し、窓際から屋外に張ってください。(このときAMループアンテナも必ず接続しておいてください。)

アースについて

通常の受信では必要ありませんが、雑音防止と安全のために地中アースを取ることをおすすめします。
アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

- GND端子に2本以上のコードを接続する場合は、よじって1本にまとめてください。

ご注意

アースを水道管やガス管に取り付けることは、感電や火災などの危険防止のため絶対おやめください。

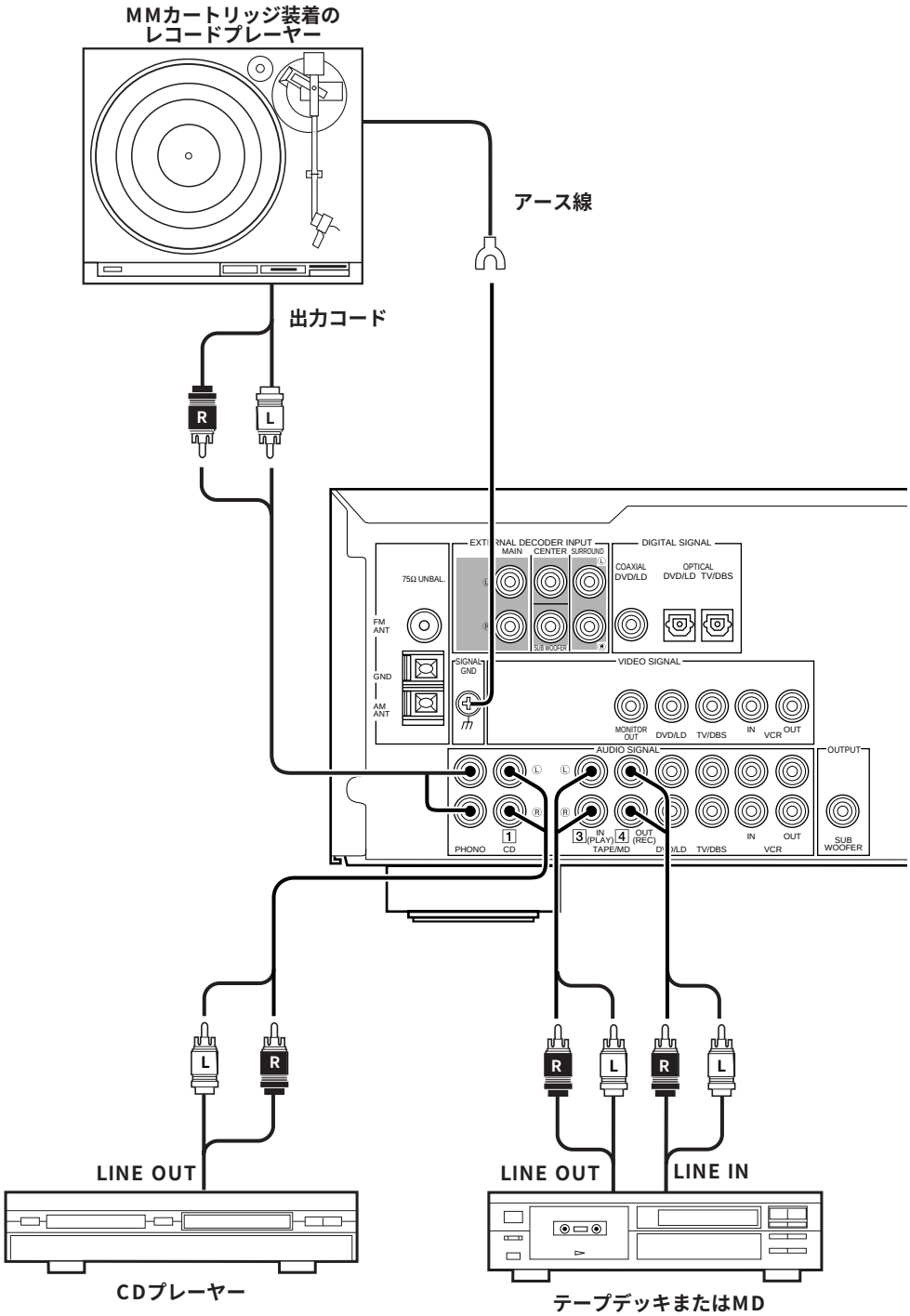
オーディオ機器の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

PHONO(フォノ)端子について

MMカートリッジまたは高出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続します。
低出力型MCカートリッジ付のレコードプレーヤーを接続するときは、昇圧トランスあるいは、MCヘッドアンプが別途必要になります。

- レコードプレーヤーによっては、まれにアース線を接続しない方がハムノイズが減少する場合があります。



ビデオ機器の接続

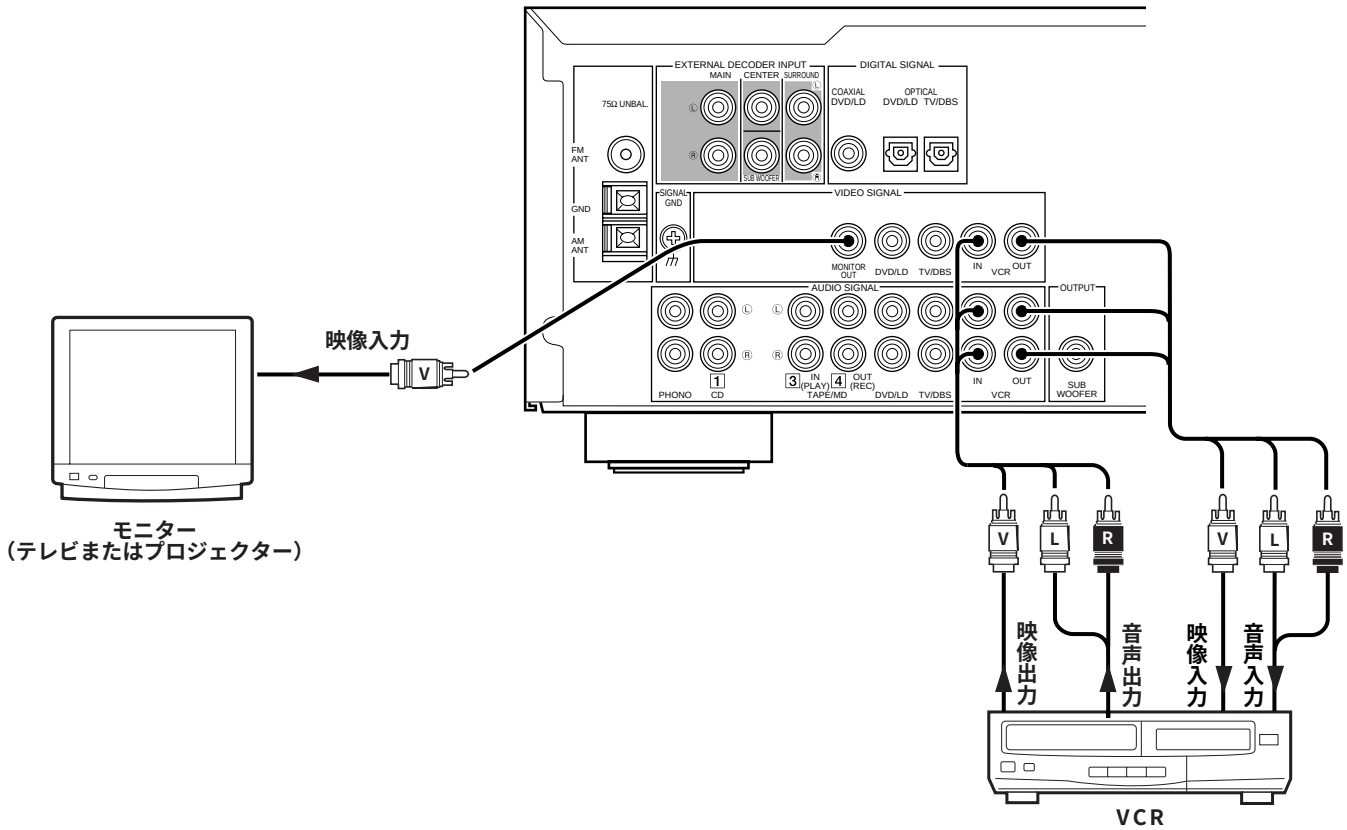
VCR、モニターの接続

AUDIO SIGNAL端子の接続(VCRのみ)

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。

VIDEO SIGNAL端子の接続

入力(IN)、出力(OUT)を確認して正しく接続してください。



DVD/LDプレーヤー、テレビ／BSチューナーの接続

AUDIO SIGNAL端子の接続

右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して正しく接続してください。

VIDEO SIGNAL端子の接続

再生機器の出力(OUT)と接続します。

デジタル出力端子のある機器との接続

本機のDVD/LD端子、TV/DBS端子は、アナログ端子の他にドルビーデジタル信号やテレビ／BSチューナーなどのデジタル信号をダイレクトに接続できるデジタル端子（COAXIAL［同軸］／OPTICAL［光］）を装備しています。（デジタル端子はPCM*/ドルビーデジタル兼用です。）

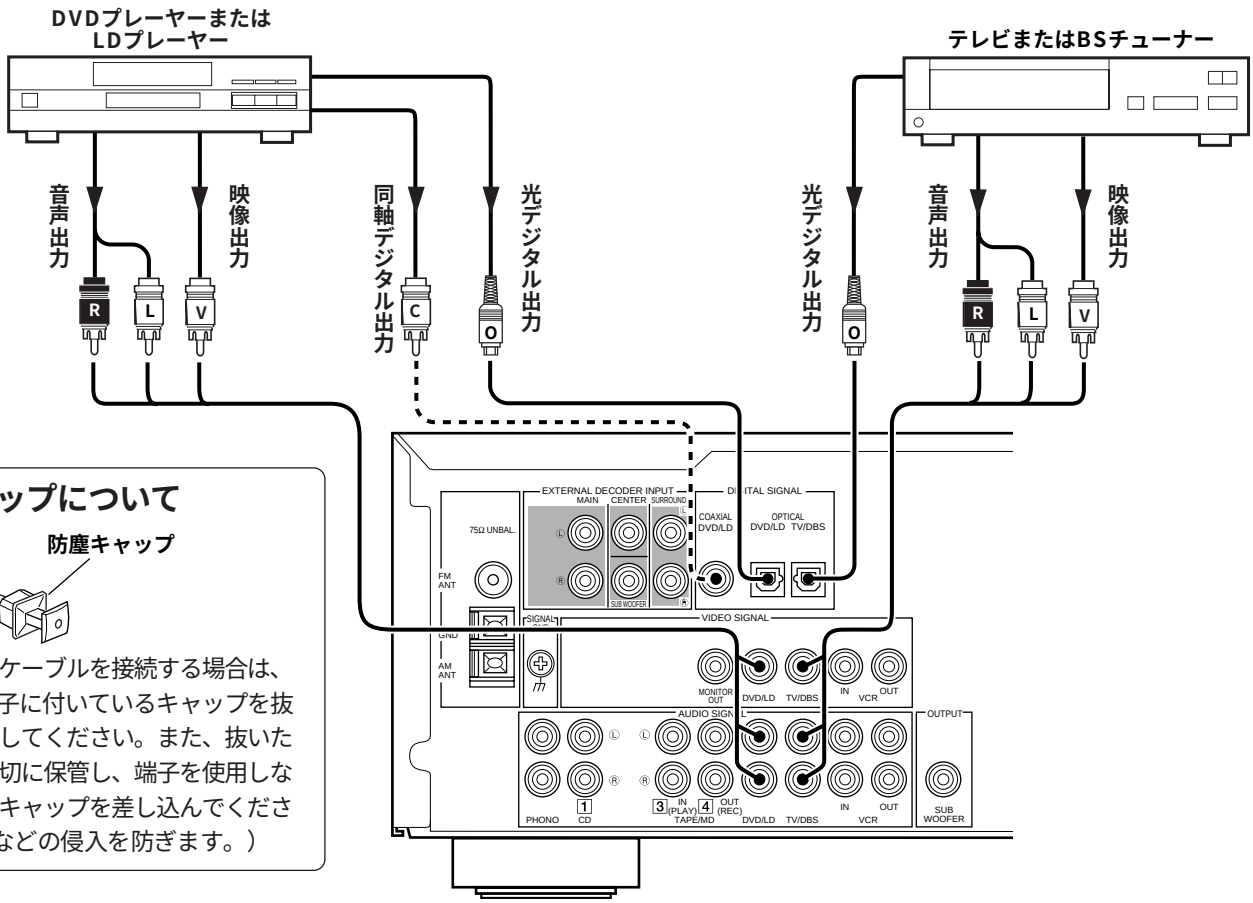
DVDまたはLDプレーヤーにCOAXIALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL COAXIAL DVD/LD端子とつなぎます。OPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL DVD/LD端子とつなぎます。

テレビまたはBSチューナーにOPTICALデジタル出力端子がある場合は、本機のDIGITAL SIGNAL OPTICAL TV/DBS端子とつなぎます。

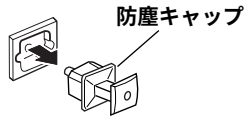
COAXIAL端子に接続する場合はピンプラグコード（市販）を、OPTICAL端子に接続する場合は光ファイバーケーブル（市販）を使用してください。

*PCMについて

本機のデジタル入力端子は、サンプリング周波数32kHzの衛星放送Aモードから、CDディスクの44.1kHz、衛星放送BモードとDVDディスクの48kHzに対応しています。



防塵キャップについて



光ファイバーケーブルを接続する場合は、OPTICAL端子に付いているキャップを抜いてから接続してください。また、抜いたキャップは大切に保管し、端子を使用しない場合は必ずキャップを差し込んでください。（ほこりなどの侵入を防ぎます。）

ご注意

- デジタル端子の接続だけでなく、AUDIO SIGNAL端子（アナログ音声）も接続してください。デジタル音声を録音することはできませんが、デジタル・アナログ両端子が接続されていれば本機のINPUT MODEキーでアナログ音声信号を選んで録音することができます。
- 本機にLDプレーヤーなどのドルビーデジタルRF出力を直接接続することはできません。接続するには、ヤマハのAPD-1（別売）などのデモジュレーターユニットを使用してください。
- 本機のOPTICAL端子は、EIAJ規格に基づいて設計されています。EIAJ規格を満たさない光ファイバーケーブルを使用すると、正常に動作しないことがあります。

メモ

- デジタル端子から入力したドルビーデジタル信号は本機に搭載されているドルビーデジタルデコーダーによりドルビーデジタル再生されます。
- DVD/LDのCOAXIAL、OPTICAL両端子から同時にデジタル信号が入力されると、COAXIAL端子からの入力を優先します。

11～15ページの接続により、本機に搭載されている11種類の音場プログラム（CINEMA DSPも含めて）をお楽しみいただけます。
さらに外部デコーダーからのディスクリート6チャンネル音声をお楽しみいただくには、15ページの接続に加えて次のように接続してください。

6（5・1）チャンネルディスクリート出力対応機器の接続

外部デコーダーなどの多チャンネルのディスクリート音声出力端子（アナログ）を本機のEXTERNAL DECODER INPUT（エクスターナル デコーダー インプット）端子に接続します。

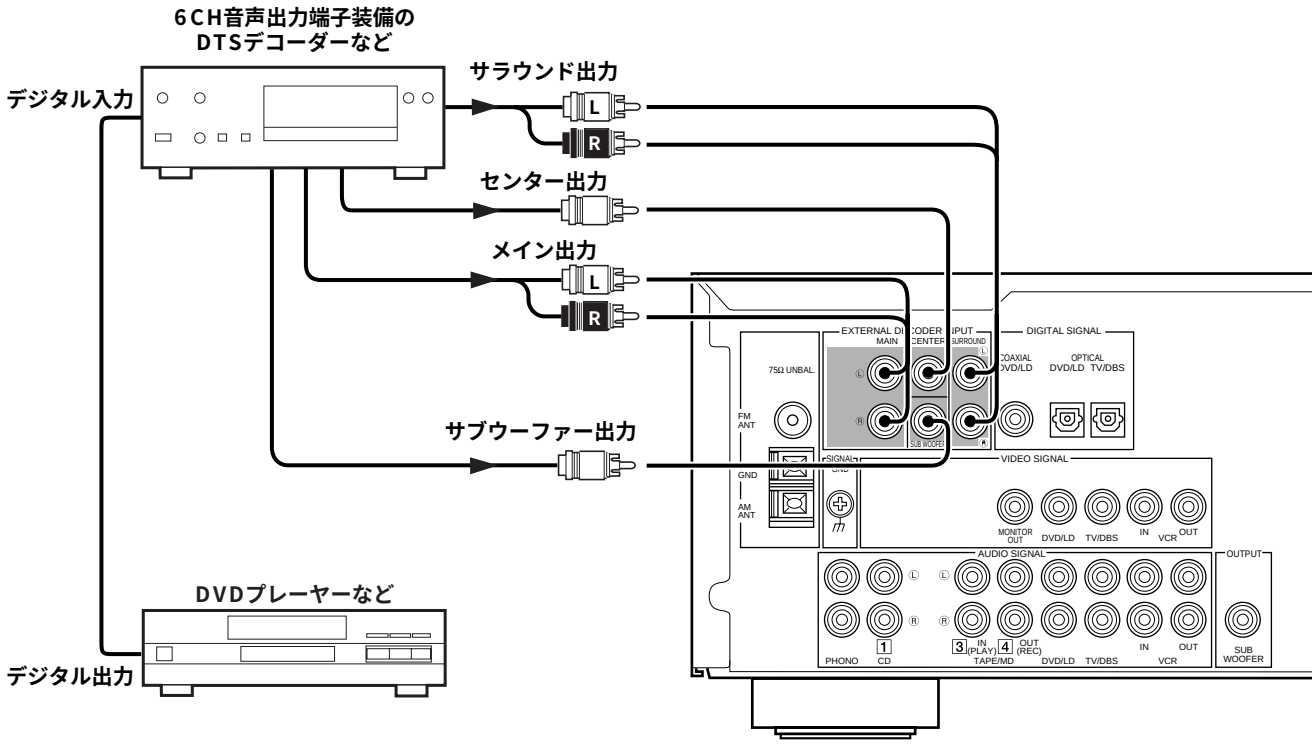
ご注意

- 接続したEXTERNAL DECODER INPUT端子に対応したスピーカー（メインL/R、リアL/R、センター、サブウーファー）を必ず設置してください。
- EXTERNAL DECODER INPUT端子から入力した音声に対しては、スピーカーモード1～4の設定（25ページ）やセンターディレイ調節（38ページ）は反映されません。これらの設定・調節は外部デコーダーで行ってください。

ハイビジョンテレビやMUSEデコーダのディスクリート音声（3・1）も接続できます。
ハイビジョンテレビ（デコーダー）の音声L、R出力およびセンター出力を本機のMAIN L、R INPUT端子およびCENTER INPUT端子に接続します。
サラウンド出力がステレオの場合は、市販のピンプラグケーブルを使って、本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。（サラウンド出力がモノラルの場合は、市販の1P→2P分岐ピンプラグケーブルを使って本機のSURROUND L、R INPUT端子に接続します。）

サブウーファー出力について：
ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子にはサブウーファー出力がありませんが、メインスピーカーのL、R端子にサブウーファーを接続すると、メインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。接続については、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

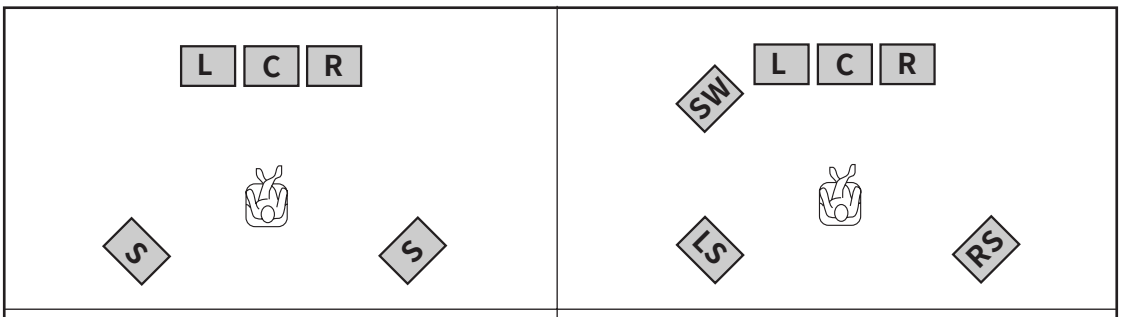
デコーダーを内蔵していないDVDプレーヤーを接続する場合



デコーダー内蔵の多チャンネル対応DVDプレーヤーを接続する場合

DVDプレーヤーの多チャンネル音声出力端子を本機のEXTERNAL DECODER INPUT端子に直接つなぎます。

6（5・1）チャンネル音声について

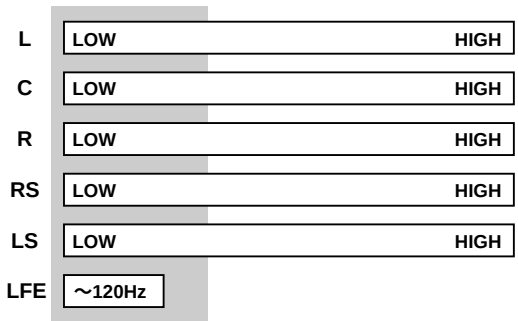


ドルビープロ・ロジック		ドルビーデジタル
2	**記録チャンネル数**	6
4	**再生チャンネル数**	6
前方左右＋ 前方中央＋後方	**再生チャンネル構成**	前方左右＋前方中央 ＋後方左右＋低域効果音
マトリックス処理、 ドルビー・サラウンド	**音声処理**	ディスクリート処理、 ドルビーデジタルエンコード、デコード
16ビット	**信号処理ビット数**	20ビット
7kHz	**サラウンド音声の 高域再生限界**	20kHz

● 映画ソフトの音響システムを家庭で楽しむには、それなりの再生システムをリスニングルームに構築しなければなりません。
従来の劇場用ドルビーステレオの場合は、ドルビープロ・ロジックという家庭用の規格「前方左右＋前方中央＋後方＝計4チャンネル」が用意されていました。
そして、劇場用ドルビーデジタルに対して、家庭用に生まれた規格が"ドルビーデジタル"「前方左右＋前方中央＋後方左右＋低域効果音（LFE）＝計6チャンネル」です。
本機はドルビーデジタルデコーダーを搭載していますので、DVDプレーヤーやLDプレーヤーの再生するドルビーデジタルソフトを、ドルビーデジタルならではの臨場感にあふれた再生でお楽しみいただけます。

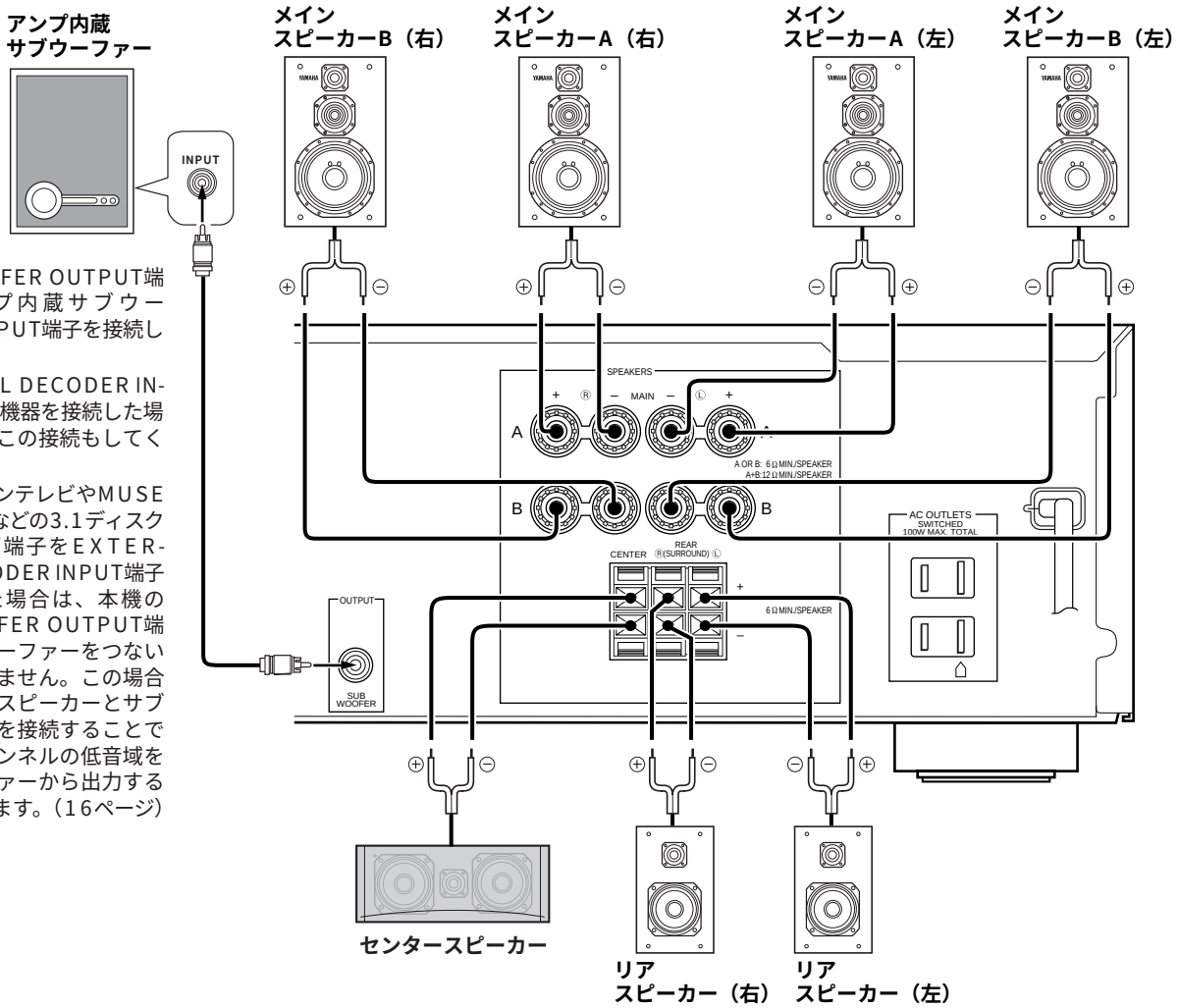
ご注意
ドルビーデジタル対応のDVDプレーヤーやLDプレーヤーを本機にデジタル接続しても、ドルビーデジタルでエンコードされていないディスク（ソフト）ではドルビーデジタル再生にはなりません。ドルビーデジタル対応のディスク（ソフト）を再生してください。

● **LFEについて**
ドルビーデジタルやDTSで導入されたLFEは、特殊な低域効果音、あるいは5チャンネル部に収録しきれない部分の低域音として使用されます。ただし「LFEチャンネルだけが、ドルビーデジタルのサブウーファー用信号ではない」ということに注意が必要です。下図のように、全チャンネルフル帯域化により、5チャンネルには、それぞれの方向情報を持った低域成分が含まれており、この低域をバランス良く再生することが、映画ソフトをサラウンド再生するときの最重要課題となります。
本機では、低域再生をより良く行えるように、スピーカーに応じた設定が可能です（25ページ）。また、LFEレベルを調節することも可能です。（38ページ）



スピーカーの接続

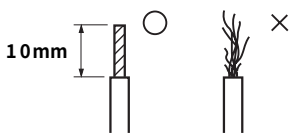
- 接続する際、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)、“＋”(赤)、“－”(黒)を確認して正しく接続してください。極性(＋、－)を間違えて接続した場合、不自然な再生音となることがあります。
- 接続するスピーカーのインピーダンスは6Ω以上のものを使用してください。メインスピーカーAとBを同時に使う場合は、インピーダンスが12Ω以上のスピーカーを接続してください。それ以下のスピーカーを使用すると故障の原因となります。
- スピーカーコードの接続は、ショートしないように注意してください。ショートした状態で電源を入れると、保護回路が働き電源が切れる場合があります。このような場合は、電源コードを抜いてから、ショートしている箇所の接続をやり直してください。



- SUB WOOFER OUTPUT端子とアンプ内蔵サブウーファーのINPUT端子を接続します。
- EXTERNAL DECODER INPUT端子に機器を接続した場合は、必ずこの接続もしてください。
- ハイビジョンテレビやMUSEデコーダーなどの3.1ディスクリート音声端子をEXTERNAL DECODER INPUT端子と接続した場合は、本機のSUBWOOFER OUTPUT端子にサブウーファーをつないでも音は出ません。この場合は、メインスピーカーとサブウーファーを接続することでメインチャンネルの低音域をサブウーファーから出力することができます。（16ページ）

スピーカーコードの接続

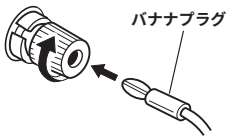
スピーカーコードの先端の絶縁部を10mm位はがし、しっかりとねじります。芯線がバラけているとショートしやすいのでご注意ください。



メインスピーカー端子

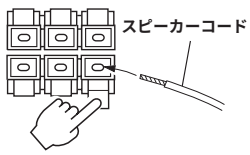
スピーカー端子を左にまわしてゆるめ、スピーカーコードをスピーカー端子の穴に差し込みます。スピーカー端子を右にまわしてしっかりと締めます。

市販のバナナプラグを使用する場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。



センター／リアスピーカー端子

レバーを押してスピーカー端子の穴に差し込み、レバーを離します。コードがロックします。確実にスピーカーコードがロックされたか、コードを軽く引っ張って抜けないことを確認してください。



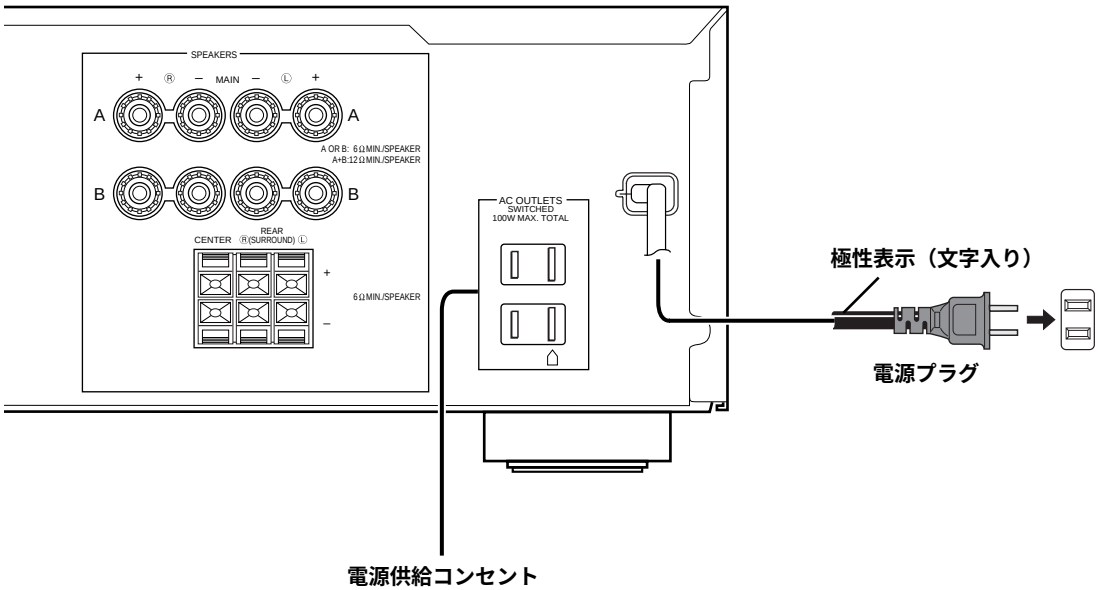
電源プラグ、電源供給コンセントの接続

電源プラグ

電源プラグは、すべての機器の接続が完了するまで、コンセントに差し込まないでください。
家庭用AC100V、50/60HzのACコンセントにプラグを差し込みます。本機の消費電力は200Wです。
本機の電源コードには電源トランスの巻始めが極性表示（文字入り）されています。プラグを差し替えて音質が変わるようでしたら、お好みの極性でお使いください。

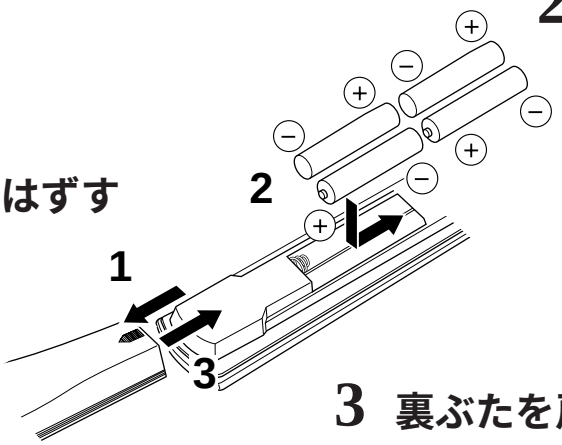
SWITCHED（スイッチド） AC（エーシー） OUTLETS（アウトレット）（電源供給連動コンセント）

本機のPOWERスイッチと連動しており、2つのコンセントに合計消費電力が100Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。
また本機コンセントの長い方の穴が電源トランスの巻始め側になっています。接続するオーディオ機器が極性表示されている場合には、極性を合わせて差し込んでください。



リモコンの準備

乾電池の入れかた



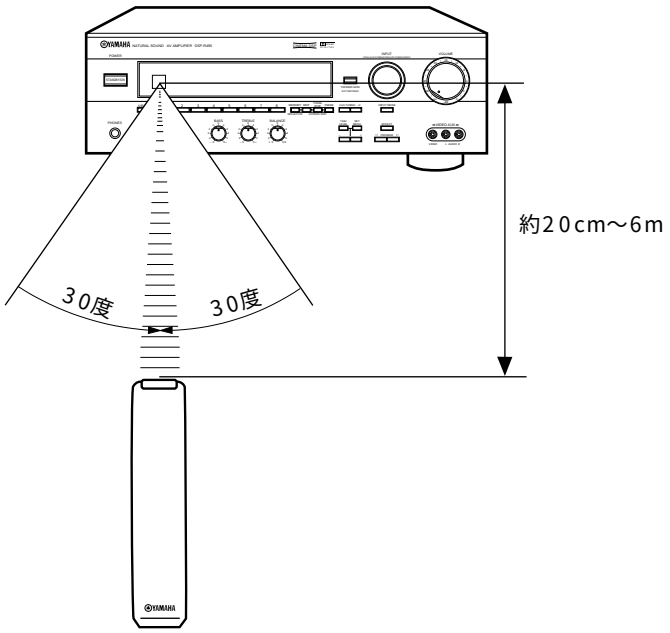
乾電池のご注意

乾電池は誤った使い方をすると、液もれが起きたり破れつすることがありますので、次の点に特に注意してください。

- 乾電池のプラス⊕とマイナス⊖の向きを表示どおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と一度使用した乾電池をまぜて使用しないでください。
- 種類のちがう乾電池をまぜて使用しないでください。
  同じ形状でも電圧の異なるものがあります。
- 乾電池が使えなくなったり、本機を長い間使わないときは、乾電池を全部取り出してください。
- 乾電池には充電式と充電式でないものがあります。
  乾電池の注意表示をよく見てご使用ください。
- 液もれが起こったときは、ケースの中についた液をよくふき取ってください。

メーカーコードの保持について
乾電池は、使えなくなる前に早めに交換してください。乾電池の寿命がなくなったり、乾電池を取り出した場合、お客様ご自身でプリセットされたメーカーコードは約2分間保持されますが、2分以上経過すると消える場合がありますのでご注意ください。

リモコンの使用範囲



リモコン用乾電池の交換時期

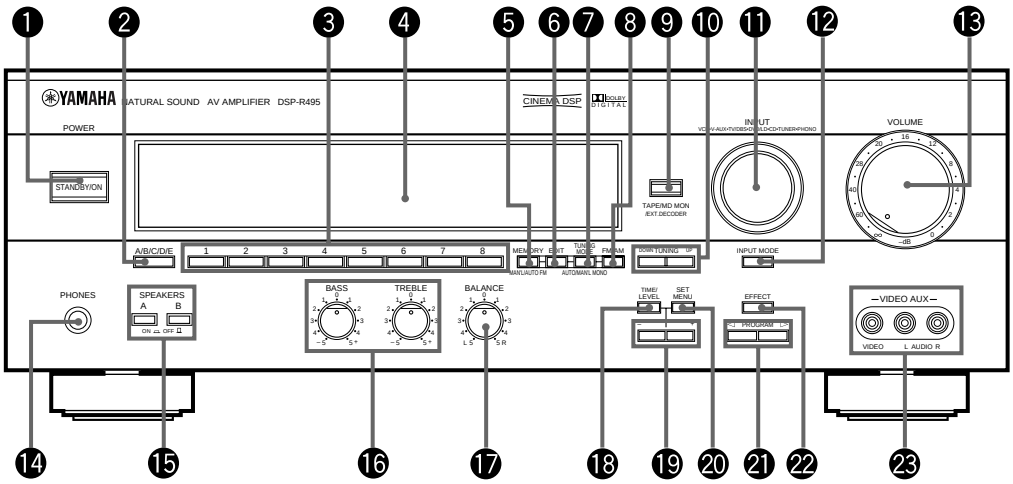
リモコン用乾電池の寿命は通常のご使用で約1年間です。
リモコン受信部に近寄らないと動作をしない場合は、乾電池を交換してください。

リモコン取扱上のご注意

- 受信部とリモコンの間に障害物があると操作できないことがあります。
- リモコンには衝撃を与えないでください。また、水にぬらしたり、温度の高い所には置かないでください。
- 受信部に直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっているとリモコンが働きにくくなります。
  照明または製品本体の向きを変えてください。
- 他の機器のリモコンを同時に操作すると、動作をしないことがあります。

各部の名称とはたらき

フロントパネル



❶ **POWER STANDBY/ONスイッチ**（パワー スタンバイ／オン）
本機の電源を入／切します。
電源を入れるときは、音量を絞ってください。
- 電源が入っても、数秒間は本機のミューティング機能の働きにより音は出ません。

❷ **A/B/C/D/Eキー**
プリセットグループ（A、B、C、D、E）を選びます。キーを押すごとに、A→B→C→D→E→Aの順に切り換わります。

❸ **プリセットステーション番号キー（1〜8）**
プリセットステーション番号を選びます。

❹ **ディスプレイ**
入力ソース名や設定状態を表示します。（22ページ）

❺ **MEMORY (MAN'L/AUTO FM) キー**（メモリー マニュアル／オートエフエム）
放送局をメモリー（プリセット）するときに使います。3秒以上押し続けると、FM放送局を自動的にプリセットするオートプリセット選局になります。

❻ **EDITキー**（エディット）
プリセットした局の場所を入れかえるときに使います。

❼ **TUNING MODE (AUTO/MAN'L MONO)キー**（チューニングモード オート／マニュアルモノ）
オート選局モード（AUTO TUNINGインジケーター点灯）とマニュアル選局モード（AUTO TUNINGインジケーター消灯）を切り換えます。
オート選局モード（AUTO）:
チューニングキーを押すと自動的に受信するまで探します。
マニュアル選局モード（MAN'L MONO）:
チューニングキーを1回押すと1ステップずつ（押し続けると連続して）周波数が変わります。オート選局モードで受信できない電波の弱い局も受信できます。マニュアル選局では、ステレオ放送を受信してもモノラルになります。

❽ **FM/AMキー**（エフエム／エーエム）
FMとAMを切り換えます。

❾ **TAPE/MD MON/EXT. DECODERキー**（テープ エムディー モニター エクスターナルデコーダー）
入力ソースに、テープデッキ／MDまたはEXTERNAL DECODER INPUT端子につないだ機器を選択します。キーを押すたびにTAPE/MD MON→EXT. DECDR→オフ（インプットセレクターで選んでいる機器の入力）の順に切り換わります。

❿ **TUNING DOWN/UPキー**（チューニング ダウン／アップ）
DOWN:
オート選局モードでは、低い周波数に向かって放送局を受信するまで探します。
マニュアル選局モードでは、1回押すごとに1ステップずつ周波数が下がり、押し続けると連続して下がります。
UP:
オート選局モードでは、高い周波数に向かって放送局を受信するまで探します。
マニュアル選局モードでは、1回押すごとに1ステップずつ周波数が上がり、押し続けると連続して上がります。

⓫ **INPUTセレクター**（インプット）
再生したいソースを選択します。（30ページ）

⓬ **INPUT MODEキー**（インプット モード）
DVD/LD、TV/DBSの入力をAUTO（信号に応じてデジタルとアナログが自動的に切り換わる）またはANALOG（アナログ信号固定）に切り換えます。

⓭ **VOLUMEツマミ**（ボリューム）
全体の音量を調節します。右に回すほど音量が大きくなります。

⓮ **PHONES端子**（ホーンズ）
ヘッドホンを接続します。メインチャンネルの音が出力されます。ヘッドホンだけで聞くには、SPEAKERSスイッチ（A・B）をOFFにし、EFFECTキーでEFFECT OFFにしてください。

⑮ SPEAKERSスイッチ
本機に接続されたメインスピーカーA・Bを選択します。A・B両方のスイッチをONにすると、A・B両方のメインスピーカーから音が出ます。
- SPEAKERSスイッチをON/OFFするときは、音量を絞ってください。

⑯ トーンコントロール
メイン左右チャンネルの低音(BASS)・高音(TREBLE)を調節します。
- トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。

⑰ BALANCEツマミ
メイン左右チャンネルの音量バランスを調節します。L側に回すほど、R(右)側の音が小さくなり、R側に回すほど、L(左)側の音が小さくなります。通常は0位置にセットしておきます。

ご注意
BALANCEコントロールは、メイン左右チャンネルだけにはたらき、センターチャンネル、リアチャンネルにははたらきません。

⑱ TIME/LEVELキー
ディレイタイム調節モードまたはスピーカー出力レベル調節モードを選びます。

⑲ ー／＋キー
セットメニュー項目の内容、ディレイタイム、スピーカー出力レベルを調節します。

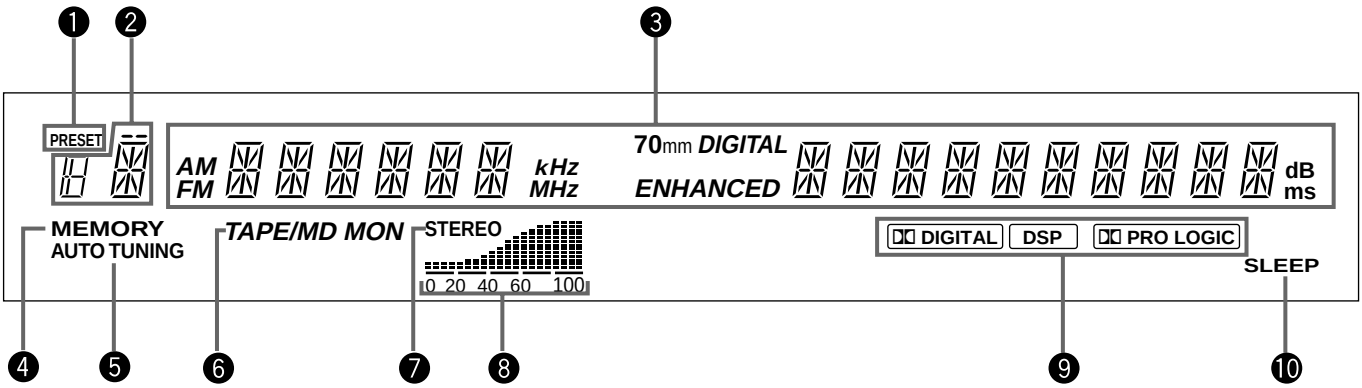
⑳ SET MENUキー
セットメニューの項目を選びます。

㉑ PROGRAMキー
◁または▷を押して、音場プログラムを選択します。(33ページ)選択された音場プログラムがディスプレイに表示されます。

㉒ EFFECTキー
音場プログラムの効果をON/OFFします。OFFにすると、通常のステレオ再生になります。(センタースピーカーとリアスピーカーからの音は出ません。)

㉓ VIDEO AUX入力端子
8ミリビデオなどのビデオ機器を接続する予備入力端子です。
VIDEO端子　　：ビデオの入力端子です。
AUDIO L, R端子：オーディオ(音声)の入力端子です。
モノラルの場合は、L, Rどちらかの端子に接続してください。

ディスプレイ



❶ PRESETインジケーター
放送局をプリセットしたり、プリセットした局を受信すると点灯します。

❷ プリセットグループインジケーター
プリセット局のグループ(A、B、C、D、E)と番号(1～8)を表示します。

❸ インフォメーションディスプレイ
音場プログラムの名称、放送局の受信周波数、入力ソースの名称など、さまざまな操作情報を表示します。

❹ MEMORYインジケーター
MEMORYキーを押すと点滅します。

❺ AUTO TUNINGインジケーター
チューニングモードキーでオート選局モードを選ぶと点灯します。

❻ TAPE/MD MONインジケーター
入力ソースにTAPE/MDを選ぶと点灯します。

❼ STEREOインジケーター
ステレオで受信すると点灯します。

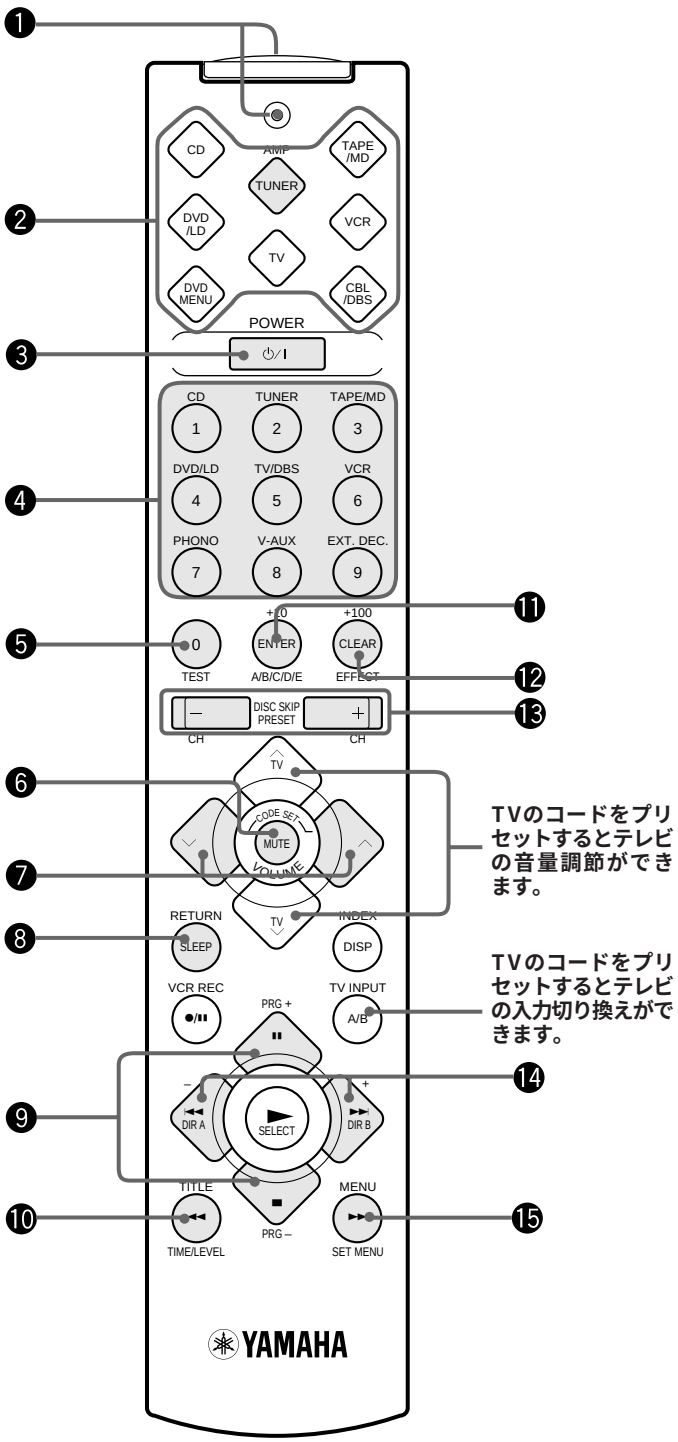
❽ シグナルクオリティインジケーター
受信している放送電波の強さを表示します。

❾ プロセッシングインジケーター
ドルビーデジタルデコーダー、ドルビープロロジックデコーダーの動作中、DSP音場処理中にそれぞれのインジケーターが点灯します。

❿ SLEEPインジケーター
スリープタイマーの動作中に点灯します。

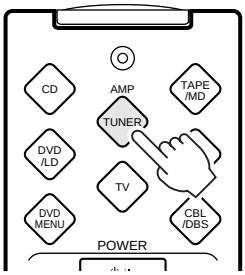
リモコン

本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、他メーカーの機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすると操作することができます（51ページ）。
ここでは、本機を操作するためのリモコン機能について説明します。（各機器の操作については46〜50ページを参照してください。）



上図の　　で示したキーは、本機を操作するために使用するキーです。

アンプ／チューナーモード



本機の操作をするときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。

❶ **送信窓／送信インジケーター**
リモコンのコントロール信号を送信します。正しく送信されると送信インジケーターが光ります。

❷ **モードキー**
リモコン操作したい機器を選びます。本機を操作するときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。

❸ **POWER（パワー）キー**
本機の電源を入／切します。

❹ **インプットセレクター**
再生したいソースを選びます。（30ページ）

❺ **TEST（テスト）キー**
テストトーンを入／切します。（28ページ）

❻ **MUTE（ミュート）キー**
本機の音を一時的に消します。ミュート中は“MUTE ON”が表示されます。解除するにはMUTEキーをもう一度押します。または、リモコンのインプットセレクター、PRG＋／－キー、VOLUMEキー、EFFECTキーなどのうち、どのキーを押しても解除できます。

❼ **VOLUME（ボリューム）キー**
全体の音量を調節します。

❽ **SLEEP（スリープ）キー**
スリープタイマーを設定します。（45ページ）

❾ **PRG（プログラム）＋／－キー**
音場プログラムを選びます。

<次ページへ続く>

⑩ TIME/LEVELキー（タイム／レベル）
ディレイタイム、スピーカー出力を調節するときに押します。

⑪ A/B/C/D/Eキー
AM/FM放送を聴くとき、プリセットグループを選びます。

⑫ EFFECTキー（エフェクト）
音場プログラムの効果を入／切します。

⑬ CH－／＋キー
AM/FM放送を聴くとき、プリセットされた放送局を選びます。

⑭ －／＋キー
セットメニューの項目の内容、ディレイタイム、スピーカー出力レベルを調節します。

⑮ SET MENUキー（セット　メニュー）
セットメニューの項目を選びます。

スピーカーモードの設定<再生の前に>

ご使用になるスピーカーシステムに合わせて、5種類のスピーカーモード(センタースピーカー／リアスピーカー／メインスピーカー／バスアウト／メインレベル)を設定します。セットメニューの各スピーカーモードを呼び出しスピーカーモードの確認、および設定を行ってください。

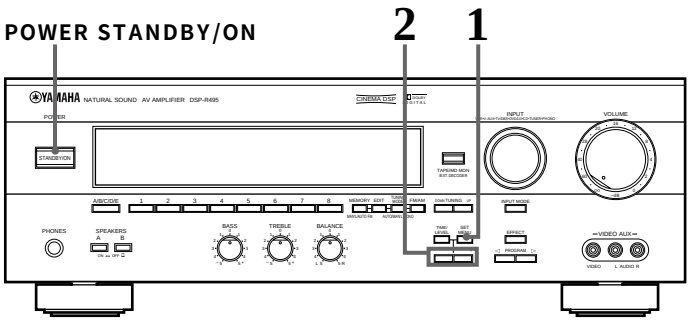
- 外部デコーダー入力(EXT. DECDR表示)のとき、スピーカーモード1～4の設定は出力に影響しません。メインスピーカーレベルのみが「5. M. LVL」の設定に従って出力されます。

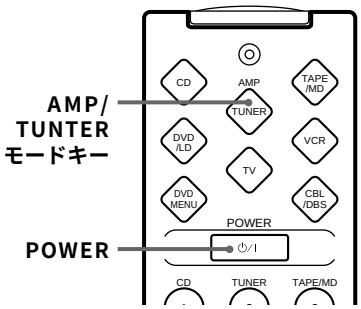
スピーカーモードの設定内容

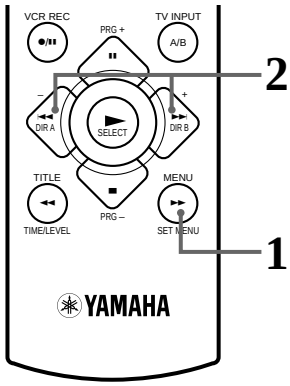
項目	設定内容	初期設定	可変範囲
センタースピーカー **1. CNTR**	センタースピーカーの性能や有無に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL/NONE
リアスピーカー **2. REAR**	リアスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
メインスピーカー **3. MAIN**	メインスピーカーの性能に応じて、出力モードを選択します。	LARGE	LARGE/SMALL
バスアウト **4. BASS**	LFE/BASS(低音)信号を出力するスピーカーを選択します。	SW	SW/MAIN/BOTH
メインレベル **5. M. LVL**	メインスピーカーレベルを選択します。	NRML	NRML/－10dB

設定のしかた

- 本体のPOWER STANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。

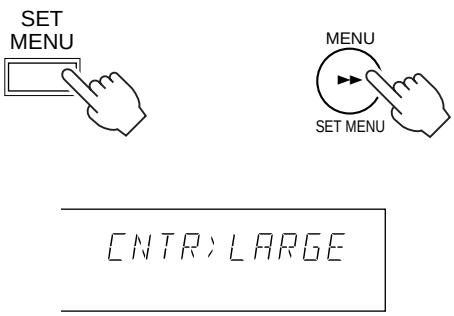




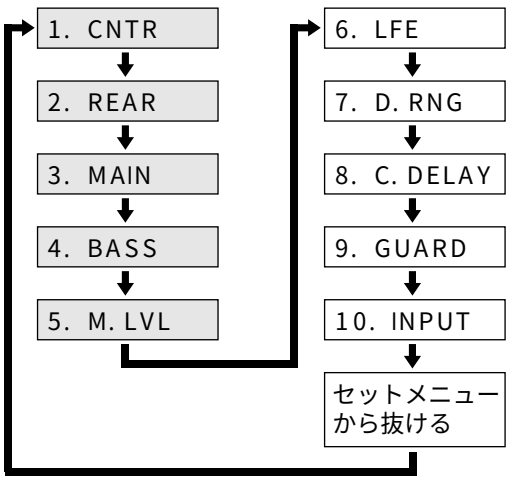


- リモコンを使うときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。

1 SET MENUキーを何回か押して、設定したいスピーカーモードを表示させる

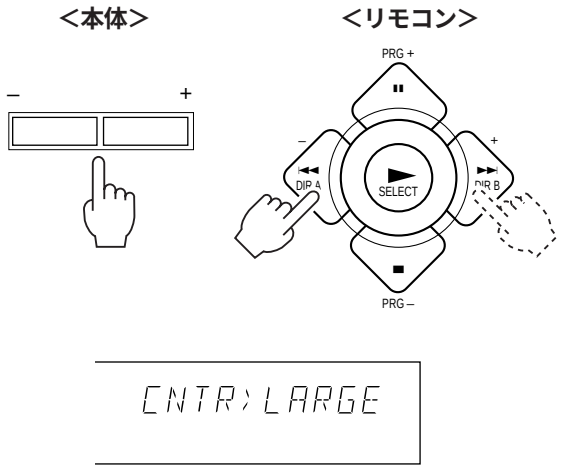


SET MENUキーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。1～5がスピーカーモードです。



<次ページへ続く>

2 **－／＋キーを押して設定する**



スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキーを何回か押してセットメニューの表示を消します。

各スピーカーモードの設定内容

1. CNTR（センタースピーカーモード）

使用するセンタースピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL/NONE）を選択します。

LARGE（ラージ）： センタースピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の全帯域を、そのままセンタースピーカーに出力します。

SMALL（スモール）： センタースピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。センターチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（27ページ）で選択したスピーカーに出力します。

NONE（ノン）： センタースピーカーを使用していないときのモードです。センターチャンネル信号は、メインのL, Rスピーカーに同じレベルで振り分けられます。

ラージ

CNTR› LARGE

スモール

CNTR› SMALL

ノン

CNTR› NONE

2. REAR（リアスピーカーモード）

使用するリアスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

LARGE（ラージ）: リアスピーカーに大型のスピーカーを使用したり、リアスピーカーへサブウーファーをスピーカーケーブル結線で接続して使用する場合（9ページ）のモードです。リアチャンネル信号の全帯域を、そのままリアスピーカーに出力します。

SMALL（スモール）: リアスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。リアチャンネル（サラウンド）信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（27ページ）で選択されたスピーカーに出力されます。

ラージ

REAR› LARGE

スモール

REAR› SMALL

3. MAIN（メインスピーカーモード）

使用するメインスピーカーに合わせて、モード（LARGE/SMALL）を選択します。

LARGE（ラージ）： メインスピーカーに大型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の全帯域を、そのままメインL、Rスピーカーに出力します。

SMALL（スモール）： メインスピーカーに小型のスピーカーを使用するモードです。メインL、Rチャンネル信号の90Hz以下の低音域は、「4. BASS」（下記参照）で選択されたスピーカーに出力されます。

ラージ

MAIN>LARGE

スモール

MAIN>SMALL

4. BASS（バスアウトモード）

LFE/BASS信号を出力するスピーカーを設定します。
（LFE信号：ドルビーデジタルやDTSなどに含まれる低域効果音……17ページ）

SW（サブウーファー）: サブウーファーを使用する場合。
LFEと、1〜3の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、サブウーファーに出力されます。

MAIN（メイン）: サブウーファーを使用しない場合。
LFEと、1〜3の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、メインL、Rスピーカーに出力されます。

BOTH（ボース）: サブウーファーを使用し、さらにメインスピーカーモードの設定に関わりなく、メインスピーカーの低音域をサブウーファーにミックスする場合。
LFE、メインチャンネルの低音域（90Hz以下）と、1〜2の設定により他チャンネルの低音域（90Hz以下）が、サブウーファーに出力されます。

サブウーファー

BASS>SW

メイン

BASS>MAIN

ボース

BASS>BOTH

メモ

“BOTH”に設定すると、「3. MAIN」（メインスピーカーモード）の設定にかかわらず、メインL、Rチャンネル信号の全帯域がそのままメインL、Rスピーカーに出力されます。

5. M. LVL（メインレベルモード）

メインスピーカーの音量レベルを選択します。テストトーンでのスピーカーレベル調節（28ページ）の際に設定しておけば、再度設定する必要はありません。

NRML（ノーマル）: 通常はこの設定にします。テストトーンでのスピーカーレベル調節も、まずこの設定で行います。

−10dB: テストトーンでのスピーカーレベル調節の際、リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを最大（＋10dB）にしてもメインスピーカーよりも音が小さい場合は、この設定にします。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。

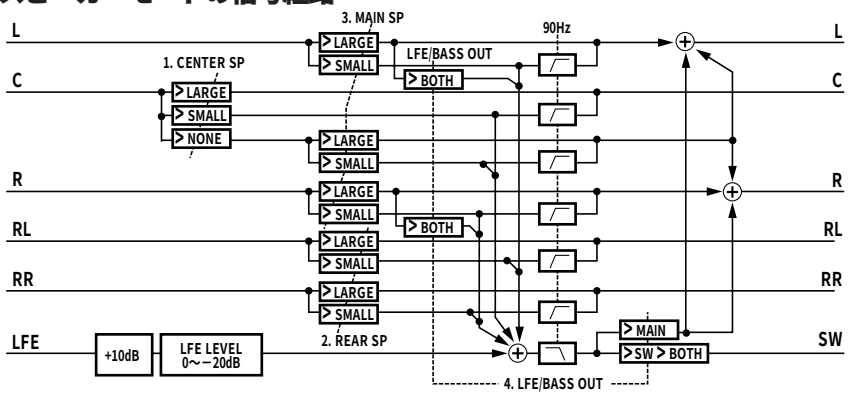
ノーマル

M.LVL>NRML

−10dB

M.LVL> -10dB

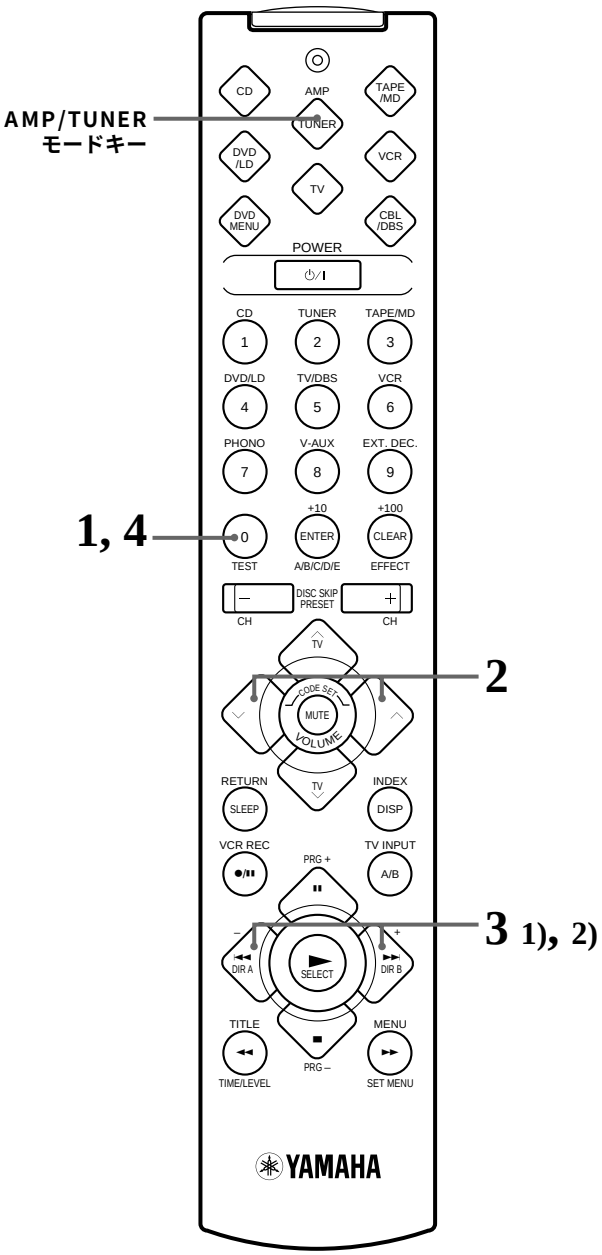
スピーカーモードの信号経路



スピーカーレベルの調節＜再生の前に＞

テストトーンを聞きながら、設置した各スピーカーの音量レベルが同じになるように調節します。一度調節すれば、スピーカーや部屋を変えたりしない限り、再度調節する必要はありません。

- リモコンで操作します。AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。
- 実際の視聴位置で調節してください。
- 左右のメインスピーカーの音量バランスは、あらかじめ本体のBALANCEツマミで調節しておきます。
- テストトーンでは左右メインスピーカーの音量調節はできません。

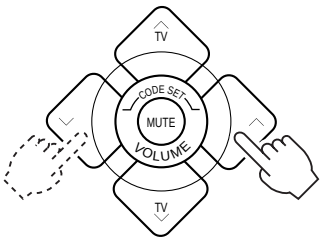


1 TESTキーを押す

各スピーカーからテストトーンが約2.5秒づつ聞こえ、次のように表示されます。

センターモードのNONEを選んでいるときは、センタースピーカーからテストトーンは出ません。

2 テストトーンの音量をVOLUMEで調節する

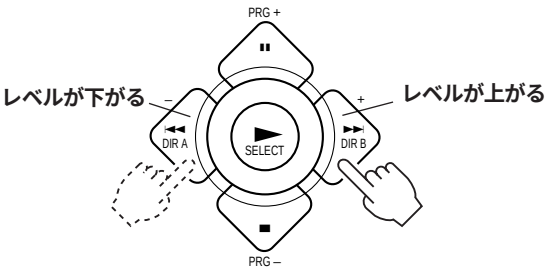


- テストトーンが聞こえない場合や、スピーカーの表示と聞こえる位置が違うときは、VOLUMEを絞り電源を切ってから、スピーカーの接続を確認してください。

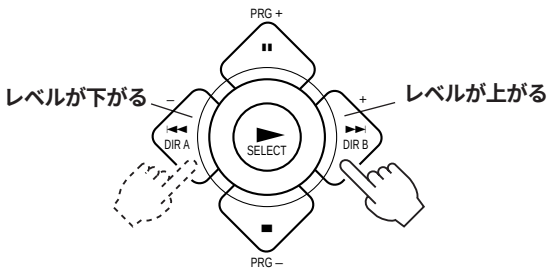
3 センタースピーカーとリアスピーカーの音量がメインスピーカーと同じになるように調節する

1) センタースピーカーの音量調節：

センタースピーカーからテストトーンが出ているときに（TEST CNTR表示のとき）、－／＋キーを押して調節する



- 調節中はセンタースピーカーにテストトーンが固定されます。
- センターモードがNONEのときはセンターレベルの調節はできません。また、メインスピーカーに振り分けられたセンターチャンネルの音量も調節できません。

2)	**リアスピーカーの音量調節：** **左リアスピーカーまたは右リアスピーカーからテストトーンが出ているときに(TEST L SURまたはTEST R SUR表示のとき)、－／＋キーを押して調節する**  ● 調整中のスピーカーにテストトーンが固定されます。 ● 左右のリアスピーカーの音量を調節してください。
4	**調節が終わったら、TESTキーを押す** テストトーンが消えます。

調節できるレベルの範囲

MINと－20dBから＋10dBです。調節したレベルが約1秒表示されます。MINのときは音量が最小になります。

入力が外部デコーダー(EXT. DECDR表示)のとき

TESTキーを押すと2チャンネルプロロジックに切り換わり、センター、リアのレベル調節ができます。

ご注意

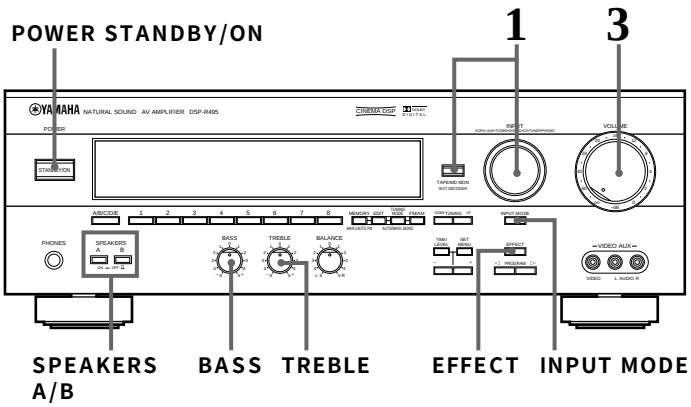
テストトーンでの調節では、メインスピーカーの音量を変えることはできません。

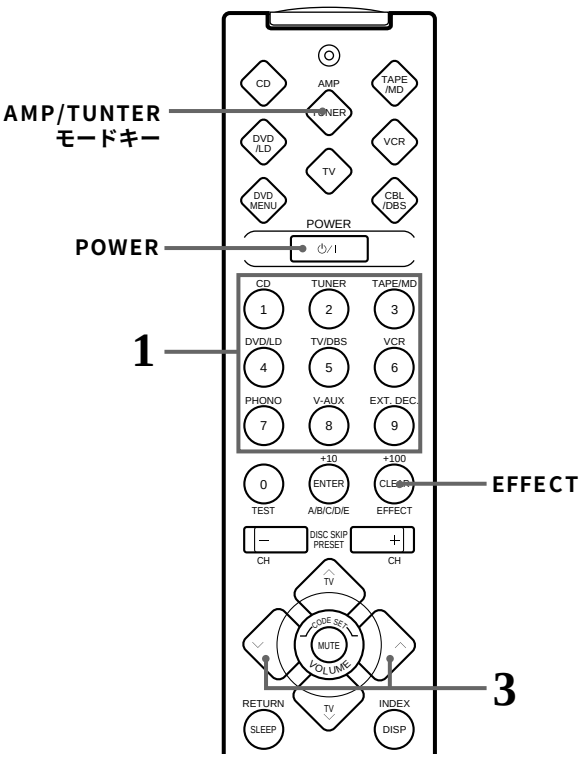
メモ

リア・エフェクトスピーカーおよびセンタースピーカーの音量レベルを＋10dBまで上げてもメインスピーカーより音が小さい場合は、セットメニューの「5. M. LVL(メインレベル)」を“－10dB”に設定します(27ページ)。メインスピーカーの音量レベルを約1/3に下げることができます。メインレベルを変更した場合は、センタースピーカー、リアスピーカーのレベル調節をもう一度行ってください。

再生する

VOLUMEを絞ってからPOWER STANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。メインスピーカーを2組接続している場合は、SPEAKERSスイッチで使用するスピーカーを設定します。





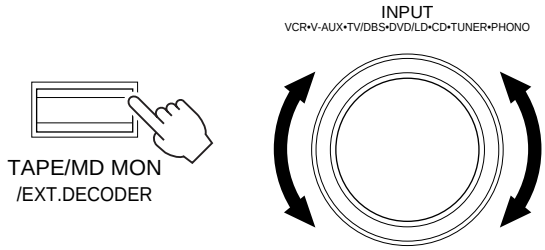
● リモコンを使うときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。

1 インプットセレクターで再生するソースを選ぶ

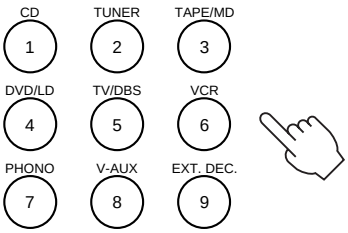
本体では、インプットセレクターを回して再生するソース名を表示させます(テープ／MDまたは6チャンネルディスクリート音声を聴くときは、TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを1回または2回押して再生するソース名を表示させます)。

リモコンでは再生するソースのインプットセレクターを押します。

<本体>



<リモコン>



オーディオ系

CD：　CDを聴く。
TUNER：　AM/FM放送を聴く。
PHONO：　レコードを聴く。
TAPE/MD MON/EXT. DECODER：
TAPE/MDのソースまたはEXTERNAL DECODER INPUT端子に入力した6チャンネルディスクリート音声を聴く。

本体のTAPE/MD MON/EXT. DECODERを押すたびにTAPE/MD MON→EXT. DECDR→オフ(TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押す前に選んでいた入力)の順に切り換わります。テープまたはMDを聴くときは、TAPE/MD MONインジケーターを点灯させます。6チャンネルディスクリート音声を聴くときは“EXT. DECDR”表示にします。

リモコンではTAPE/MDキーまたはEXT. DEC.キーを押します。

ビデオ系

VCR ：　ビデオを見る。
VIDEO AUX：前面のVIDEO AUX端子に接続したAV機器を再生する。
TV/DBS：　テレビ放送または衛星放送を見る。
DVD/LD：　DVDまたはLDを見る。

DVD/LDまたはTV/DBS入力信号の切り換え

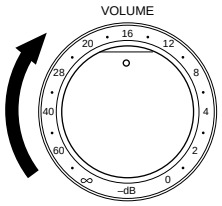
DVD/LDまたはTV/DBSを選ぶと、ソース名と入力信号の設定(AUTOまたはANALOG)が表示されます。設定を切り換えるには本体のINPUT MODEキーを押すか、リモコンの現在入力しているソースのインプットセレクターを押します(例えば、DVD/LDを選んでいるときは、インプットセレクターのDVD/LDキーを押します)。くわしくは、次頁の「入力信号の切り換え」を参照してください。

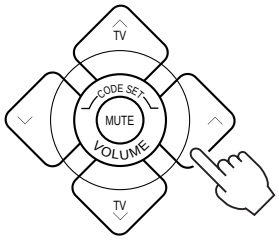
2 ソースの再生を始める

- 再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

3 VOLUMEで音量を調節する

<本体>　<リモコン>





必要ならば、音質をトーンコントロール(BASS、TREBLE)で調節します。「音質調節」を参照してください。

BGV機能(リモコン操作のみ)

リモコンのインプットセレクターでビデオ系ソースを選択した後、オーディオ系ソースを選択すると、映像はそのまま残り、BGV(バックグラウンドビデオ)として楽しむことができます。

外部デコーダーからの音声入力について

6チャンネルディスクリート音声に対応しているDVDなどのソフトでは、音声を6チャンネルディスクリート音声でお楽しみいただけます。

例： DVDプレーヤーの音声をEXTERNAL DECODER INPUT端子から接続した外部デコーダーからの6チャンネルディスクリートで楽しむには

インプットセレクターでDVD/LDを選び、TAPE/MD MON/EXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押して“ EXT. DECDR ”表示にします。DVDの映像とともに、DVDの音声を6チャンネルディスクリートでお楽しみいただけます。音声をデジタル入力やアナログ2チャンネル入力に戻すには、TAPE/MD MON/EXT. DECODERキー(リモコンではEXT. DEC.キー)を押して“ EXT. DECDR ”表示を消します。

音場プログラムを選ぶには

PROGRAM◁／▷キー(リモコンではPRG＋／－キー)を押します。詳しくは35ページをご覧ください。

通常のステレオ再生

EFFECTキーを押して“ EFFECT OFF ”表示にします。リア、センタースピーカーからの音は出ません。

- 入力をEXT. DECDR(外部デコーダー)にすると本機の音場プログラムは選べません。

ご注意

- TAPE/MD MONインジケーターが点灯していると、他のソースを選んでも音は聞こえません。テープデッキやMDを再生しないときはTAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押してTAPE/MD MONインジケーターを消してください。(リモコンではTAPE/MDキーを一度押します。)
- REC OUT端子に接続されている機器の電源が切られている場合、聴いているソースの音量が下がったり、歪んだりすることがあります。そのようなときは、接続機器の電源を入れてお使いください。

音質調節

BASS

低音域を調節するツマミで、右(＋)に回すほど低音域が強調され、左(－)に回すほど弱まります。
0の位置でフラットな特性になります。

TREBLE

高音域を調節するツマミで、右(＋)に回すほど高音域が強調され、左(－)に回すほど弱まります。
0の位置でフラットな特性になります。

- トーンコントロール(BASS・TREBLE)は、メイン左右チャンネルだけに働き、センターおよびリアチャンネルには働きません。
- トーンコントロール(BASS・TREBLE)でメインを極端に強調したり弱めた場合、センターおよびリアとの音のつながりが悪くなりますので注意してください。

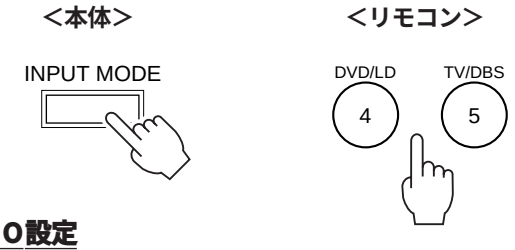
一時的に音量を下げるには

リモコンのMUTEキーを押します。もういちど押すともとの音量に戻ります。または、リモコンのインプットセレクター、PRG＋／－キー、VOLUMEキー、EFFECTキーなどのうち、どのキーを押してもミュートを解除できます。

- ミュート中は“ MUTE ON ”を表示します。

入力信号の切り換え

デジタル／アナログ両方の入力端子を持つDVD/LDとTV/DBSでは、入力信号を“AUTO”と“ANALOG（固定）”に切り換えることができます。
本体のINPUT MODEキー、またはリモコンのインプットセレクター（DVD/LDまたはTV/DBS）を押すと現在の入力モードを表示します。入力モード表示中にもう一度押すと入力モードを切り換えることができます。



AUTO設定

DVD/LD： デジタル同軸入力→デジタル光入力→アナログ入力の優先順で入力を自動選択します。

TV/DBS： デジタル光入力→アナログ入力の優先順で入力を自動選択します。

ANALOG設定

アナログ入力に固定します。

ご注意

- DVD/LDでは電源を切ると“AUTO”にリセットされます。
- TV/DBSでは電源を切るとセットメニュー「10. INPUT」（38ページ）での設定にリセットされます。
- デジタル音声が入っていないLDソフトでは、入力モードを“ANALOG”に設定してください。
- DVD/LDのドルビーデジタル音声再生時、ポーズ／チャプター送りなどから再生に切り換えると、ドルビーデジタル音声に切り換える前に、PCM／アナログ音声が一瞬出力されることがあります。
- 再生機器によっては、アナログとデジタルで異なる信号を出力する場合があります。必要に応じて入力モードを切り換えてください。

音場効果を楽しむ

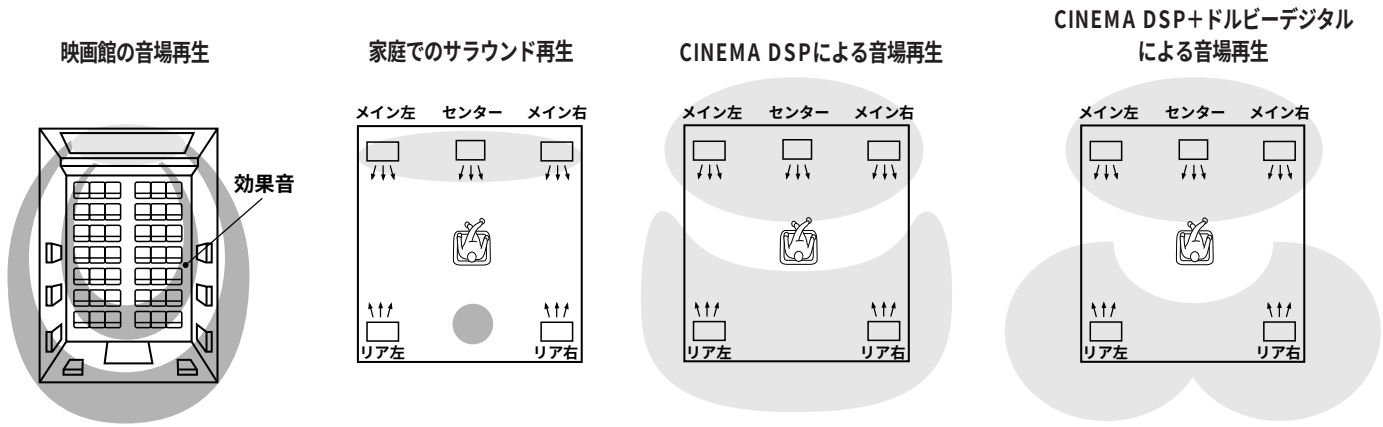
本機は、ドルビームービーサウンドを忠実に再生するムービーサウンド音場や、より幅広い表現力を持つCINEMA DSP音場プログラムに加え、世界各国の著名な演奏会場での実測データをもとに作成されたHiFi-DSP音場プログラムを内蔵しています。メモリーされている音場プログラムは11種類。再生するときに音場を呼び出し、その臨場感と効果をお楽しみください。

CINEMA DSP音場プログラムの特長

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「CINEMA DSP」です。映画のサラウンドデコーダーであるドルビープロ・ロジックやドルビーデジタルとヤマハDSPを融合し、映画のサラウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ(最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス)でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。
CINEMA DSPの音場プログラムでは、メインL/R、センターチャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムースな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド音場に包まれます。

- 入力モードが"AUTO"に設定されている場合、ムービーサウンド音場プログラムとCINEMA DSP音場プログラムは、ドルビーデジタル信号が入力されると、自動的にドルビーデジタルに対応した音場処理に最適化されます。プログラムNo.1～3でのドルビーデジタル入力時はプログラム名も変わりますが、音場の目的とする効果のコンセプトは変わりません。



音場プログラム名と最適ソース

■ ムービーサウンド音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
1	DOLBY PRO LOGIC（ドルビー プロ ロジック）	ドルビープロ・ロジックデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。セパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。
	DOLBY DIGITAL＊（ドルビー デジタル）	ドルビーデジタルデコーダーで正確に処理されたムービーサウンドをストレートに再生します。特にセパレーション特性に優れ、スムーズで正確な音源の移動や定位が得られます。

- プログラムNo.1の＊表示は2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル入力時のプログラム名です。

<次ページへ続く>

■ CINEMA DSP音場プログラム名と最適ソース

No.	プログラム名	特長および最適ソース
2	DOLBY PRO LOGIC ENHANCED（ドルビー プロ ロジック エンハンスト）	ドルビーサラウンドのオリジナル定位を乱すことなく、正確なデコード動作とDSP処理を行います。 35mm映画館のマルチサウンドスピーカーを、より理想的なものへシミュレーションした音場です。サラウンド音場は、視聴者を左右後方から美しい響きで包み込みます。そのため、音の移動は後方から左右、スクリーンに自然につながり、映画制作側の意図する効果を再現します。
	DOLBY DIGITAL ENHANCED＊（ドルビー デジタル エンハンスト）	
3	70mm MOVIE THTR（ムービー シアター）	最新の映画のサウンドデザインをセリフと音楽効果音にクールに描き分け、静けさの中に広大なシネマ空間を演出します。高度なテクニックを駆使したドルビーステレオ、ドルビーデジタルなどのシネマサウンドの世界を仮想空間音場で楽しめます。
	DIGITAL MOVIE THTR＊（デジタル ムービー シアター）	
4	MONO MOVIE（モノ ムービー）	古いモノラル名作映画専用のポジションです。オペラハウス系のプレゼンス音場と適度な残響処理により、往年の名作映画のモノラル音声が臨場感を持って再生されます。
5	TV SPORTS（スポーツ）	様々なバラエティーや中継番組に、適用範囲の広い音場効果を再現。スポーツ中継のステレオ放送では、解説者は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲へと拡がります。後方回り込みは適度に抑えてあるので、長時間使用しても違和感がありません。

- ドルビープロ・ロジックデコーダー、方向性強調回路、またはドルビーデジタルデコーダーが使用されます。
- メインL/R、センター、リアL/Rから出力されます。センタースピーカーを使用した場合は、良好なセンター定位が得られます。
- メインL、Rも方向性強調回路で信号処理されるので、ソースによっては左右メインスピーカーの音量が極端に異なる場合があります。（ドルビーデジタル時を除く）
- プロ・ロジックおよびプロ・ロジックエンハンストは、方向性強調回路を使用するため、ソースがモノラルの場合、リアスピーカーから音は出ません。
- 音場プログラムは名前にこだわらず、聴感上最も気に入ったものを選択してください。また、実際に聴くときは、プログラムの音場にリスニングルーム自体の音場が付加されます。プログラムの音場を楽しむには、リスニングルームをできるだけデッドに（反射音が無いように）調節しましょう。
- プログラムNo.2と3の＊表示は2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル入力時のプログラム名です。

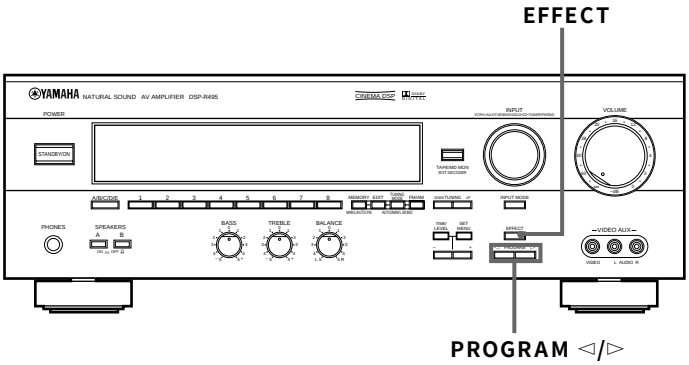
■ HiFi-DSP音場プログラム名と最適ソース

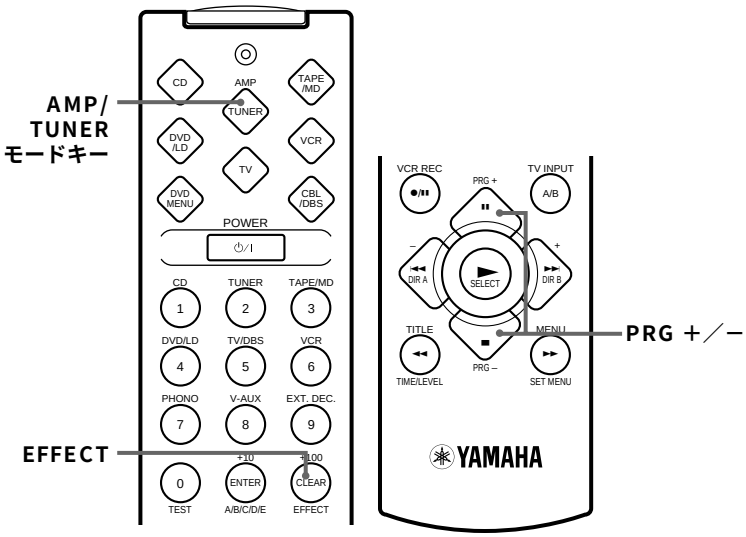
No.	プログラム名	特長および最適ソース
6	DISCO（ディスコ）	ディスコミュージックに包まれる乗りの良い音場空間を演出するプログラムです。
7	ROCK CNCT（ロック コンサート）	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、客席は最高時で約460程です。客席中央左寄りの音場です。
8	CNCT HALL（コンサート ホール）	ヨーロッパに多くみられる内装材にシックな木の内張りが使われた、ミュンヘンにある2500席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席の位置は、1階の中央左寄りです。

- No.6～8のプログラムではメインL/R、リアL/Rから出力されます。
- 入力が2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号のときは、No.6～8のプログラムでもセンタースピーカーから音が出ます。
- ドルビーデジタル入力時もプログラム名は変わりません。
- 実測データを採用しているため、プログラムによっては効果音の左右バランスが異なるものがあります。

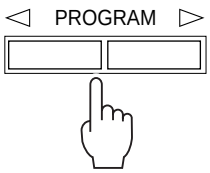
- ドルビーデジタルとドルビープロ・ロジックは、ドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、DOLBY、PRO LOGIC及びダブルD記号DDはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの商標です。

音場プログラムの選びかた





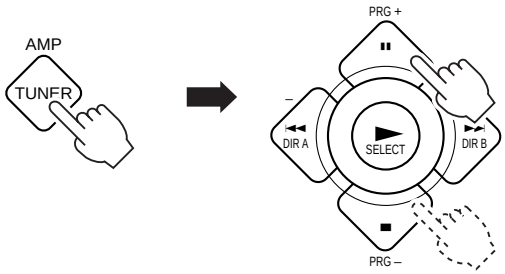
本体で操作するとき



PROGRAM◁／▷キーを押して、お好みの音場プログラムを表示させます。

リモコンで操作するとき

AMP/TUNERモードキーを押してから、PRG＋／－キーを押して、お好みの音場プログラムを表示させます。



プロセッシングインジケーターについて

DIGITAL

音場プログラム再生中、2チャンネル以外でエンコードされたドルビーデジタル信号再生時に点灯します。

PRO LOGIC

音場プログラムNo.1から3で再生中、2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号再生時に点灯します。

DSP

音場プログラムNo.2から8で再生中に点灯します。

ご注意

ドルビーデジタルの記録チャンネル数は、ソフトにより異なります。

音場プログラムの入／切

EFFECTキーを押すたびに音場プログラムの入／切ができます。音場プログラムをオフにするとEFFECT OFFが表示されます。

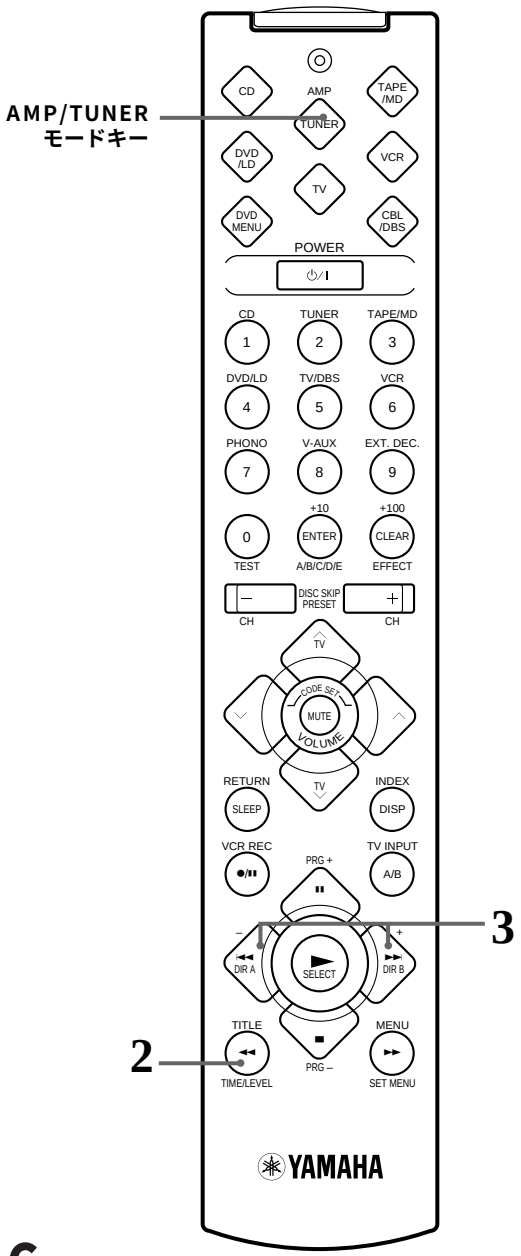
音場プログラムのメモリー

音場プログラムを設定すると、そのとき選んでいるインプットセレクターにメモリーされます。音場プログラムを変えない限り、インプットセレクターで入力を選ぶと、設定したプログラムになります。

ディレイタイムの調節とスピーカーレベルの再調節

ディレイタイムは各プログラムごとに最適値がそれぞれプリセットされていますので、通常は初期値のままで十分お楽しみいただけます。また、スピーカーレベルもテストトーンで調節されていれば各音場効果をお楽しみいただけます。しかし、必要があれば、再生音を聴きながらソースやリスニングルームの状況に応じてさらに調節することができます。

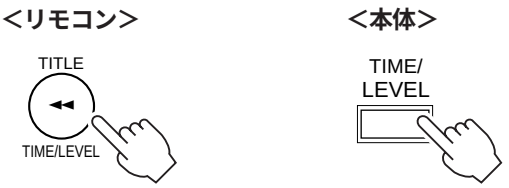
- リモコンを使うときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作してください。
- ディレイタイムは各音場ごとに設定でき、メモリーされます。
- スピーカーレベルはすべての音場に共通して設定され、テストトーンで調節したレベルは無効になります。
- ディレイタイムを長めに設定すると、音場空間が大きく感じられ、短めに設定すると、音場空間が小さく感じられます。
- センター、リアL/R、サブウーファーのスピーカーレベルが調節できます。
- 工場出荷時の初期値および調節範囲については次ページの表をご覧ください。



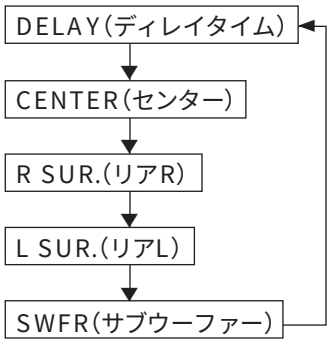
1 **音場プログラムを選び、再生する（35ページ）**

サブウーファーのレベルは音場プログラムを使わないときも調節できます。

2 **TIME/LEVELキーを何回か押して調節したい項目を表示させる**

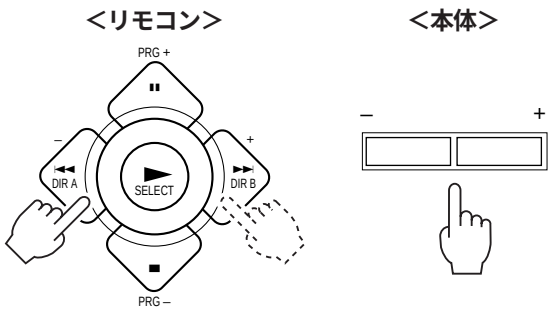


次の順序で表示されます。



- セットメニューの「1. CNTR（センタースピーカーモード）」が"NONE"に設定されている場合は、センターの項目は表示されません。また、選択した音場プログラムによっては調節できない項目があり、表示されません。

3 **－／＋キーを押してレベルを調節する**



他の音場プログラムのディレイタイムを調節したいときは、手順1～3を繰り返す

ディレイタイムの可変範囲

	プログラム名	初期値（ms）	可変範囲（ms）可変ステップ＝1ms	変更値（ms）
1	DOLBY PRO LOGIC	20	15〜30	
	DOLBY DIGITAL ＊	5	0〜15	
2	PRO LOGIC ENHANCED	20	15〜30	
	DOLBY DIGITAL ENHANCED＊	5	0〜15	
3	70mm MOVIE THTR	20	15〜30	
	DIGITAL MOVIE THTR＊	16	1〜99	
4	MONO MOVIE	49	1〜99	
5	TV SPORTS	9	1〜99	
6	DISCO	40	1〜99	
7	ROCK CNCT	16	1〜99	
8	CNCT HALL	44	1〜99	

＊ドルビーデジタル入力時のプログラム名

- ディレイタイムを変更したときは、「変更値」欄に記入しておきますと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたときなど）に便利です。

スピーカーレベルの可変範囲

スピーカー	初期値（dB）	可変範囲（dB）可変ステップ＝1dB	変更値（dB）
センター（CENTER）	0	MIN、−20〜＋10dB	
リア（右）（R SUR.）	0	MIN、−20〜＋10dB	
リア（左）（L SUR.）	0	MIN、−20〜＋10dB	
サブウーファー（SWFR）	0	MIN、−20〜0dB	

- プログラムNo.6〜8を使って再生しているとき、および2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号、アナログ信号入力時は、センターレベルの変更はできません。
- MINに設定すると音は出ません。
- スピーカーレベルを変更したときは、「変更値」欄に記入しておきますと、設定した内容が消えたとき（2週間以上、本機の電源コードをコンセントから抜いたときなど）に便利です。

初期値に戻すには

＋キーまたは−キーを押し続けます。連続的に変化する値が途中でいったん止まる表示が初期値です。

セットメニューの設定

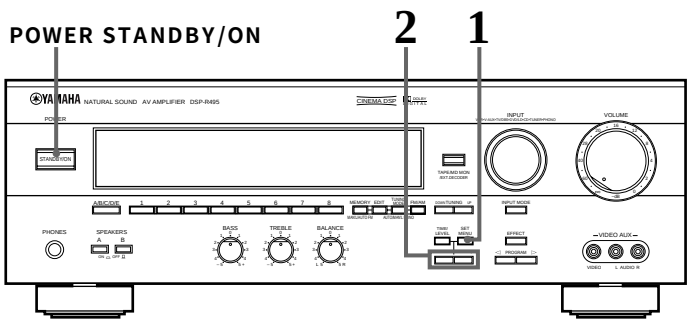
本機には10項目のセットメニューがあります。使用するスピーカーシステムに合わせて設定するスピーカーモード(25ページ)や、TV/DBSのインプットモードの設定などの機能がセットメニューに納められています。必要に応じてセットメニューを呼び出し、設定してください。

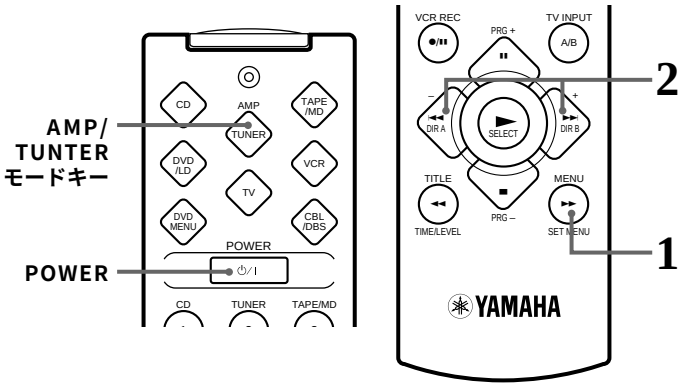
セットメニュー6〜10の設定内容

項目	設定内容	初期設定	可変範囲
エルエフイー **6. LFE**	LFEの再生レベルを設定します。	0 dB	−20〜0dB(1dBステップ)
ダイナミックレンジ **7. D. RNG**	ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジを選択します。	MAX	MAX/STD/MIN
センターディレイ **8. C. DELAY**	ドルビーデジタル再生時のセンターディレイタイムを設定します。	0ms	0〜5ms(1msステップ)
(メモリー) ガード **9. GUARD**	セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。	OFF	OFF/ON
インプット **10. INPUT**	TV/DBSの入力モードを選択します。	AUTO	AUTO/LAST

設定のしかた

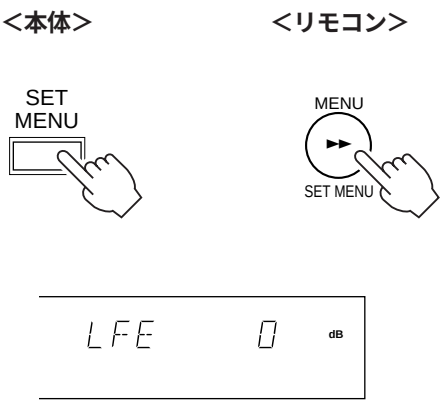
● 本体のPOWER STANDBY/ONキーまたはリモコンのPOWERキーを押して電源を入れます。



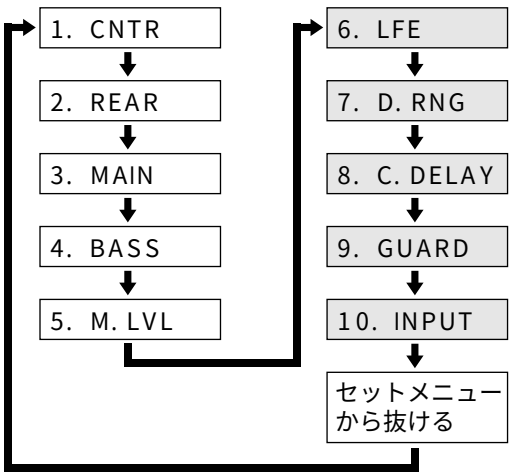


● リモコンを使うときは、AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。

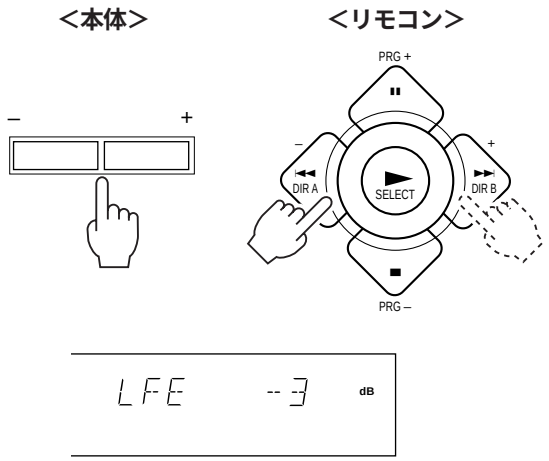
1 SET MENUキーを何回か押して、設定したいセットメニューの項目を表示させる



SET MENUキーを押すと、セットメニューは次の順序で表示されます。(1〜5のスピーカーモードについては25ページを参照してください。)



2 ー／＋キーを押して設定する



スピーカーモードの設定が終わったら

SET MENUキーを何回か押してセットメニューの表示を消します。

各メニュー項目の設定内容

6. LFE

LFE信号の再生レベルを設定します。（ドルビーデジタル再生時にのみ有効）

- LFE信号は、ドルビーデジタルソースにおいて、意図されたシーンでのみ出力される特殊な低域効果音です。ドルビー社の推奨によりLFE 0dB時は、他の5チャンネルのレベルより＋10dBに設定されています。使用するサブウーファーなどの性能に応じてLFEを調節してください。

7. D. RNG（ダイナミックレンジ）

ドルビーデジタル再生時のダイナミックレンジをMAX/STD/MINの3種類から設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）

MAX： オリジナルソースそのままのダイナミックレンジです。

STD（STANDARD）： ソフト制作者が家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MIN： 小音量でも聴きやすく、深夜の視聴に適したダイナミックレンジです。

ご注意

ドルビーデジタルソフトによってはダイナミックレンジ“MIN”に対応していないものがあり、音量が極端に下がる場合があります。そのような場合は、ダイナミックレンジを“MAX”または“STD”に設定してください。

8. C. DELAY（センターディレイ）

センタースピーカーのディレイタイムを設定します。（ドルビーデジタル再生時のみ有効）

- 通常センタースピーカーはメインL、Rスピーカーと同一線上に設置しますが、本来は同時に出た音が同時にリスナーの耳に届くように、3つのスピーカーとリスナーの距離が同一になるのが理想です。ディレイタイムを設定することによって、仮想的にセンタースピーカーの位置を遠ざけ、リスナーと3つのスピーカーとの距離を合わせることができます。目安として1ms増すと30cm遠ざかったことになります。
  センターディレイは、特にSMALLモードでセンタースピーカーを使用しているとき、セリフの量感に効果があります。

9. GUARD（メモリーガード）

セットメニュー項目の設定やレベルなどを保護します。「ON」に設定しておけば、誤動作による設定の変更を防ぐことができます。

メモリーガードで保護される設定

・ 音場プログラムのディレイタイム値
・ メモリーガード以外のセットメニュー項目
・ センター／リア／サブウーファーのレベル

ご注意

- メモリーガードを「ON」に設定すると、テストモードに入れません。
- メモリーガードを「ON」に設定すると、他のセットメニュー（SET MENU1～8、10）は呼び出せません。

10. INPUT

TV/DBSの入力モードを設定します。

AUTO： 電源オン時の入力の優先順位を、デジタル光入力→アナログ入力に設定し、入力を自動選択します。

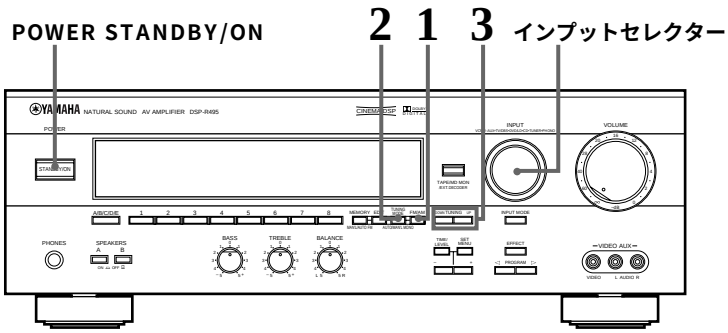
LAST： マニュアルで設定した入力（32ページ）を、電源オフ時も保持します。

FM/AM放送を聴く

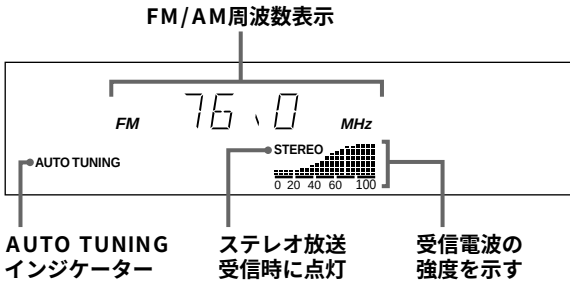
FM/AM放送を聴くときは、電源を入れインプットセレクターで入力をTUNERにしてから操作をします。

選局する

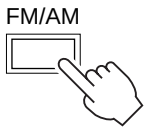
選局のしかたには、自動的に選局するオート選局と、手動で選局するマニュアル選局の2種類あります。
電波の強い放送局を受信するときは、オート選局が速くて便利ですが、電波の弱い放送局は、マニュアル選局をしてください。



放送局受信時のディスプレイ



1 **FM/AMキーを押して、バンド(FMまたはAM)を選びます。**



FM または ***AM***

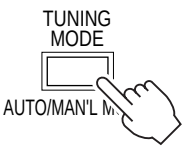
2

● オート選局

TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTO TUNINGインジケーターを点灯させます。

● マニュアル選局

TUNING MODEキーを押して、ディスプレイのAUTO TUNINGインジケーターを消します。



3 **TUNINGキーのDOWNまたはUPキーを押します。**

低い周波数の放送局を探すときはDOWNキーを、高い周波数の放送局を探すときはUPキーを押します。

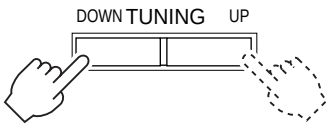
● オート選局

自動的に選局し停止します。

- 受信した放送局が希望の局ではないときは、もう一度TUNINGキーを押します。

● マニュアル選局

希望の周波数が表示されるまで押します。
押し続けると連続的に周波数が変わります。

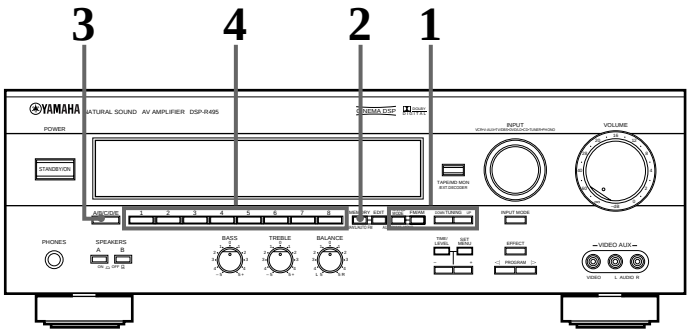


- ステレオ放送受信時に雑音が多い場合は、TUNING MODEキーを押してAUTO TUNINGインジケーターを消します。モノラル受信になりますが、雑音はある程度減ります。

放送局のプリセット

放送局をプリセット（メモリー）しておけば、あとは簡単なキー操作で選局することができます。
プリセットの方法にはFM、AM局を選局してプリセットするマニュアルと、FM局のみを自動的にプリセットするオートFMの2種類があります。

- 40局（8局×5グループ）までプリセットすることができます。
- プリセットしたときの受信モード（ステレオ/モノラル）もメモリーされます。

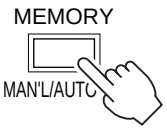


マニュアルプリセットのしかた

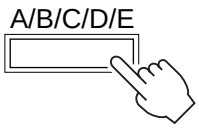
1 **オート選局またはマニュアル選局でプリセットしたい放送局を選局します。（40ページ参照）**

2 **MEMORYキーを押します。**

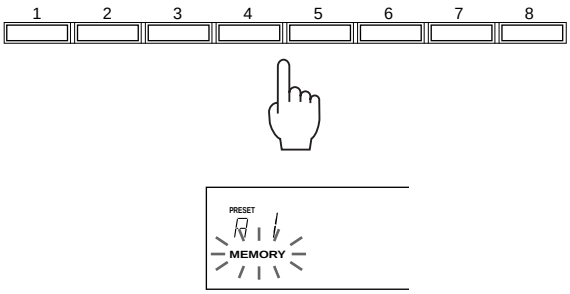
ディスプレイのMEMORYインジケーターが点滅し（約5秒間）、プリセットできる状態になります。



3 **MEMORYインジケーターの点滅中に、A/B/C/D/Eキーを押して希望のプリセットグループ（A/B/C/D/E）を選びます。**



4 **MEMORYインジケーターの点滅中に、プリセット局番号の希望のキーを押し、希望するプリセット番号を表示させます。**



MEMORYインジケーターが消え、プリセットが終わりました。
他の放送局を続けてプリセットするときは、**1**〜**4**の手順をくり返します。

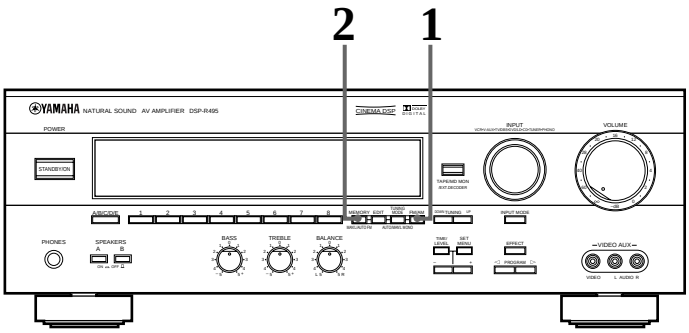
プリセットした放送局を変更するには

1〜**4**の手順をくり返します。前の放送局に変わって新しくプリセットした放送局がメモリーされます。

FM/AM放送を聴く

オートFMプリセットのしかた

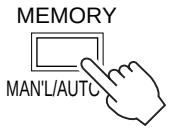
電波の強いFM放送局のみを自動的にプリセットします。



1 **FM/AMキーを押してFMを選びます。**

2 **MEMORYキーを約3秒間押し続けます。**

MEMORYとAUTO TUNINGインジケーターが点滅し、放送局を受信をするごとに、「A1」から自動的にプリセットします。



- 現在表示されている周波数から受信したFM局を順にプリセットします。
- 「E8」まで順番にプリセットすると停止します。

オートプリセットが終了すると

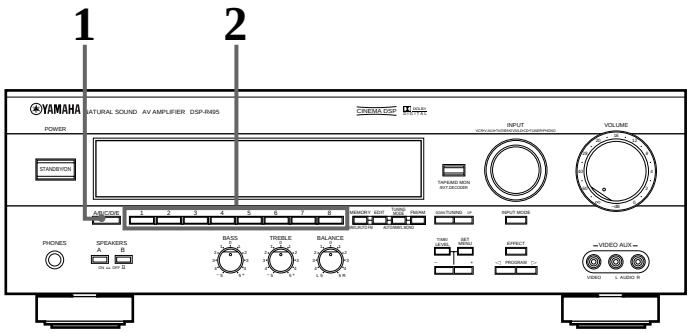
最後にプリセットした放送局の周波数が表示されます。

- プリセット番号の「A1」から順番に選局して、プリセットの内容を確認してください。
- オートプリセットでは、プリセットする放送局の数が「E8」に満たない場合は全帯域を一巡して停止します。

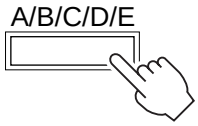
ご注意

マニュアルまたはオートプリセットで新しい放送局がプリセットされると、前にプリセットされていた放送局は消え、新しい放送局に入れかわります。

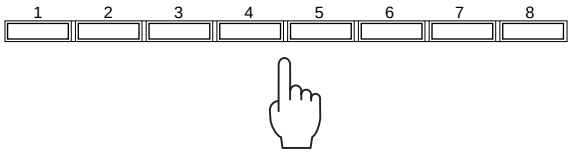
プリセット選局のしかた



1 **A/B/C/D/Eキーを押して、希望する放送局が入っているプリセットグループを選びます。**

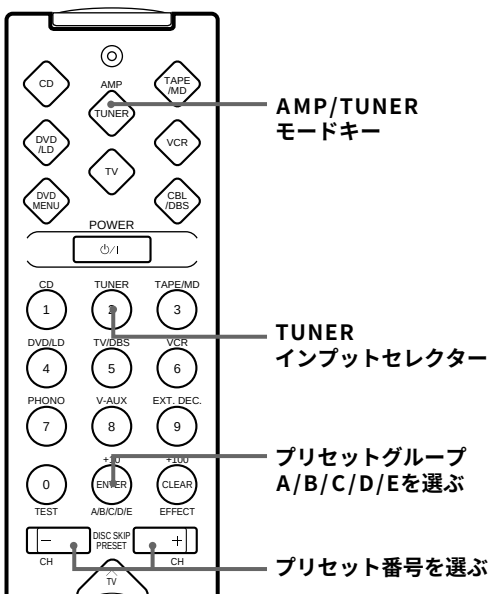


2 **プリセット局番号キーを押して、希望のプリセット番号を表示させます。**



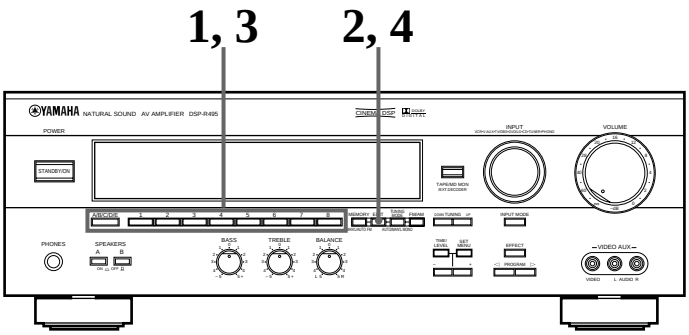
リモコンでプリセット選局するには

AMP/TUNERモードキーを押してから操作します。



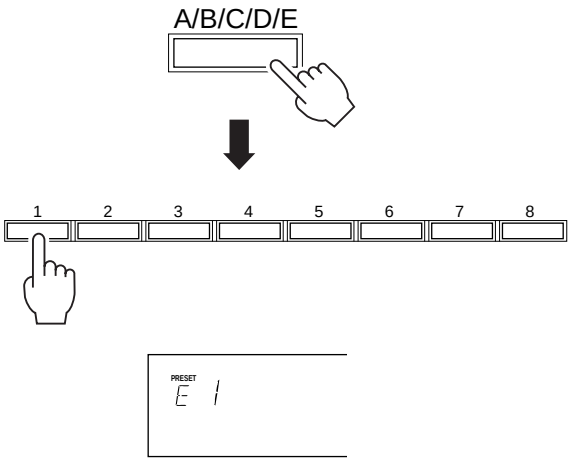
プリセット局の入れかえ

プリセットした放送局を入れかえることができます。
良く聴く放送局やバンド別などにプリセット局を分類することができます。

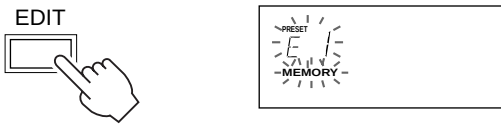


例)「E 1」にプリセットした放送局を「A 5」に、「A 5」の放送局を「E 1」に変更する場合

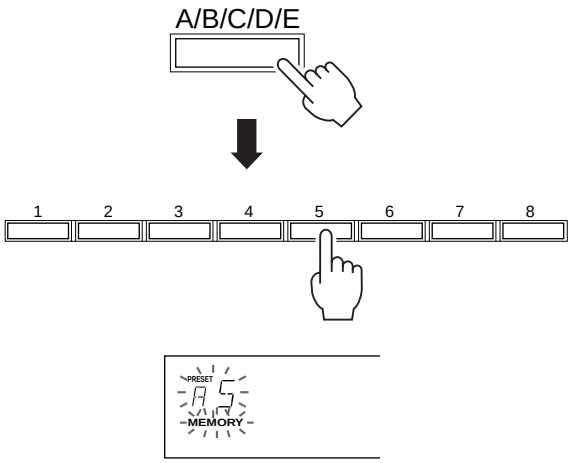
1 **A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「E 1」を選びます。**



2 **EDITキーを押します。**



3 **A/B/C/D/Eキーとプリセット局番号キーを押して「A 5」を選びます。**



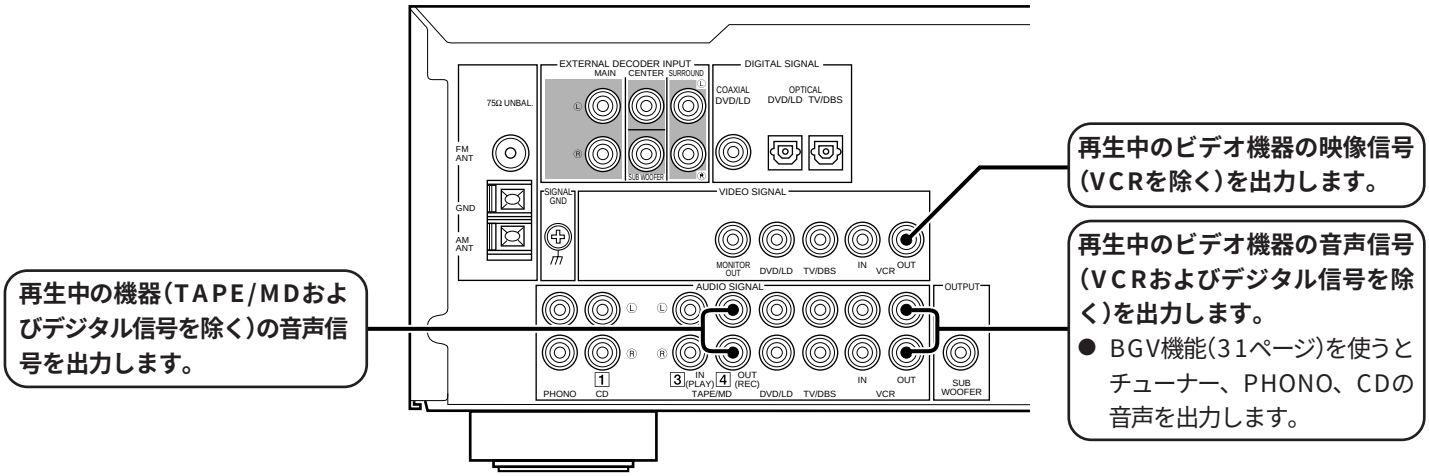
4 **EDIT キーを押します。**

プリセット局が入れかわりました。

録音／録画について

本機は、再生中のソースの音声/映像信号をそのまま音声/映像出力端子（TAPE/MD REC OUT端子）やビデオデッキ（VCR OUT端子）に出力しますので、録音/録画のための操作を本機で行うことはありません。

● 録音レベルの調節はデッキ側で行います。



CD、レコードやFM/AM放送を録音するときは

CD、レコードまたはFM/AM放送を聴いているときに、接続したテープ/MDデッキを録音操作します。

録音状態を録音中にチェックするには

3ヘッドのテープデッキで録音する場合、TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを押してTAPE/MD MONインジケーターを点灯させると録音同時モニターができます。

ビデオソースを録画するときは

DVD/LD端子やTV/DBS端子に接続したビデオ機器の音声/映像を、ビデオデッキ（VCR）端子に接続したビデオデッキで録画することができます。

● ビデオ機器を再生し、ビデオデッキを録画操作します。

ビデオテープをダビングするときは

ダビングもとのビデオデッキをフロントパネルのVIDEO AUX端子に接続します。

1	**VIDEO AUX端子に接続したビデオデッキを再生します。**
2	**VCR端子に接続したビデオデッキを録画操作します。**

映像と音声を別々のソースから組み合わせて録画したいとき

インプットセレクターでビデオ系ソースの映像を選択した後、録音したいオーディオ系ソースを選ぶとBGV（バックグラウンドビデオ）録画をすることができます。

ご注意

● 音場効果を加えた音を録音することはできません。
● BASS、TREBLEおよびBALANCEの設定は、録音に影響しません。
● 本機の電源を切ると、本機に接続されている機器間の録音/録画はできません。
● 録音/録画する際、同一ソースの録音/録画はできません。
（例：VCR IN端子から入った信号は、VCR OUT端子には出力されないので録音／録画することはできません。）
● EXTERNAL DECODER INPUT端子から入った信号は、REC OUT端子に出力されないので録音できません。
● DIGITAL SIGNALのDVD/LD端子およびTV/DBS端子から入力したデジタル音声を録音することはできません。DVD/LD、TV/DBSの音声を録音するには、デジタル・アナログ両端子を接続し、INPUT MODEキーで入力モードを“ANALOG”に設定します。
● あなたが録音/録画したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

スリープタイマー

設定した時間が経過すると電源が切れるので、聞きながらおやすみになれます。
リモコンで操作します。

1 再生する

● 本機のSWITCHED AC OUTLETのコンセントに接続した機器(ソース)を選びます。それ以外の機器を選ぶと、本機の電源は切れますが、ソース側の電源は切れません。

2 SLEEPキーを押して時間を設定する

押すごとに次のように切り換わります。
(単位：分)

設定時間を約3秒間表示したあと入力ソース表示に戻り、SLEEPインジケーターは点灯します。

● スリープタイマーは、電源を切ると解除されます。

スリープ動作を途中でやめるには

SLEEPキーを押して、SLEEP OFF表示にします。

メモリーバックアップについて

本機のPOWER STANDBY/ONスイッチで電源を切っても、インプットセレクター、ディレイタイム、センターモード、セットメニューの設定、スピーカーレベルなどの内容は消えずに、記憶(メモリー)されています。本機では、メモリー内容を保持するために、特殊なコンデンサーを内蔵してバックアップしています。また、約2週間は電源コードを電源コンセントから抜いても、メモリー内容はそのまま記憶されています。ただし、2週間以上電源コードをコンセントから外した場合には、バックアップしているコンデンサーが放電してしまい、メモリー内容が消えることがあります。このような場合には、必要に応じて各調節、設定を行ってください。

● 電源コードが電源コンセントに接続されていれば、POWER STANDBY/ONスイッチを切ってもメモリーは常にバックアップされています。メモリー内容が消えることはありません。

タイマー再生／録音

市販のオーディオタイマーと組み合わせて、タイマー再生やタイマー録音をすることができます。
ご使用になる機器やオーディオタイマーにより操作方法が異なることがありますので、それらの取扱説明書も併せてご覧ください。

接続

1 本機の電源プラグをオーディオタイマーに接続する

2 タイマー再生する機器の電源プラグを本機のAC OUTLETSに接続する

接続する機器の合計消費電力がAC OUTLETSの供給電力(100W)を超えないように注意してください。

操作

1 すべての機器の電源を入れる

2 インプットセレクターでタイマー再生／録音するソースを選ぶ

タイマー再生の場合：
再生する機器をタイマー再生ができるように操作します。

タイマー録音の場合：
放送局を受信し、デッキなど録音する機器をタイマー録音ができるように操作します。

3 本機のVOLUMEを調節する

タイマー録音で音出しをしない場合は、
VOLUMEを絞っておきます。

4 タイマー再生／録音開始時刻および終了時刻をオーディオタイマーでセットする

設定した時刻になるとタイマー／録音が開始されます。

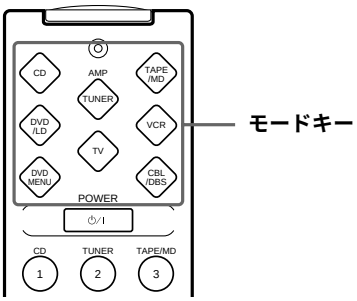
リモコンで操作する

本機のリモコンにはヤマハの機器を操作するための信号がすでにプリセットされていますが、さらに、他社の機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすれば操作できます。

- **メーカーコードのプリセットのしかた、メーカーコードの一覧表については51～54ページを参照してください。**

各機器を操作する

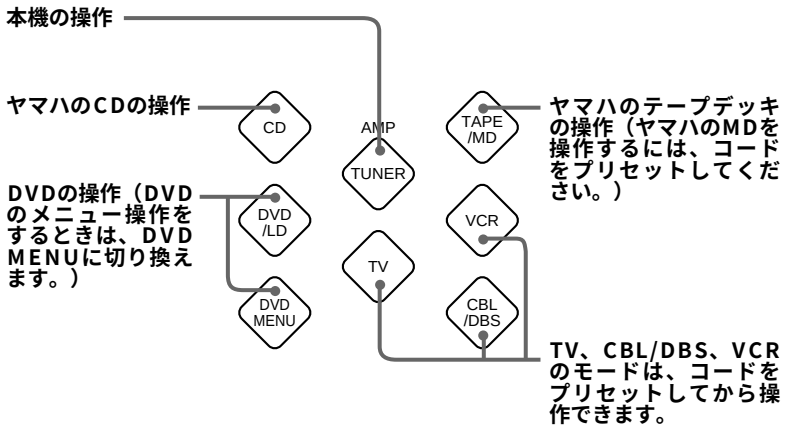
1 モードキーで、操作したい機器を選ぶ



2 操作キーを押す

操作できる機器

モードキーで、操作したい機器を選びます。



コードをプリセットできるモードキー

TAPE/MD、CDにはすでにヤマハの各機器を操作できるリモコン信号がプリセットされていますが、これらのモードキーも含め、AMP/TUNERモードキー以外には、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のコードをプリセットして操作することができます。1つのモードキーに1つのメーカーコードがプリセットできます。メーカーコードのプリセットのしかた、メーカーコードの一覧表については51～54ページを参照してください。

ヤマハDVDプレーヤーについて

DVD-1000、DVD-S700をお使いのかたは、ヤマハDVDコード“0048”をDVD/LDモードキーにプリセットしてください。

DVD/LDとDVD MENUモードキーについて

DVDコードをプリセットすると、この2つのモードキーに各操作信号がプリセットされます。

ご注意

一部のDVDではDVD MENUの操作ができないことがあります。また、DVD/LDにLDコードをプリセットするとDVD MENUの操作はできません。

2台目のVCRコードをプリセットするには

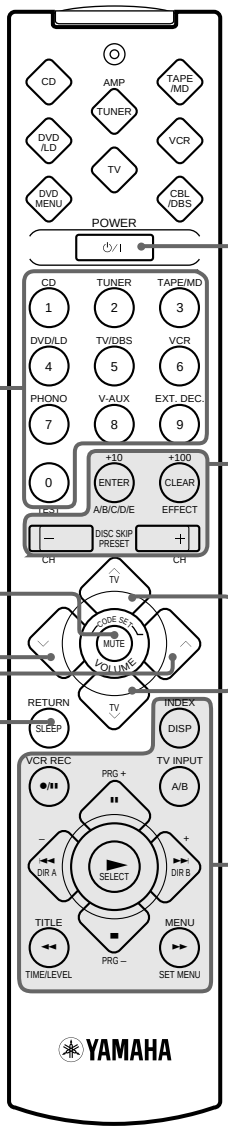
CBL/DBSモードキーに2台目のVCRコードをプリセットできます。
また、DVD/LDにLDコードをプリセットした場合、DVD MENUモードキーにプリセットすることもできます。

機器別のリモコン機能

ここでは、モードキーで選んだ機器を操作できるキーについて説明します。各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
AMP/TUNERモードについては、23〜24ページを参照してください。

機器別の操作キーと本機を操作するキー

各モードでは、機器個別の操作に加え、下記で示した部分の本機の操作ができます。

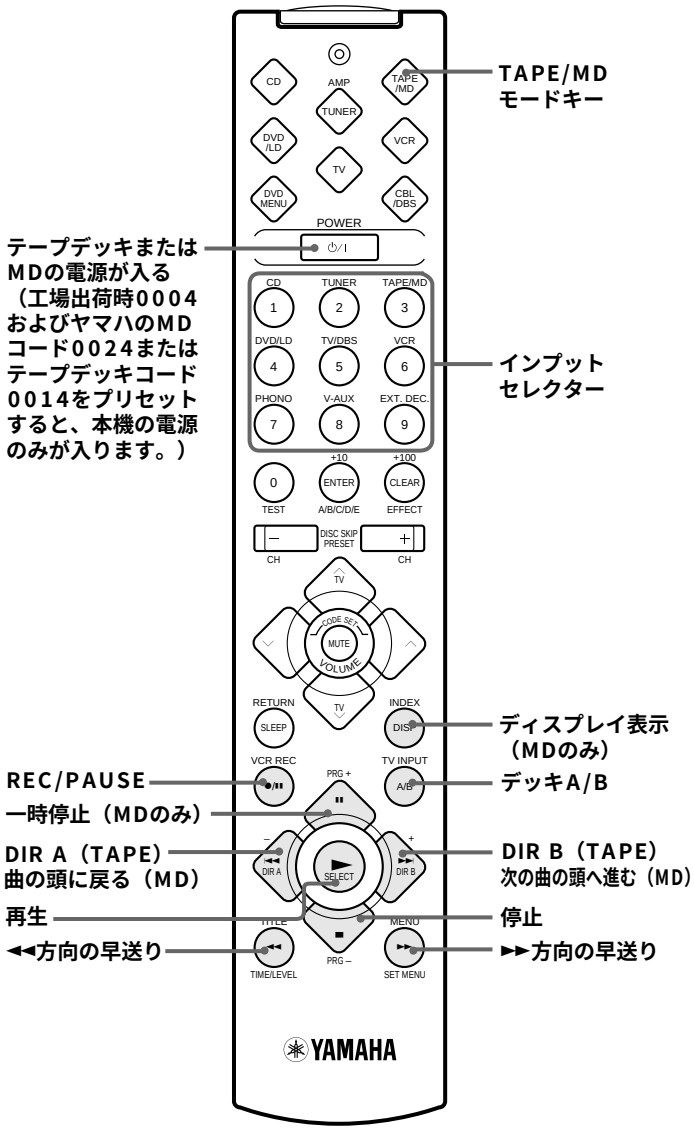


メモ

- AMP/TUNERモードのとき、POWERキーを押すと本機の電源が入ります。他機器の電源コードが本機背面のSWITCHED OUTLETSに接続されていると、本機と連動して機器の電源が入りますので、CDプレーヤー、テープデッキ、DVD/LDプレーヤーなどの電源にご利用ください。
- 電源が入っているときに、POWERキーを押すと、選ばれているモードに関係なく本機および本機背面のSWITCHED OUTLETSに接続した機器の電源が切れます。

TAPE/MDモード

ヤマハのテープデッキが操作できます。
MDを操作する場合は、MDコードをプリセットしてください。（51〜54ページ）



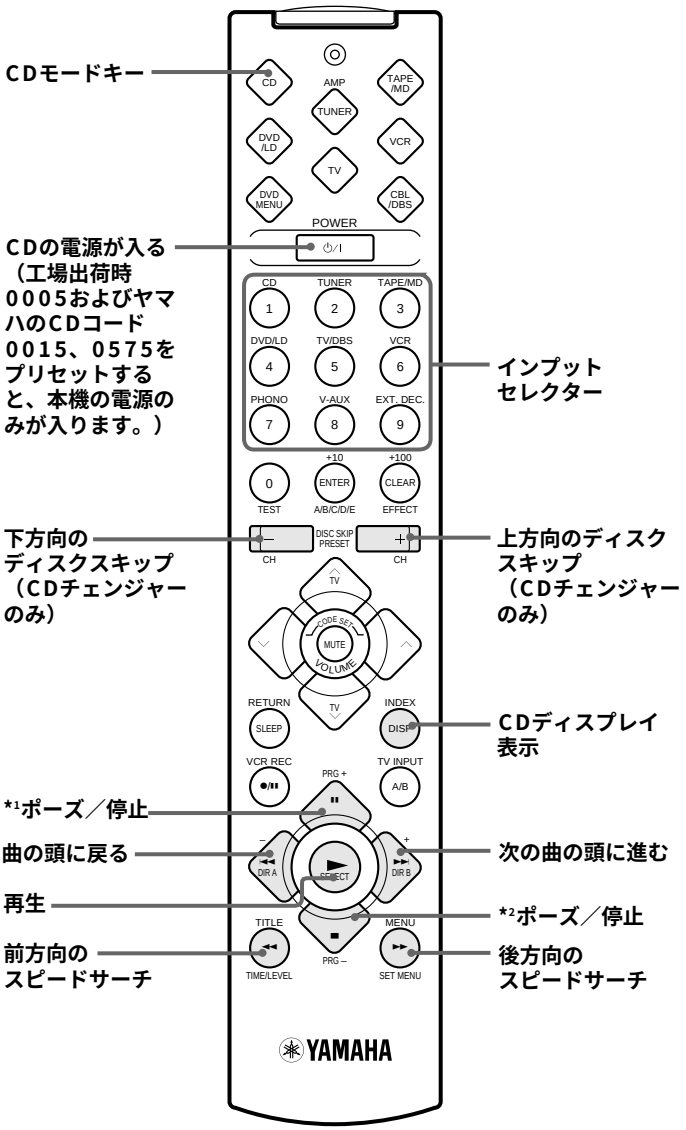
メモ

TVコードがプリセットされていると、TAPE/MDモードでもTV VOLUMEが操作できます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

CDモード

ヤマハのCDが操作できます。



メモ

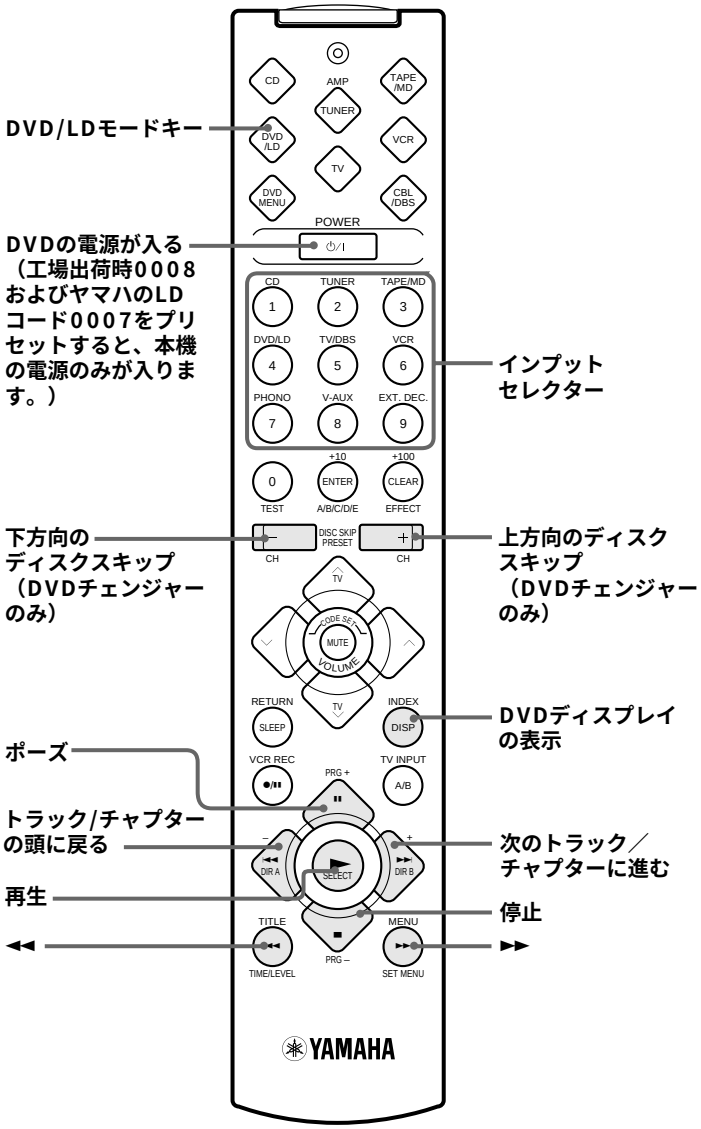
TVコードがプリセットされていると、CDモードでもTV VOLUMEとTV INPUTが操作できます。

*1 ▮▮キーについて
工場出荷時0005およびヤマハのCDコード0575をプリセットすると、▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

*2 ■キーについて
工場出荷時0005およびヤマハのCDコード0015、0575をプリセットすると、▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

DVD/LDモード

DVDが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUモードに切り換えます。
LDを操作する場合は、LDコードをDVD/LDモードキーにプリセットしてください。（51～54ページ）



ご注意

DVD-1000、DVD-S700をお使いのかたは、ヤマハDVDコード“0048”をDVD/LDモードキーにプリセットしてください。

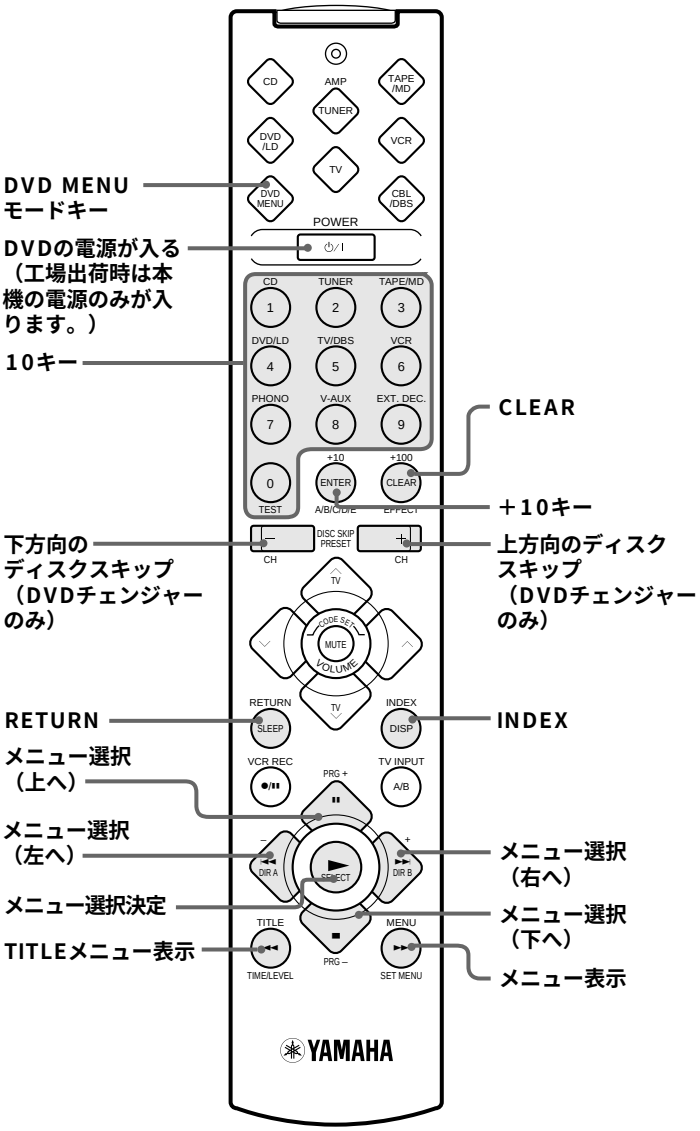
メモ

TVコードがプリセットされていると、DVD/LDモードでもTV VOLUMEとTV INPUTが操作できます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DVD MENUモード

DVDメニューが操作できます。



ご注意

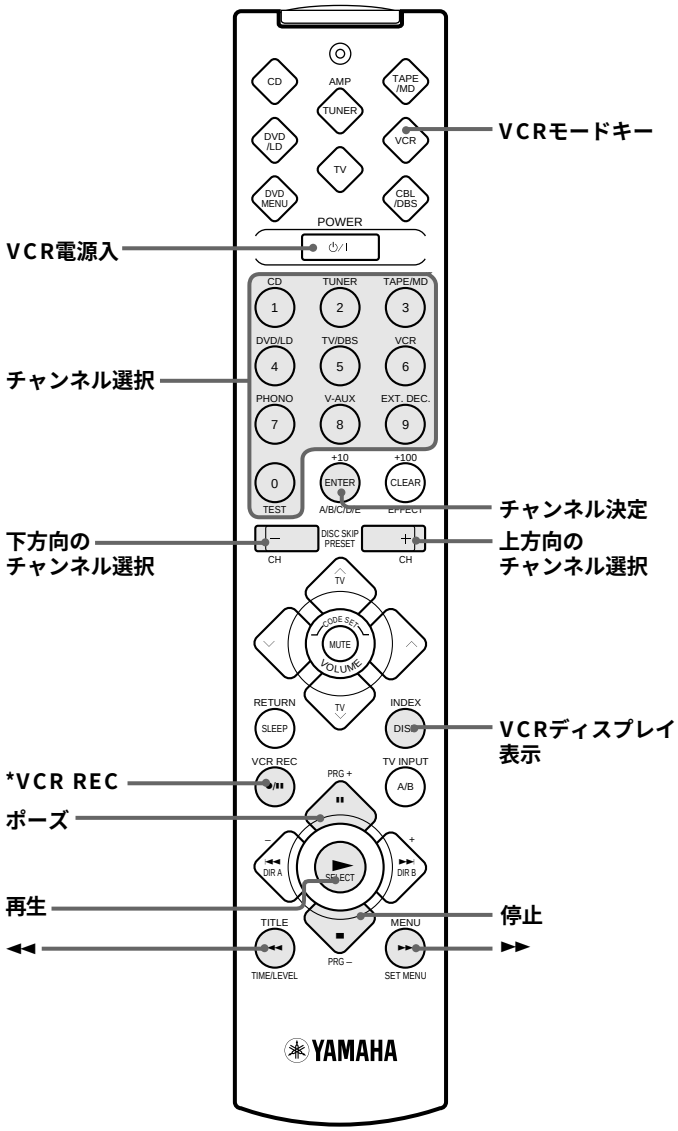
- 一部のDVDではDVD MENUの操作ができないことがあります。また、DVD/LDモードキーにLDコードをプリセットするとDVD MENUの操作はできません。
- DVD MENUモードキーにDVDまたはLDのメーカーコードをプリセットすることはできません。DVD/LDモードキーにプリセットしてください。

メモ

TVコードがプリセットされていると、DVD MENUモードでもTV VOLUMEとTV INPUTが操作できます。

VCRモード

VCRコードをプリセットした後に操作できます。



メモ

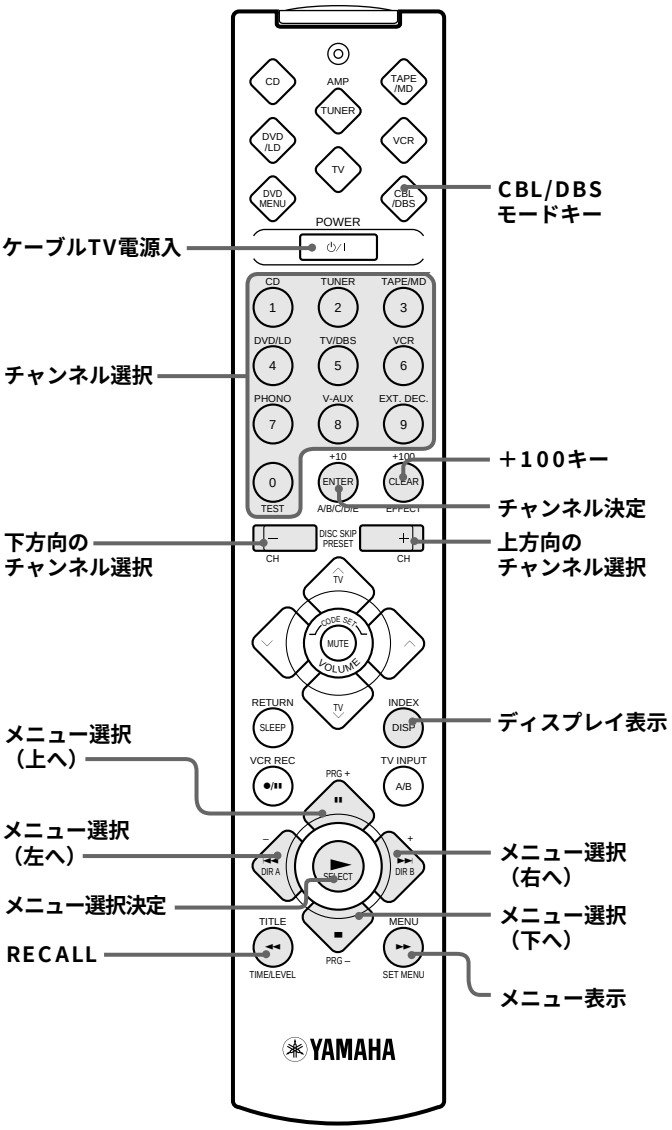
TVコードがプリセットされていると、VCRモードでもTV VOLUME、TV INPUT、TV SLEEPが操作できます。

*　VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

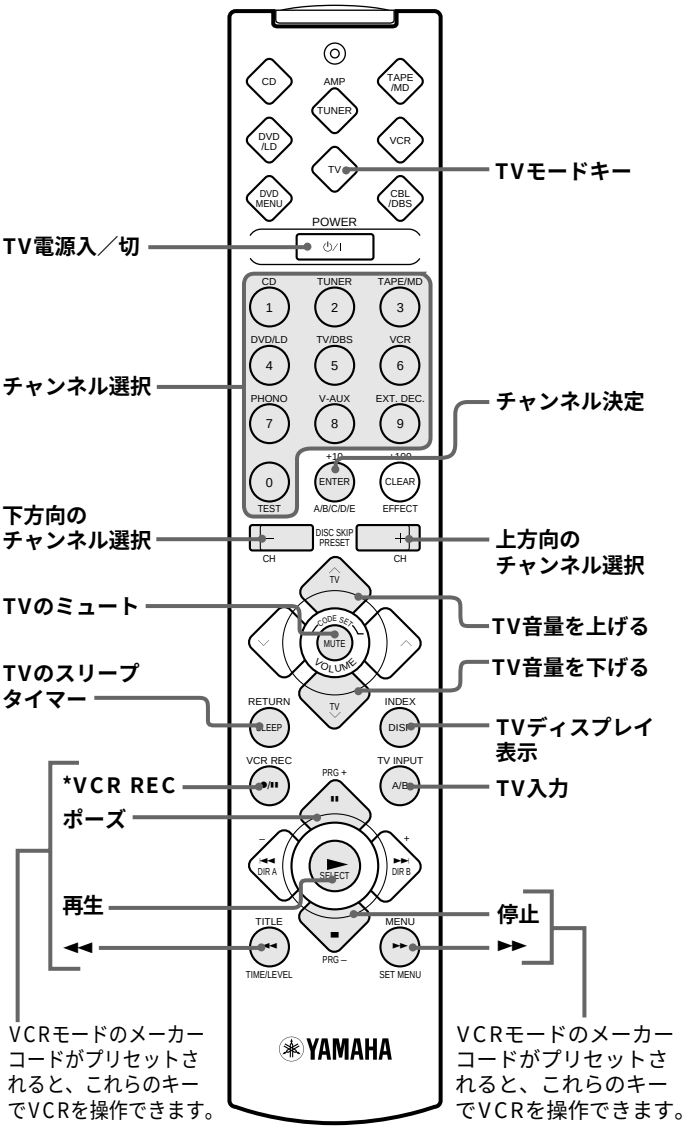
CBL/DBSモード

ケーブルTVのコードをプリセットした後に操作できます。



TVモード

TVコードをプリセットした後に操作できます。



メモ

- TVコードがプリセットされていると、CBL/DBSモードでもTV VOLUME、TV INPUT、TV SLEEPが操作できます。
- CBL/DBSモードキーに2台目のVCRコードをプリセットすることができます。プリセット方法は52ページを参照してください。

* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもあります。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

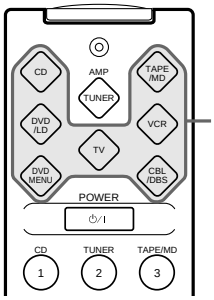
コードをリモコンにプリセットする

お使いのオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットすると、ヤマハ製品を含む各社の機器をリモコン操作することができます。

ご注意

他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

コードをプリセットできるモードキー



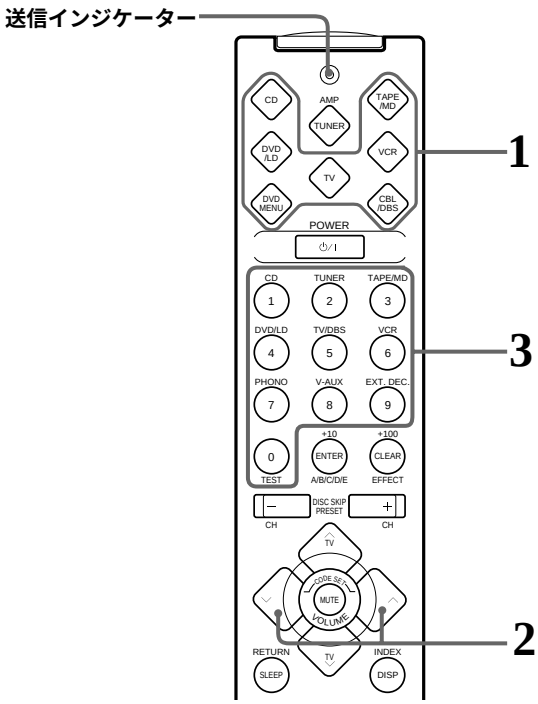
コードをプリセットできるモードキー

TAPE/MD、CDにはすでにヤマハの各機器を操作できるリモコン信号がプリセットされていますが、これらのモードキーも含め、AMP/TUNERモードキー以外にヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。**1つのモードキーに1つのメーカーコードがプリセットできます。**

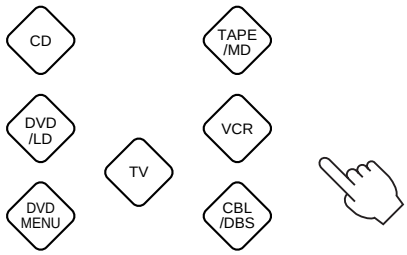
ご注意

- AMP/TUNERモードキーにはメーカーコードをプリセットできません。

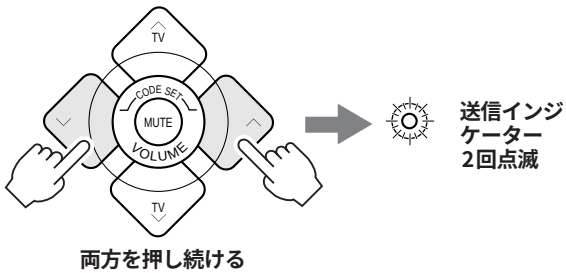
コードのプリセット



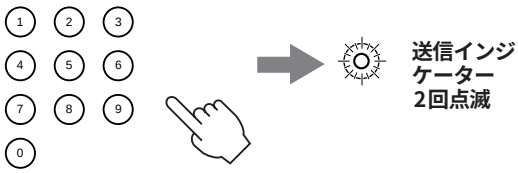
1 メーカーコードをプリセットする機器のモードキーを押す



2 送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーの両方を押し続ける



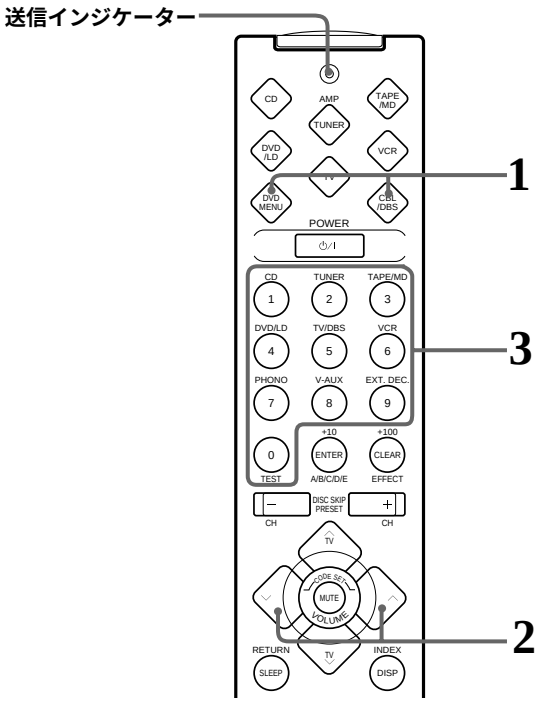
3 機器のメーカーコード（4桁）を数字キーを押して入力する



正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

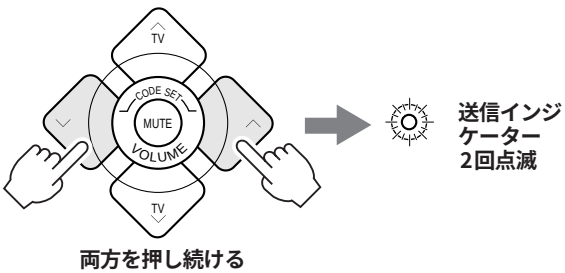
2台目のVCRコードをプリセットするには

CBL/DBSモードキーに2台目のVCRコードをプリセットできます。また、DVD/LDモードキーにLDコードをプリセットした場合、DVD MENUモードキーに2台目のVCRコードをプリセットすることもできます。

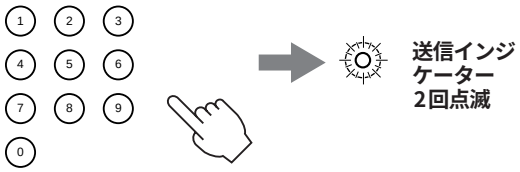


1 **CBL/DBSまたはDVD MENUモードキーを押す**

2 **送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーの両方を押し続ける**



3 **2台目のVCRメーカーコード(4桁)を数字キーを押して入力する**



正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

プリセットするときの注意

メーカーコードが正しくプリセットされると、送信インジケーターが2回点滅します。

点滅しないとき

↓

操作をやり直す

操作をやり直すときは、次の点に注意してください。

- メーカーコード番号を確かめる。
- 手順1でメーカーコードをプリセットするモードキーを必ず押す。
- 複数のメーカーコードがある場合は順番に入れてみる。
- リモコンの電池をいったん取り出し、もういちど入れる(2分以内に行ってください)。

メーカーコードをクリアーするには

各モードのクリアー

送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーの両方を押し続け、数字キーで“0000”を入力する

いま選んでいるモードキーにプリセットされているコードがクリアーされ工場出荷時の設定になります。

全クリアー

AMP/TUNERモードキー以外のモードキーを押す

↓

送信インジケーターが2回点滅するまでVOLUME ∧ ∨キーの両方を押し続け、数字キーで“9990”を入力する

リモコンの全モードキーのコードがクリアーされ、工場出荷時の設定になります。

クリアーすると、工場出荷時のコードに戻ります。

TV：0101	DVD/LD：0008(ヤマハ)
CBL/DBS：0006	CD：0005(ヤマハ)
VCR：0002	TAPE/MD：0004(ヤマハ)

メーカーコード一覧表

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。
また、他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

TV

Hitachi	0181、0351、0671、0681、0691、0701、0711、0871、0941、0971、1351
Mitsubishi	0221、0321、0561、0571、0661、0861、1031、1101、1381
NEC	0241、0351、0361、0661、0971、1031、1111、1321、1711
Panasonic	0101、0191、0251、0751、1041、1311、1371、1431
Pioneer	0511、0551、0871、1331
Sharp	0461、0471、0541、0661、0911、0941、1141、1241、1271
Sony	0371、0451、0661、0841、0951、1281、1441
Toshiba	0381、0521、0621、0661、0931、0981、1301
Victor	0641、0651、1201、1211、1221
Yamaha	0361、1031、1111、0221、0571、1381、1141

ケーブルチューナー

Pioneer	0006、0086

BSチューナー

対応メーカーなし

VCR

Hitachi	0102、0562、0572、0582、0592、0602、0992
Mitsubishi	0452、0462、0542、0762、0952、1082
NEC	0122、0202、0292、0422、0432、0542、0632
Panasonic	0012、0052、0092、0222、0372、0382、0392、0412、0932
Sanyo	0242、0612、0842、0902、0922
Sharp	0402、0472
Sony	0032、0332、0352、0362、0672、0792、0932
Toshiba	0062、0302、0342、0622、0682、0712、0762
Victor	0202、0542、0552、0532
Yamaha	0202、0632、0762

DVDプレーヤー

Panasonic	0048
Pioneer	0208、0228
Sony	0028
Toshiba	0088
Victor	0168
Yamaha	0008、0048

LDプレーヤー

Pioneer	0037、0017、0137
Sony	0047、0057、0117
Yamaha	0007

CD

Acoustic Research	1295
ADC	0025、0065
Adcom	0205、0255、1015
Aiwa	0295、0945、1035、1055
Akai	0175、0485、0535
Audio-Technica	0545
BSR	0245、0655、0775
California Audio Lab	0055
Carver	0285、1135
Crown	0185
Denon	0275、0875、0885
Emerson	0205、0325、1105
Fisher	0095、0555、0925、1005
Garrard	0365
Genexxa	0305、0325、1105
Harman/Kardon	0105、0175、0465、0995
Hitachi	0195、0505、0205、0815
Kenwood	0045、0095、0405、0585、0725、0735、0745、0755、0895
Kyocera	0025
Luxman	0075、0425、0675、0705、0715、0985
Magnavox	0165、0215、0645、0955
Marantz	0375、0215、0235、0785、1345
Mcintosh	0355、1085
MCS	0905、1315
Memorex	0205、0225、0235、0305、0325、1105
Mission	0215
Mitsubishi	0135、0445
MTC	1255
NAD	0035、0615、0685、0695
Nakamichi	0125、0435、0515

<次ページへ続く>

メーカーコード一覧表

NEC	0255、0905、0965
Nikko	0545、1005
Onkyo	0155、0455、0495、0805、1155
Optimus	0225、0245、0555、0595、0845、0855、0865、0895、0935
Panasonic	0055、0825、1095、1125
Philips	0165、0215
Pioneer	0305、0935、1045
Proton	0215、1185
Quasar	0055
RCA	0205、0915、1115
Realistic	0205、0225、0235、0325、0555、0845
Revox	1175
Rotel	0215
SAE	0215
Sansui	0215、0625、0975、1025、1105
Sanyo	0145、0555、0635、0765
Scott	0325、1105
Sears	0345
Sharp	0235、0665、0895、1065、1075
Sherwood	0115、0235、0395、0475
Sony	0065、0565、0865、1145
STS	0025
Teac	0235、0335、0385、0525、0795、0835、1355
Technics	0055、0605、1095
Victor	0315
Wards	0175
Yamaha	0005、0015、0575、1065

MD

Yamaha	0024

テープデッキ

Aiwa	0094、0214、0224
Akai	0184
Carver	0094
Denon	0304
Fisher	0144
Garrard	0194、0204
Kenwood	0124、0134、0154、0234、0244、0264
Magnavox	0094
Marantz	0094、0344
Mitsubishi	0184
Onkyo	0364、0374
Optimus	0034、0064、0204、0334
Philips	0094
Pioneer	0034、0044、0064
Revox	0354
Sansui	0094、0344
Sharp	0264
Sherwood	0334
Sony	0054、0084、0324
Teac	0194、0254
Technics	0074、0314
Victor	0294
Wards	0034
Yamaha	0004、0014

故障かなと思ったら

本機を使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しないとき、あるいは下記以外で何か異常が認められましたら、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせ、サービスをご依頼ください。

- 本機を使用中に強い外来ノイズ(落雷、過大な静電気など)を受けたり、誤った操作をした場合などに、本機が正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、本機の電源を切り電源プラグをコンセントから抜き、約30秒後に再びつないで操作し直してください。

■アンプ／全般

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの接続が不完全	電源プラグをコンセントにしっかり差し込み直してください
	スピーカーコードがショートしている	電源コードを抜き、スピーカーの接続をやり直して再度電源コードを差し込みます
音が出ない	インプットセレクターが再生したい入力ソースにセットされていない	インプットセレクターで再生したい入力ソース名を表示させます
	MUTEキーが押されている(“MUTE ON”表示になっている)	リモコンのMUTEキーまたはリモコンのインプットセレクター、PRG＋／－キー、VOLUMEキー、EFFECTキーなどのうち、どのキーを押してもミューティングは解除され、音が出ます
	TAPE/MDモニターまたは外部デコーダー入力になっている	TAPE/MD MON/EXT. DECODERキーを何回か押してTAPE/MD MONインジケーターまたは“EXT. DECDR”表示を消してください(リモコンではインプットセレクターのTAPE/MDキーまたはEXT. DECキーを一度押します)
	ボリュームが絞られている	VOLUMEツマミ(またはリモコンのVOLUMEキー)で音量を上げてください
	接続が不完全	接続を確認してください
片方のスピーカーから音が出ない	接続が不完全	接続を確認してください
片方のメインスピーカーから音がでない	BALANCEがどちらか一方に回しきられている	BALANCEツマミで左右の音量バランスを調節してください
ハム音が出る	ピンプラグコードの接続が不完全	ピンプラグをしっかりと差し込み直してください
メインスピーカーから音が出ない	SPEAKERSスイッチが OFFになっている	SPEAKERSスイッチを押して、 ONにしてください
	接続が不完全	接続を確認してください
リア／センタースピーカーから音が出ない	EFFECT OFFになっている	EFFECTキーを押して、EFFECT OFF表示を消してください
	接続が不完全	接続を確認してください
センタースピーカーから音が出ない	センターモードがNONEになっている	センターモードを正しくセットしてください
	センターレベルが低い	センターレベルを上げてください
	音場プログラムNo.6～8を選択している	2チャンネルでエンコードされたドルビーデジタル信号、PCM信号およびアナログ信号再生時、音場プログラムNo.6～8では、センターの音は出ません
リアスピーカーから音が出ない	リアレベルが低い	リアレベルを上げてください
	音場プログラムNo.1またはNo.2でモノラルソースを再生している	他の音場プログラムを選択してください
本機を使用しているとテレビから雑音が出る	本機とテレビの設置場所が近すぎる	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴いていると、音が歪む	本機の電源が切れている	必ず本機の電源を入れてください
音場効果を加えた音が録音できない	本機のREC OUT端子に接続した録音機器で、音場効果を加えた音を録音することはできません	

＜次ページへ続く＞

故障かなと思ったら

■チューナー

FM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
“バリバリ”“ガリガリ”という雑音が入る	モーターバイクや自動車のイグニッションノイズをひろっている	FM屋外アンテナをできるだけ高く、道路から離れた位置に設置し、同軸ケーブルで接続してください
	サーモスタット付きの電気器具の雑音をひろっている	雑音を発生している電気器具に雑音防止器を取り付けてください
ステレオ放送になると雑音が多く聴きづらい	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合におきます	アンテナの接続を確認してください FM屋外アンテナを設置してください
オート選局ができない	FM放送の特性により、放送局から離れた地域やアンテナ入力が弱い場合におきます	屋外アンテナを多素子のものに変えてみてください
ステレオ放送を受信中、ステレオインジケーターが点滅し雑音が多い	受信している放送局の電波が弱い	マニュアル選局してください 受信地域の電界強度にあったアンテナを設置してください
	正しく選局されていない	もう一度選局してください
FM専用アンテナを使用しているが、音がひずむなど受信感度が悪い	ある種の妨害電波を受けている	アンテナの設置場所を変えてください
ステレオ放送なのにモノラル受信になってしまう	マニュアル選局モードになっている	TUNING MODEキーを押してAUTO TUNINGインジケーターを点灯させます
プリセット選局ができない	プリセット(メモリー)が消えている	もう一度プリセットしてください

AM放送受信時

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
音質が良くない (感度が悪い)	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全になっている	AMループアンテナを接続し直してください
オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全になっている	AMループアンテナの方向を変えてください マニュアル選局をしてみてください 屋外にAM 用のアンテナを張ってみてください
“ジー”“ザー”“ガリガリ”などの連続雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音をひろっている	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です
“ブンブン”“ヒューヒュー”などの雑音が入る	他の放送局による干渉を受けている 本機の近くでテレビを使用している	対策は困難です 本機からテレビを離してください

■リモコン

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
リモコンで操作できない	乾電池が消耗している	乾電池を4本とも交換してください
	リモコンと受光部の間に障害物がある	障害物を移動してください
	リモコンの操作範囲から外れている	本体のリモコン受光部に対して6m以内、角度30度以内の範囲で操作してください
	受光部に日光や照明(インバーター蛍光灯・ストロボライトなど)が当たっている	照明または本体の向きを変えてください
リモコンのキーで本機を操作できないものがある	リモコンがAMP/TUNERモード以外になっている	AMP/TUNERモードキーを押してから操作してください
リモコンで他社の機器を操作できない	メーカーコードが正しくプリセットされていない	メーカーコードをもういちどプリセットしなおしてください

参考仕様

オーディオ部

定格出力(20Hz〜20kHz,0.04%THD,6Ω)

メイン L/R	60W＋60W
センター	60W
リア L/R	60W＋60W

実用最大出力(1kHz,10%THD,6Ω)

メイン L/R	95W＋95W
センター	95W
リア L/R	95W＋95W

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM	2.5mV/47kΩ
CD他	150mV/47kΩ
EXTERNAL DECODER INPUT MAIN L/R, CENTER, SURROUND L/R, SUB WOOFER	150mV/47kΩ

最大許容入力(1kHz)

PHONO MM (0.1%THD)	100mV
CD他 (EFFECT ON, 0.5%THD)	2.2V

出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/1.2kΩ
SUB WOOFER (MAIN SP: SMALL)	4.0V/1.2kΩ

ヘッドホン出力／出力インピーダンス

CD他, 入力1kHz,150mV, 8Ω	0.4V/390Ω

周波数特性 (20Hz〜20kHz)

CD他 MAIN	0±0.5dB

RIAA偏差

PHONO MM	0±0.5dB

全高調波歪率

PHONO MM→REC OUT, 20Hz〜20kHz, 1V	0.02%
CD他 (EFFECT OFF)→MAIN SP OUT, 20Hz〜20kHz, 30W/8Ω	0.025%

信号対雑音比

PHONO MM (2.5mV入力ショート), REC OUT	80dB
CD他 (EFFECT OFF, 150mV入力ショート), SP OUT	96dB

チャンネルセパレーション(EFFECT OFF, VOL. −30dB)

PHONO MM (入力ショート, 1kHz/10kHz)	60/55dB
CD他 (5.1kΩ入力ショート, 1kHz/10kHz)	60/45dB

トーンコントロール特性

BASS　可変幅	±10dB(50Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE　可変幅	±10dB(20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz

フィルタ特性

MAIN, REAR SP: SMALL (H.P.F.)	fc=90Hz, 12dB/oct.
SUB WOOFER (L.P.F.)	fc=90Hz, 18dB/oct.

ダイナミックパワー

（メイン L/R, IHFダイナミックヘッドルーム測定による）

8Ω	70W＋70W
6Ω	85W＋85W
4Ω	105W＋105W
2Ω	130W＋130W

パワーバンド幅

（メインL/R, 0.1%THD, 30W/8Ω）	10Hz〜50kHz

ダンピングファクタ

（メインL/R, 20Hz〜20kHz, スピーカーA, 8Ω）	60

残留ノイズ（メインL/R SP OUT）	150μV

ビデオ部

ビデオ信号	1.0Vp-p/75Ω
最大許容入力	1.5Vp-p
S/N	50dB
モニターアウト周波数帯域	5Hz〜10MHz,−3dB

DSP部

DOLBY PRO LOGICデコーダ	YAMAHA YSS908-F (1)
RAM	1Mbit SRAM (1)
センターモード	ラージ／スモール／ノン
テストトーン	L→C→R→RS (R)→RS (L)

プログラム数

HiFi DSP	3
CINEMA DSP	6
DOLBY PRO LOGIC	1
DOLBY DIGITAL	1

入出力部

入力端子

デジタル音声信号	同軸1 (DVD/LD) 光2 (DVD/LD, TV/DBS)
アナログ音声信号	8 (PHONO, TUNER, CD, TAPE/MD, DVD/LD, TV/DBS, VCR, VIDEO AUX)
外部デコーダー6CH音声信号	1
コンポジット映像信号	4 (DVD/LD, TV/DBS, VCR, VIDEO AUX)

出力端子

REC OUT	音声信号	2 (TAPE/MD,VCR)
	コンポジット映像信号	1(VCR)
OUTPUT	音声信号	1(サブウーファー)
ビデオモニター		コンポジット: 1

スピーカー出力端子	メインL/R(A/B) センター リアL/R

<次ページへ続く>

参考仕様

チューナー部

＜AM＞

受信周波数範囲	531～1611kHz
実用感度	300μV/m
SN比	52dB
アンテナ	ループアンテナ

＜FM＞

受信周波数範囲	76.0～90.0MHz
50dB S/N感度（1kHz, 100%変調）	
MONO	1.6μV（15.3dBf）
STEREO	23μV（38.5dBf）
実効選択度（±400kHz）	75dB
SN比	
MONO	81dB
STEREO	75dB
歪率（1kHz）	
MONO	0.1%
STEREO	0.2%
ステレオセパーレション（1kHz）	48dB
周波数特性（20Hz～15kHz）	0±1dB
アンテナ入力	75Ωアンバランスド

＜オーディオ＞

出力レベル/インピーダンス	
FM（100%変調、1kHz）	550mV
AM（30%変調、1kHz）	150mV

総合

電源電圧	AC100V 50/60Hz
消費電力	200W
ACアウトレット	SWITCHED×2 TOTAL 100Wmax
寸法 (W×H×D)	435×151×391mm
重量	11.5kg
付属品	リモコン、単4乾電池(4本)、リモコン操作チャート、FM簡易アンテナ、AMループアンテナ

＊仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機は、電気用品取締法に定める技術基準に適合しています。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。
＊「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
- ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

ヤマハAV製品に対するお問合せ窓口
AVお客様ご相談センター
TEL (03) 5488－5500

■ ヤマハ電気音響製品サービス拠点
(ヤマハAV製品の故障に関するご相談窓口および修理受付、修理品お持ち込み窓口)

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙　台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒211-0025	川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434 - 3100
東　京	(お持ち込み修理のみ取扱い) 〒108-8568	東京都港区高輪2-17-11 TEL (03) 5488 - 6625
浜　松	〒435-0048	浜松市上西町911　ヤマハ(株)宮竹工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 6877 - 5262
広　島	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL (082) 874 - 3787
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 ヤマハミュージック神戸高松店内 TEL (087) 822 - 3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用の本機の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV機器事業部
営　業　部 TEL (053) 460－3451
品質保証室 TEL (053) 460－3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

YAMAHA

Printed in Malaysia **** V342040

リモコン操作チャート

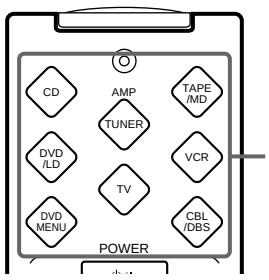
本機のリモコンでは、ヤマハ各機器の操作はもちろんのこと、他メーカーの機器もそれぞれのメーカーコードをプリセットすると操作することができます。

ご注意

他社のメーカーコードをプリセットした場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

操作モードについて

本機のリモコンで本機および各機器を操作するには、まずモードキーで選んでから操作します。



リモコンの操作モードを選びます。

AMP/TUNER モードキー： 本機の操作

CDモードキー： ヤマハのCDの操作

TAPE/MD モードキー： ヤマハのテープデッキの操作

DVD/LD モードキー： DVDの操作

VCR モードキー： ビデオの操作

DVD MENU モードキー： DVD MENUの操作

CBL/DBS モードキー： ケーブルテレビの操作

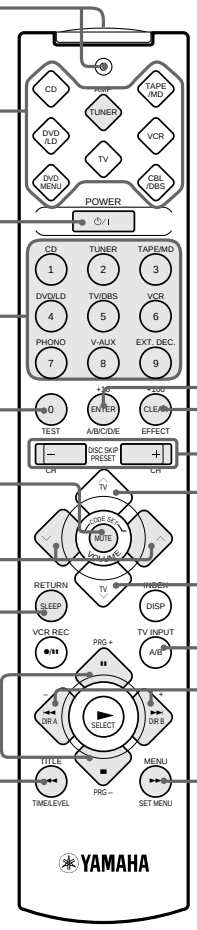
TV モードキー： テレビの操作

メモ

AMP/TUNER以外のモードキーには、ヤマハ製品を含む各社のオーディオ、ビデオ機器のメーカーコードをプリセットして操作することができます。

アンプ／チューナーポジション

本機の操作ができます。



送信窓／送信インジケーター
リモコンのコントロール信号を送信する。正しく送信されると送信インジケーターが光る。

モードキー
リモコン操作したい機器を選ぶ。本機を操作するときは、AMP/TUNERモードを押してから操作する。

POWERキー
本機の電源を入／切する。

インプットセレクター

TESTキー
テストトーンを入／切する。

MUTEキー
本機の音を一時的に消す。解除するにはMUTEキーをもう一度押すか、リモコンのいずれかのキーを操作する。

VOLUMEキー
全体の音量を調節する。

SLEEPキー
スリープタイマーを設定する。

PRG ＋／－キー
音場プログラムを選ぶ。

TIME/LEVELキー
ディレイタイム、スピーカー出力を調整するときに押す。

A/B/C/D/Eキー
本機のプリセットグループを選ぶ。

EFFECTキー
音場プログラムの効果を入／切する。

CH－／＋キー
本機のプリセットされた放送局を選ぶ。

TVのコードをプリセットするとテレビの音量調節ができる。

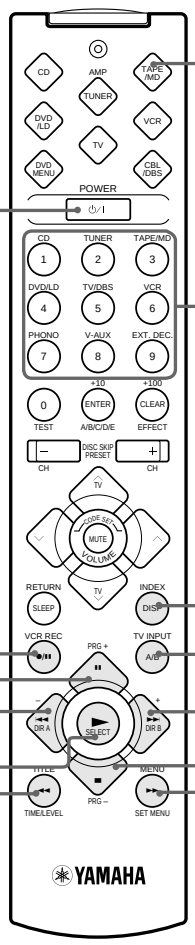
TVのコードをプリセットするとテレビの入力切り換えができる。

セットメニュー設定キー／タイム・レベル調節キー

SET MENUキー
セットメニューの項目を選ぶときに押す。

TAPE/MDモード

ヤマハのテープデッキが操作できます。
MDを操作する場合は、MDコードをプリセットしてください。



TAPE/MD モードキー

テープデッキまたはMDの電源が入る（工場出荷時0004およびヤマハのMDコード0024またはテープデッキコード0014をプリセットすると、本機の電源のみが入ります。）

インプットセレクター

ディスプレイ表示（MDのみ）

REC/PAUSE

デッキA/B

一時停止（MDのみ）

DIR A（TAPE）曲の頭に戻る（MD）

DIR B（TAPE）次の曲の頭へ進む（MD）

再生

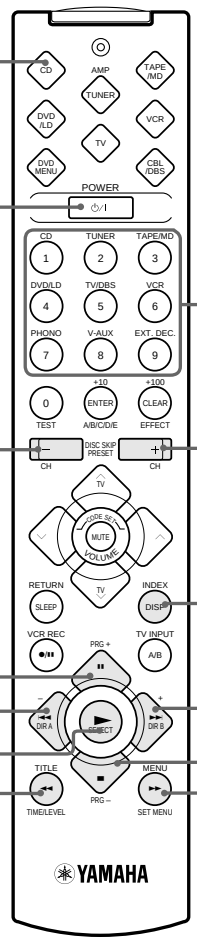
停止

◀◀方向の早送り

▶▶方向の早送り

CDモード

ヤマハのCDが操作できます。



CDモードキー

CDの電源が入る（工場出荷時0005およびヤマハのCDコード0015、0575をプリセットすると、本機の電源のみが入ります。）

インプットセレクター

下方向のディスクスキップ（CDチェンジャーのみ）

上方向のディスクスキップ（CDチェンジャーのみ）

CDディスプレイ表示

***1ポーズ／停止**

曲の頭に戻る

次の曲の頭に進む

再生

***2ポーズ／停止**

前方向のスピードサーチ

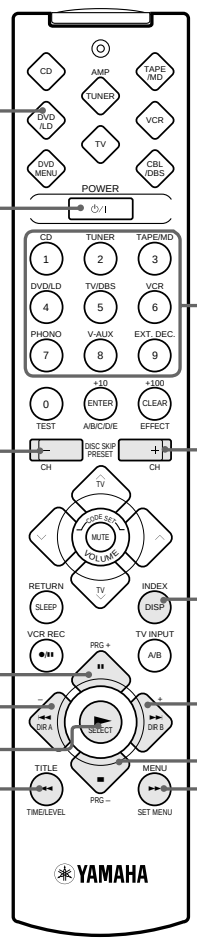
後方向のスピードサーチ

*1 ▮▮キーについて
工場出荷時0005およびヤマハのCDコード0575をプリセットすると、▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

*2 ■キーについて
工場出荷時0005およびヤマハのCDコード0015、0575をプリセットすると、▮▮/■（ポーズ／停止）キーとしてはたらきます。

DVD/LDモード

DVDが操作できます。DVDメニューを操作するときは、DVD MENUモードに切り換えます。
LDを操作する場合は、LDコードをDVD/LDモードキーにプリセットしてください。



DVD/LDモードキー

DVDの電源が入る（工場出荷時0008およびヤマハのLDコード0007をプリセットすると、本機の電源のみが入ります。）

インプットセレクター

下方向のディスクスキップ（DVDチェンジャーのみ）

上方向のディスクスキップ（DVDチェンジャーのみ）

DVDディスプレイの表示

ポーズ

トラック/チャプターの頭に戻る

次のトラック／チャプターに進む

再生

停止

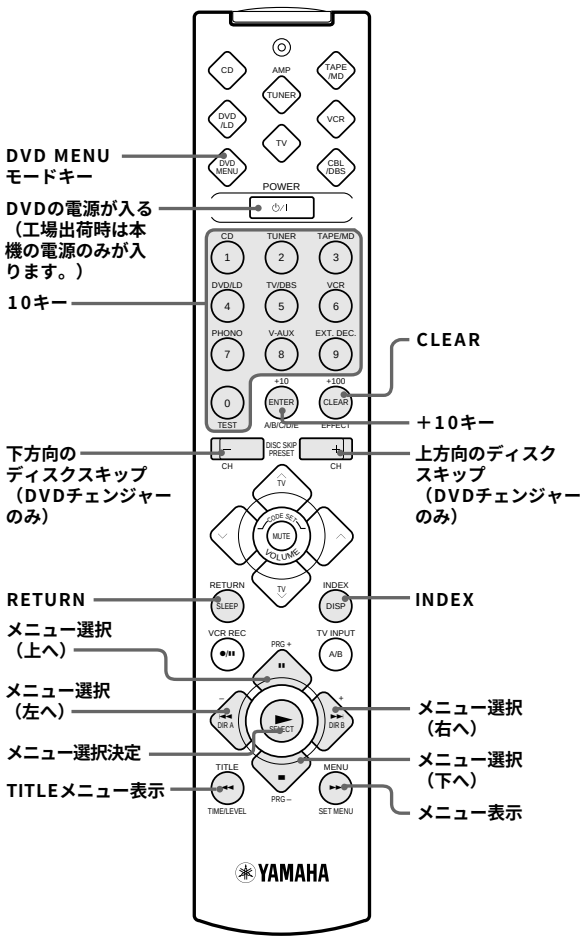
◀◀

▶▶

リモコン操作チャート

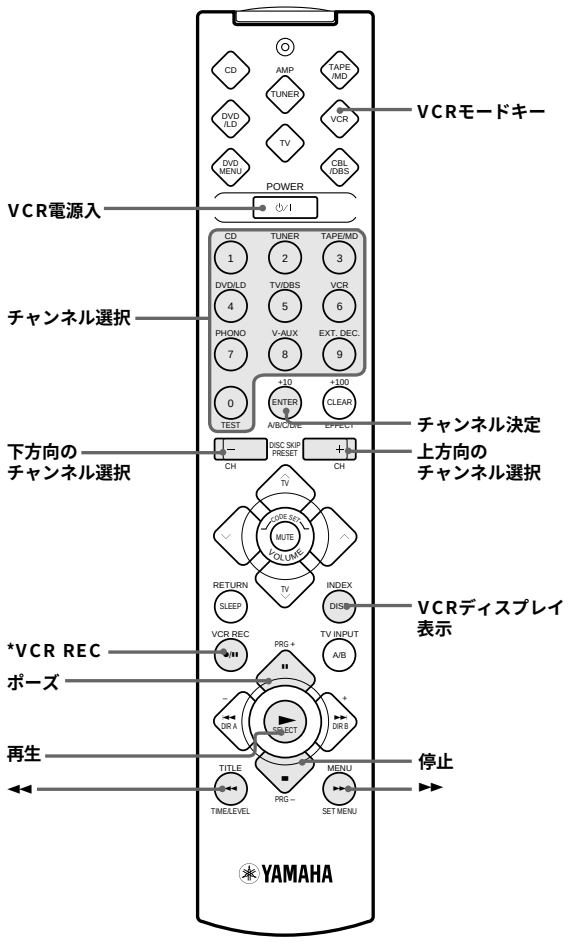
DVD MENUモード

DVDメニューが操作できます。



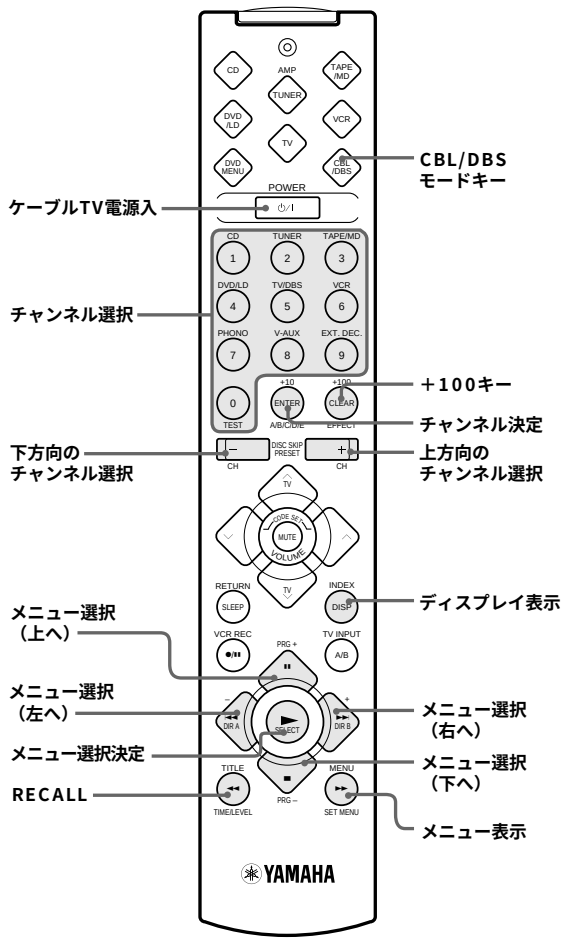
VCRモード

VCRコードをプリセットした後に操作できます。



CBL/DBSモード

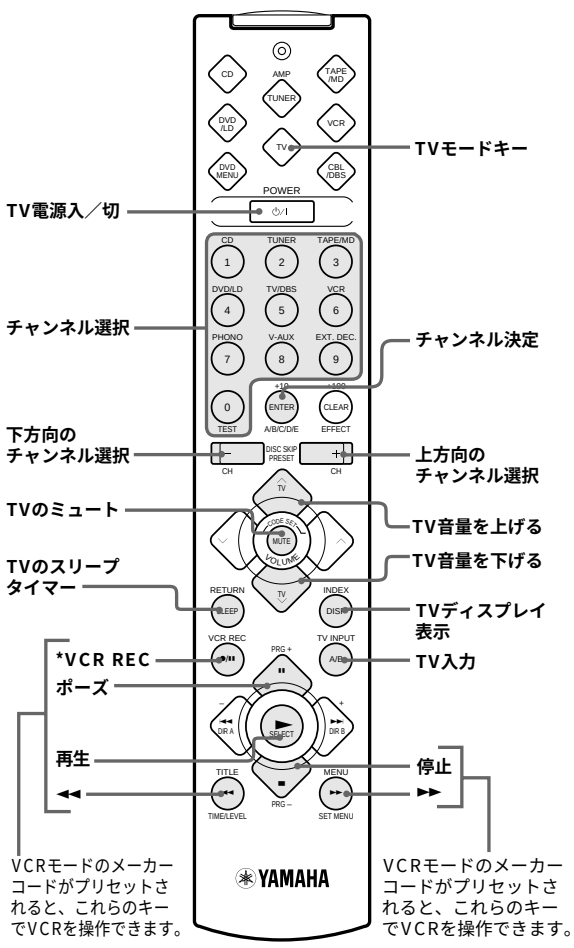
ケーブルTVのコードをプリセットした後に操作できます。



* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

TVモード

TVコードをプリセットした後に操作できます。



* VCR RECキーは2回押すことで操作信号が出力されます。

くわしくは、本機の取扱説明書をご覧ください。また、本機以外の機器を操作する場合、機種によっては操作できないもの、操作方法が異なるものもありますので各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。